

静岡県における

地域福祉活動の

事例集

静岡県・(福)静岡県社会福祉協議会

はじめに

少子高齢化の進行とともに、単身世帯も増加する中、地域のつながりの希薄化や相互扶助機能の弱体化から来る孤独や孤立が様々な形で社会問題となって現れてきています。

一方で、高齢者や障がいのある方の自立と社会参加への意識が高まるとともに、東日本大震災を契機に地域の絆や人と人とのつながりによる助け合い、支え合いの大切さが再認識されてきています。

静岡県及び静岡県社会福祉協議会では、県内の地域福祉活動が一層促進されるよう、それぞれの地域で既実践されている様々な活動を紹介し、新たに取り組みを始めたり、活動に参加したりするきっかけとなるよう事例集を作成しました。

この事例集の活動例を参考にして、皆様の地域福祉活動に対する理解が深まり、それぞれの地域で見守りや支え合い、居場所づくりなど、様々な取り組みの輪がさらに広がっていくことを願っています。

最後になりますが、本事例集の作成にあたりご協力いただきました多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

静岡県・静岡県社会福祉協議会

目 次

はじめに

地域福祉活動の事例 1

○居場所

大賀茂ほたる便健康教室／NPO 法人クープ／NPO 法人天城こどもネットワーク／精神保健福祉ボランティア沼津ほのぼの会／NPO 法人まごころサービス静岡東部センター／笑顔会／ぬくもり会／寄り場まつもと／プレイグループなめり／NPO 法人泉の会／NPO 法人清水ネット／駄菓子屋カフェ／地球のこえ／まちカフェ SHIMIZU／宮方こども園／中山間地子ども支援サークル「みんなのこ」／ママサロンはな／NPO 法人たすけあい遠州／NPO 法人ねっとわあくアミダス／上阿多古地区社会福祉協議会／伊豆・松崎・であい村 蔵ら

○見守り 42

見守り隊／下田小学校区安全会議／伊豆の国市民生委員児童委員協議会／大平地区社会福祉協議会／川根本町赤十字奉仕団／西山口地区福祉協議会

○支え合い 53

家具固定ボランティアグループ家具やしめ隊／NPO 法人生き生きネットワーク／庵原地区社会福祉協議会／駒越地区社会福祉協議会／浪蔵劇団／大洲地区社会福祉協議会／浅羽東地区地域福祉推進委員会／蒲地区社会福祉協議会／NPO 法人ねっとわあくアミダス

○福祉教育 71

富士岡地域福祉推進委員会富士見原支部／宅老所みんなの家／庵原地区社会福祉協議会

○子育て支援 77

生活協同組合コープしずおか／NPO 法人だっことおんぶの研究所／ポコアポコ／まいせるふ／NPO 法人まちなびや／第三小学校区地区社会福祉協議会／しまだ次世代育成支援ネットワーク／NPO 法人ポレポレ

○人と人とのつながり等 93

NPO 法人めぐみ会／NPO 法人グラウンドワーク三島／裾野市民生委員児童委員協議会／NPO 法人日本沼津災害救援ボランティアの会／西伊豆いろは組／ドラムサークル悠遊会／社会福祉法人ハルモニア／NPO 法人ベアーズ／そんだもんで東（小笠東地区地域サポーターグループ）／南部地区民生委員児童委員協議会／社会福祉法人湖西市社会福祉協議会／賀茂女（かもめ）会／ありがとうのこだま

○市町社会福祉協議会の取組 117

伊豆の国市／東伊豆町／南伊豆町／沼津市／御殿場市／清水町／焼津市／牧之原市／御前崎市／湖西市

地域福祉活動を始めるとに当たって 129

助成金情報 133

市町行政・社協の問い合わせ先一覧 134

地域別活動一覧 135

高齢期を元気に！～閉じこもいや寝たきりにならず、高齢期を楽しく過ごそう～

大賀茂ほたる便健康教室

所在地：下田市大賀茂（大賀茂区公会堂）

連絡先：0558-22-5795

代表者：増田 悦子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

下田市大賀茂地区在住の高齢者の方々を対象に、区公会堂にて教室を開催しています。年度初めに計画を立てますが、マンネリにならないよう、情報収集には力を入れています。
〈平成 23 年度活動計画〉

【活動日・時間】

月 1 回
第 2 木曜日 13:00～15:00

【利用方法】

「大賀茂ほたる便健康教室だより」に掲載している年間計画を事前に確認の上、ご参加ください。

月 日	内 容
5 月	開講式 はつらつ劇団による「オレオレ詐欺」の公演 下田警察署生活安全課からのお話
6 月	野外研修 稲取「伊豆アニマルキングダム」
7 月	歌声喫茶 楽しい遊び 大賀茂保育園児とのふれあい
9 月	陶芸 小鉢・皿・大皿（絵付け）
10 月	曹洞院 北山住職の講話 曹洞院のルーツと癒しの時間 フルート演奏
11 月	大賀茂小学校フェスティバル参加
12 月	年賀状作り（貼り絵）
1 月	“七草粥を食べて今年も元気に、楽しいひとときを” 女性の会参加
2 月	懐かしの映画館
3 月	閉講式 お楽しみ会



活 動 を 始 め た 経 緯

ほたる便健康教室は、県の地域サポート事業（県地域女性団体連絡会）の一環として始まり、平成 11 年、女性の会会員 3 名と地域ボランティア 3 名の計 6 名で、独居老人の生活支援や話し相手等を柱に活動に取り組みました。事業は平成 13 年に終了しましたが、3 年間の活動で確かな手ごたえを感じ、新たな組織を立ち上げることとなりました。

地域の 75 歳以上の方に案内状を出し、参加を呼びかけたところ、20 名の申し込みを得、「大賀茂ほたる便健康教室」が誕生しました。当初は年 6 回だった教室も、次第に数を増し、平成 23 年には 10 回を数えるようになりました。現在、回覧板で「大賀茂ほたる便健康教室だより」を配布し、会員・スタッフの募集を呼びかけています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

大賀茂地区公会堂

会員（利用者）28名

地域スタッフ 10名

送迎 1名

保健師（下田市健康増進課） 1名

※血圧測定等行います。

【運営経費】

年会費 1,000円（スタッフも拠出）

補助金 大賀茂地区 30,000円

下田市女性の会 10,000円

※地域での活動が認められ、補助金をいただけるようになりました。

【大切にしていること】

☆スタッフみんなが主役

- ・活動内容は、年度初めにスタッフ全員が情報等を持ち寄り、全員で年間計画を立てています。
- ・教室は、月別担当者を中心に進行や反省会を行い、次回の運営方法等を話し合っており、次の担当者へバトンタッチします。
- ・会長の任期は約3年として、誰でも交替できるようにスタッフ全員で支え合って運営しています。まずスタッフ自身が楽しんで協力していく事が大切で、幸いにも現在とても良い状況にあるので、ずっと大事にしていきたいと思っています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

開講式に大賀茂地区長、民生委員、市社協等をお呼びして活動風景を見ていただき、様々な応援を賜っています。また、行政からは保健師（血圧測定）の派遣やマイクロバス（野外研修用）の借入を協力いただいています。送迎を5年間継続してくださっている方もおり、発足後13年、協力いただいた会員さんには感謝の気持ちで一杯です。

23年10月には、「曹洞院（大賀茂）住職の講話とフルート演奏」を行うことができました。（区民の方も17名が参加してくださいました）会員と共に非日常的空間を堪能していただき、大変喜んでもらうことができました。

利用者のこえ

- ・楽しくて、楽しくて教室が待ち遠しいです。
 - ・歌や手遊び、ゲーム等して昔を思い出すよ。
 - ・ほたる便に出席した夜は、体があつたかいよ。
- ☆歩くことが不自由になり、ベッド生活になった会員を訪れた時
「もう一度ほたる便にいきたいよ」と声をかけていただきました。「ありがとう」とお礼すると共に、やってきて良かったと思いました。

運営者からのメッセージ



- ・スタッフの気持ちが一つになっており、活動が苦になりません。「自分たち」も楽しむ！
- ・教室が笑い声で一杯。大切なことです。
- ・教室終了後、「楽しかったよ。ありがとう」と手を振って笑顔で帰っていく姿に、明日への力をもらいます。
「あ～今日も楽しかった！」
自分へのごほうびにもなっています。

笑顔がこぼれる おいしさです！

クープのお店 クーピース(Cuopy's)

所在：伊東市中央町3-9 アコビル1階

連絡先：0557-38-3270

代表者：堀野 真喜子（管理者）



活 動 内 容

【活動地域・内容】

伊東市街地の中心の商店街にお店を構え、利用者と職員と一緒に、お菓子製造や販売をし、地域のお客様と直接ふれあい交流の場となっています。

菓子の製造販売と同法人内の授産製品の販売を行っています。

【対象者】

地域の方や観光で来られた方など、どなたでもお気軽にお寄りください。



【活動日・利用時間】

営業時間：午前10時～午後5時

定休日：毎週水・日曜日

【メニュー】

・マドレーヌ カップ

プレーン 70円

ココア、レーズン、マロン、ピール

各80円

・プチマドレーヌ(6個入)

200～250円

・ガトートロワジュ、サブレ 100円～

※伊豆急電車2100系「リゾート21」型スペシャルパックを発売しています。伊豆のお土産に最適です。

活 動 を 始 め た 経 緯

平成19年4月1日、小規模授産所から川合農園・コルティーホと一緒に、法人に移行しました。6つの事業所の頭文字を取り、NPO法人『CUOOP』（クープ）としました。各事業所では、就労に必要な知識や能力の向上の為、訓練や求職活動に関する支援や職場の開拓等の支援を行っています。

その中の「ふれあい喫茶オレンジ」では、喫茶業務の他にマドレーヌの製造販売をしていましたが、手狭だった為、昨年3月、空き店舗を借りました。クープのお店「クーピース」の店頭では、マドレーヌの製造販売と他事業所の授産製品の販売を始めました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

伊東キネマ通り商店街の中の空き店舗を借りて、店舗を運営しています。

職員 2名（交代制）

パート職員 1名

授産所の利用者2～3名で店番をしています。

【運営経費】

日本財団の助成、伊東市の補助を受け、調理室、ショーケース、障害者トイレを設置しました。

【大切にしていること】

仕事をしていく上で大事なことは、笑顔・挨拶・思いやりです。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

商店街の中心に店舗をかまえたことで、お客様に事業所の事を知ってもらい、利用者は地域のお客様と接し、働くことの大切さと喜びを学び、地域で生活をしていく手助けになれるよう努力しています。

焼き菓子もお客様に愛され、「おいしい！」と言って頂けるように頑張っています。



利用者のこえ



- ★マドレーヌ作り、毎日楽しいです。
- ★粉ふり、計量、袋詰め、シール貼りなど、色々なお仕事があります。
- ★レジ打ちも頑張っています。



運営者からのメッセージ

地域の方に支えられています。
私たちが心を込めて作っているマドレーヌを、いつまでも愛していただけると、これからも利用者の方々と頑張っていきますので、よろしくお願い致します。

こどもの瞳かがやく街に！「～遊びと学びの空間～にじの子広場」

NPO法人天城子どもネットワーク

所在：伊豆市柏久保631-1

連絡先：0558-72-7731

代表者：田所 雅子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

○自然体験活動

・森のプレーパーク

場 所：天城遊遊の森

日 時：4～12月までの第二日曜日

10:00～15:00

対象者：赤ちゃんからお年寄りまで誰でも

参加費：1回3,000円

内 容：特に決められたプログラムはありません。参加者みんなで協力し、楽しく進めていきます。子どもの成長を大勢で見守り、共感し、分かち合いましょう。

・遊遊の森クラブ

場 所：天城遊遊の森

日 時：毎月第4日曜日

対象者：小学生以上（子どものみ）

参加費：1回3,000円（初回登録料3,000円）

内 容：森の専門家が独自のプログラムを提供します。協力しあうこと、共感することの心地よさを味わい、仲間作りを進めます。

○文化活動

・こどものまち～にじの子タウン～

場 所：伊豆の国市大仁市民会館

日 時：2012年3月24日、25日

対象者：小学生以上（子どものみ）

参加費：市民税として1日500円

内 容：こどもが自分で考え、決まりをつくり、働き、遊ぶまちです。

・こども広場（チルドレンズミュージアム）

場 所：東京ラスク伊豆ファクトリー2階

日 時：月に3～4回（土曜日）

参加費：一人3,000円

内 容：木のおもちゃ等で自由に遊べます。

活 動 を 始 め た 経 緯

平成13年より、「天城プレーパークの会」「田方おやこ劇場」を中心に、いくつかの団体と緩やかにつながり、「子どもたちが豊かに育っていく上で大切なことは何か」を真剣に議論しながら活動してきました。それぞれの団体が、豊かな文化と芸術に触れ、自然の中で仲間と自由に遊ぶことによって、こどもたちが

自ら育つ力を発揮できるような環境づくりを進めてきたのです。こうした活動をさらに広げていくために、新たに特定非営利活動法人「天城子どもネットワーク」を設立し、子どもたちと共に力を合わせ、「にじの子広場（子育て空間）」をつくり、子どもたちが豊かに育つ街づくりを目指しています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

修善寺駅前の商店街の空き店舗を改装し、子どもたちの居場所兼事務所として、運営委員 11 人で運営しています。その他、沢山の会員さんたちが、それぞれのイベントごとに、ボランティアスタッフとして働いています。

【運営経費】

年会費 3,000 円 助成金他

【大切にしていること】

子育て支援団体ではありますが、私たちは子どもの自ら育つ力を信じて、「子育て」を支援する活動を提供しています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

自由にのびのび育つ場として周知されるようになり、現在の子育て環境に満足できない方々が、各プログラムに参加してくれます。「こども広場」には毎回 100 名以上の参加者があり、「こどものまち」は 2 日間で 500 名の以上の参加があります。



TV 紹介

2009 年 3 月 テレビ静岡で取材・放送
2011 年 5 月 NHK 全国「ひるブラ」に出演
2008 年 2 月 静岡あさひTV「スマイルキッズ」に出演

受賞歴

2006 年 4 月 こども環境学会活動奨励賞
2007 年 10 月 県教育委員会より「優良協議会」として表彰
2008 年 2 月 県子ども未来大賞特別賞受賞

運営者からのメッセージ



参加者のこえ

- 木のおもちゃで夢中になって遊ぶ子どもをみて、いい環境を与えればゲーム機がなくても遊べるということがわかりました。
- 最初は何にもなくて何していいのかわかりませんでした。子どもが楽しそうに遊び始めたので親の方もついて遊び、森遊びにはまりました。
- 仕事をして稼ぐのが楽しかった。

20 年間活動を続けてきて、子どもたちの育つ環境が決してよくなっていない、むしろ子どもが育ちづらい環境になってしまったことを憂えます。子育て支援をつなぎ、環境を豊かにする努力を続けなければならないと思っています。

自分の得意分野を活かし、ボランティアを楽しみませんか？

精神保健福祉ボランティア 沼津 ほのぼの会

所在地：沼津市本田町4-18 水野方
連絡先：055-921-6337
代表者：水野 明美



活動拠点：サンウェルぬまづ

活 動 内 容

【活動地域・内容】

沼津市近隣の精神障がい者の方々の支援をしています。

@サンウェルぬまづ…地域の方々との交流を図るため、誰でも参加できる七夕会やクリスマス会を開催しています。

@サポートセンター「なかせ」…精神障がい者の方々と、サロン活動やバーベキュー、輪投げ等を楽しんでいます。悩み相談にも応じています。

@就労支援施設「まつあかり」…喫茶運営やパン作りのお手伝い、新年交流会等を開催しています。

※この他、共生会「きさらぎ」「すずらん」や地域生活支援センター「あゆみ橋」、家族会「まごころ会」支部会や、県東部精神障がい者の運動会「ハート&ハート」にも参加しています。

【利用方法】

サンウェルぬまづでの交流会については、申込みをすれば誰でも参加できます。「なかせ」でのサロン活動は、精神障がい者の方とボランティアが自由に交流しています。

【活動日・利用時間】

定例会：毎月第2金曜日 13:30～

サンウェルぬまづ3階

サロン活動：毎月第1土曜日 13:30～

サポートセンター「なかせ」

七夕交流会：7月第1土曜日

クリスマス交流会：12月第3土曜日

サンウェルぬまづ多目的ホール

その他「まつあかり」のボランティア随時

【利用料】

サンウェルぬまづでの交流会は無料です。サポートセンター「なかせ」での活動には、施設利用料100円がかかります。

活 動 を 始 め た 経 緯

沼津市主催「やさしい精神保健ボランティア養成講座」（平成2年）の受講者が、学びの成果を活かすべく結成したのが、「沼津ほのぼの会」です。「誰もが住みなれた町で安心して心豊かに暮らせる地域づくり」を目標に、それぞれ出来ることから始めたこの活動ですが、気が付けば今年で発足22年目を迎えます。

特に沼津市社会福祉協議会の皆様には、ボランティア養成講座の開催や会場提供など、いつもご協力をいただき感謝しています。震災後は体調を崩される精神障がい者の方も多いため、支援の必要性をますます感じている今日この頃です。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

沼津市の健康福祉プラザ「サンウェルぬまづ」を拠点に、サポートセンター「なかせ」や就労支援センター「まつあかり」等でボランティア活動をしています。

ほのぼの会は、スクールカウンセラーや主任児童委員、相談員、会社員、主婦等現在23名の会員で活動しています。交流会等では家族会（まごころ会）や施設スタッフ、地域の方々等、多くの応援や協力を頂いています。

【運営経費】 H23年度活動経費約278,000円
会員からの年会費一人1,000円と、賛助会費・寄付金の他、沼津市社協からの助成金20,000円、歳末たすけあい運動助成金50,000円、公益信託スクロール女性ボランティア基金からの助成金160,000円等で運営。

【大切にしていること】ボランティアも障がいを持っている人も、みんな同じ仲間として、一緒に行事や作業を楽しんでいます。自分の得意分野を活かし、無理せず、今できることに明るく笑顔で取り組んでいます。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

七夕交流会やクリスマス交流会には、沼津市内の精神関係施設からの参加者の他、民生委員や地域の方々等、120名程度の参加者がありました。笑いあり癒しありの有意義な時間の中で、精神障がい者への理解を深めていただくことができました。

また、「なかせ」でのサロン活動では常時30名以上の参加者があり、コミュニケーション能力の向上につながっています。



クリスマス交流会の様子

サポートセンター「なかせ」より

ボランティアと言えば、普通、他者が主催する活動の「お手伝い」が多いのですが、「ほのぼの会」さんは、自ら企画・運営し、皆が一丸となって参加する、新しいスタイルで活動を展開しています。障がいのある人もない人も自然なかたちでお付き合いできる、素晴らしい時間をつくりあげているのです。「ほのぼの会」さんの活動を通じて自信を持ち、積極的に地域に出て行ける人が増えてきたと感じています。「ほのぼの会」さんは、地域になくてはならない存在です。これからも末永くお付き合いいただければと思います。

運営者からのメッセージ

交流会やサロン活動にたくさんの人が参加して下さり、嬉しいです。「とても楽しかったよ」「ありがとう」「気持ちが楽になりました」等の言葉を頂くと、私たちボランティアも元気になり、また参加したいと思える企画を考えようと、意欲が湧いてきます。活動の場を提供して下さるサポートセンター「なかせ」さん等には、深く感謝しています。皆さんも、ボランティアと一緒に楽しみませんか？



「困ったときはお互いさま」と言えるお付き合いを目指して

寄り合い処・かぬき「暖だん」

所在：沼津市下香貫八重145-2

連絡先：055-935-6515

代表者：小林 廣子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

沼津市の香貫地区で、地域支え合いづくりの拠点となる寄り合い処を運営しています。地域の皆さんの支えになれるような居場所作りを目指しています。

【活動日・利用時間】

月～金（土・日・祝日休み）

午前 9：00～12：30

午後 12：30～16：00



【利用方法】

営業日なら何時お見えになっても良いです。曜日や日によって、手仕事（手芸・編み物）・足湯・買物ツアー等の計画があります。

参加したい時に、ご自由に参加して下さい。

【利用料】

半日 1回 1000円



活 動 を 始 め た 経 緯

高齢化が進み、地区社協の中で買い物難民と言われる人たちの問題がありました。地域に買い物をする所が無い為、買い物をサポートする必要があります。

東日本の災害地等の経験から、「隣近所が支え合える場所が欲しい」との声を聞き、また、高齢者の悩みや困った事を聞いていくうちに、皆の支えになりたいと思いました。

昔のご近所付き合いのような「困った時はお互いさま」と言えるお付き合いが、《寄り合い処・かぬき「暖だん」》の目標です。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

寄り合い処の開設にあたっては、地域の方に安らぐ場所の提供を受け、また、リフォームについても地元の大工さんの協力を得て、安価に出来ました。

現在、NPO 法人まごころサービス静岡東部センターの職員2名で運営しています。また、月に1度、地区社協の方たちと話し合いを持ち、運営を手伝ってもらっています。

【運営経費】

NPO 法人まごころサービス静岡東部センターからの補助（家賃・人件費）
野菜等の売上（置き賃・利用料等）

【大切にしていること】

- ・ 地域に根付くこと
- ・ 1人でも多くの方が「暖だん」があって良かったと思える場所にする

活 動 の 実 績 ・ 効 果

取り掛かりが大変でしたが、庭先で近所の農家の人たちの野菜を置いてもらいました。安価（100円）で売っていると、近所の方たちが買いに来るようになり、朝は沢山の人が来ます。『暖だん』があるから、この野菜の高い時期にとっても助かる」との声をいただいています。

また、これまで宅配弁当を1人で食べておられましたが、今では手押し車にお弁当を持って来られ、『暖だん』で食事をされるようになった方もいらっしゃいます。本当に楽しそうにおしゃべりをし、帰る時は「ありがとう」と嬉しそうに帰って行かれ、手を振って見送る私たちも嬉しくなります。『暖だん』には、「編み物を教えて」と教えてもらいに来る人もいますが、それぞれが自分の趣味の先生となり、教え合いながら様々な活動を行っています。そのため、近所の方たちの趣味を発表していただき、それを地元の新聞に載せてもらうこともあります。



運営者からのメッセージ



地域の方達の後押しで、町内の皆様にも存在を分かっていただけになりました。地域の方達の隠れた才能を見つけながら、また引出ながら運営していくつもりです。将来は、地域の皆さんの個性や技術をプロとして腕を磨きながら皆さんで運営していきたいと思います。

健康で生き生きとした生活を送り、地域の輪を広げよう！

いきいきサロン「^{ほほえみかい}笑顔会」

活動場所：賀茂郡南伊豆町下賀茂197-1

下賀茂公民館

代表者：吉沢かね子（笑顔会代表）



活 動 内 容

【活動地域・内容】

下賀茂区の在宅高齢者を対象に、介護予防・引きこもり防止等を目的としたいきいきサロンを運営しています。

主に下賀茂区公民館を活動の場として、健康チェックや趣味活動、レクリエーションを行っていますが、幼稚園への訪問や地域の行事への参加等地域との関わりを大切に活動に取り組んでいます。

【対象者】

下賀茂区在住の介護保険認定外の高齢者で、外出の機会が少ない方

※町の生きがい活動支援通所サービスの対象者として認定された方が対象となります。

【活動日・利用時間】

毎月第1金曜日

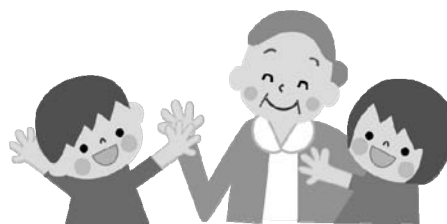
午前10時～12時

【利用料】

1回あたり 200円

【利用方法】

南伊豆町役場の福祉担当窓口にご相談ください。



活 動 を 始 め た 経 緯

高齢者が要介護状態になることなく、住み慣れた地域で健康に生き生きとした生活が送れるよう支援したいとの思いで、ボランティアグループ「笑顔会（ほほえみ会）」を立ち上げました。

町の在宅高齢者等介護予防・生活支援事業を活用し、「生きがい活動支援通所サービス」を実施しています。

現在はスタッフ7名で運営しています。

地域の方々の協力のもと活動を推進することにより、地域活動の輪をさらに広げていきたいと思っています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

下賀茂区公民館を活動の場とし、毎月第1金曜日に活動しています。(幼稚園への訪問や施設見学、地域の行事への参加等も行っています。)

運営は毎回5～6名のボランティアスタッフで行っています。

【運営経費】

社協在宅福祉推進費(町からの委託費)

- ・利用者1名1回あたり 600円
- ・年間活動経費 約14万円

【大切にしていること】

利用者・ボランティア共に協力し合い、笑顔の絶えない活動を心がけています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

活動日には毎回20名前後の利用者が参加し、健康チェックや趣味活動、レクリエーション、世代間交流等の活動を行っています。町の保健師さん等を講師として招き、頭の体操や手足の運動、認知症・老化予防等の講話を実施しています。

講話を聞いたり、地域の子どもたちとの交流活動を行ったりすることが、住み慣れた地域で生き生きと生活し、地域の人々との交流の輪を広げていくことに繋がっていると思われま。



利用者のこえ

外に出て、仲間や別世代の方たちとふれあったり、健康に対する教養を学んだりすることで、日々の生活が充実します。楽しく活動に参加させてもらい、ありがたいです。

運営者からのメッセージ



利用者の健康が一番に気になるところです。いつまでも元気で長生きされることを願い活動しています。若い方もボランティアに加わってくれる、活気あるサロンです。

しゃべって 笑って…それが元気の素

ボランティアグループ「めくもり会」

所在地：西伊豆町安良里452-1

連絡先：0558-56-0053

代表者：山本 とも子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

家の中に閉じこもりになりがちな一人住まいの高齢者が、町の施設「いこいの家」に集い、おしゃべりやゲーム、懐かしい童謡の合唱などで、楽しいひと時を過ごしています。



【対象者】

西伊豆町安良地区の高齢者

【利用方法】

開催日に来ていただければいつでも入会していただけます。

【利用料】

1人、1回100円

活 動 を 始 め た 経 緯

平成元年、当時私たちは町の保健委員として老人介護の研修など受けていました。これらの研修経験を生かし、何かお役に立てることはないかと委員の仲間と話していました。これといったアイデアもなく過ぎてきました。

平成2年、介護施設が充実していないわが町で、認知症の母を介護している方から「毎日気の休まることが無いので、たまには少しでもいいから面倒を見てくれるところがあったらいいな～」とのつぶやきを耳にしました。

それくらいのことならできるのではないかと、当時の保健委員が一人暮らしの高齢者や、家族が働きに出ている間、一人で過ごしている高齢者などに声をかけて参加者を募り、ボランティアグループ『めくもり会』が誕生しました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

自治会が管理している町の施設「いこいの家」の一室を利用しています。

活動時間は、毎月第1月曜日の午前10時～12時までの2時間です。

ボランティア7人で16人の高齢者のお相手をしています。

【運営経費】

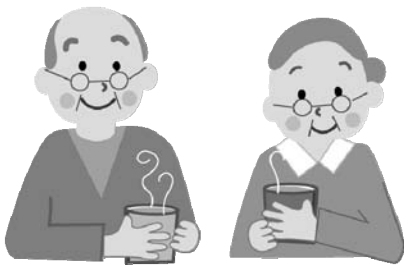
社会福祉協議会助成金 6万円

【大切にしていること】

おしゃべり、笑い、そして楽しみながらできる体操で、高齢者の健康維持を心がけています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

設立当初は、認知症高齢者のお相手をする「ぬくもり会」ということで、新たに参加希望者がいても、家族から「ぬくもり会」は認知症高齢者の集まりだから参加させられないとの偏見もあり、困惑した時期もありました。現在では、元気な高齢者の参加など、多くの方々の参加が得られ、楽しみながら開催しています。



おばあちゃんのコエ

普段会えない人たちと会うのが楽しみです。そして、大きな声で歌うのが好きなので、毎回楽しみだよ。

運営者からのメッセージ



レクリエーションの小物や古い歌の替え歌を作ったりしていると、参加されるおばあちゃんの笑顔を思い出したり、当日の反応を先取りして私自身が楽しんでいます。

地域みんなの“楽しい”をみつけよう♪

寄り場 まつもと

所在地：西伊豆町田子1515
連絡先：0558-55-0080
代表者：宮川 貴光



活 動 内 容

【目的】

子どもからお年寄りまで地域の方が気軽に集える場所で、高齢者のいきがづくりや閉じこもり予防、世代間交流などを目的としています。

【内容】

参加者同志がのんびりとお茶を飲みながら昔話で語り合ったり、時には一緒にお昼を作ったりします。趣味活動や制作活動などに積極的に取り組んでいます。

【対象者】

地域の人なら誰でも

【場所】

田子地区中心地にある空き店舗内

【開催日】

毎月第2水曜日

午前9時～午後12時

※昼食を取る時は延長します。

【利用料】

1回 200円



活 動 を 始 め た 経 緯

平成21年に社会福祉協議会が行った福祉座談会の中で、地域みんなが集まれる拠点が欲しいという声が上がリ、有志を募って高齢者サロンを作る準備をしてきました。ちょうど田子地区の真ん中にあたる場所に元書店を営んでいた空き店舗があり、場所の提供をお願いすると、快く許可してくれました。自治会や民生委員児童委員などの協力を得て、室内の改装や掃除を行い、平成23年10月

に初めてのサロンが開催されました。少子高齢化、過疎化、独居・高齢者世帯が増える田子地区において、昔ながらの地縁・血縁を活かし、日常的に行われている助け合いを広げ、地域全体で助け合いができる体制づくりや、見守りネットワークを構築するための拠点として、今後も地域のみなさんの協力を得ながら活動していきます。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

田子地区の中心地にある空き店舗（旧松本書店）を改装した『寄り場まつもと』で活動しています。

現在、15名のボランティア登録があり、1回のサロンに、3名のボランティアを配置しています。

【運営経費】

年会費 1人1,000円

参加費 200円/回

バザーなどの収益金、寄附金



【大切にしていること】

1. 地縁、血縁が薄くなっている現在、無理なく「お互いさま」と気軽に支えあえる絆が生まれる場所
2. 福祉や安心して暮らせる街づくり、それぞれの夢や願いを形にできる場所
3. 地域の皆さんが交流し、地域の皆さんが共有する自由な場所
4. 笑いにつつまれ、心豊かになれる場所

（約束ごと）

垣根をつくらない

誰が参加しても、誰？という目で見ない

お互いを否定しないで認め合う

陰で悪く言わない（仲間にはなれないから）

活 動 の 実 績 ・ 効 果

平成23年10月から始まったばかりなので、まだ目に見えるような効果はあがりませんが、参加者からは「来るのが楽しみなになったよ」「月1回じゃ物足りないな」などの声が上がってきています。



運営者からのメッセージ



田舎で昔ながらの近所の助け合いがいまだ残っている所ですが、時代も変わり、助け合いの形も変わらねばいけないと感じています。

地域の皆さんと一緒に地域の福祉課題に向き合っていけるそんな仲間が集まり、何でも実現できる場所になっていけば良いと思います。

地域の中でそだつ

プレイグループ なめい

所在地：静岡県駿東郡長泉町納米里公会堂
連絡先：納米里公会堂 055 (987) 8610
(木曜日・活動時間内)
代表者：久田 真奈子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

納米里地区を対象として、子育てを支援する活動を行っています。

【利用方法】

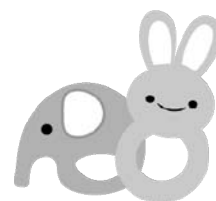
納米里区民の方が対象です
なるべく、子どもと歩いて来てください。
お菓子・オモチャの持ち込みは禁止です。
(おむすび・お茶はOKです)
いつ来ても、いつ帰っても良いです。

【活動日・利用時間】

毎週木曜日（通年）10時～昼過ぎころまで

【利用料】

参加費はいりません。
会食をした時のみ50円ほど（一家族）いただきます。



活 動 を 始 め た 経 緯

主人の仕事で、第1子は1987年三島市で出産、小山町で育児、また、1989年から3年間のイギリス滞在中には第2子（長女）を出産しました。現地での生活や出産、育児の不安は、長男の幼稚園のお母さん方や地域のプレイグループ活動で知り合った方々に助けていただいて、とても助かりました。

1995年からの4年間、長崎に滞在し、第3子（次女）を出産しました。ここでも子育て支援サークルがあり、多くの方に助けていただきました。私の故郷である長泉納米里に再び帰郷することが出来た時、「お世話になった分の

お礼は地域にお返ししたい、女性としての生き方の応援をしていきたい、子育ての経験の継承や、母親、女性とみんなの居場所を作りたい」と思い、2007年5月に「プレイグループなめい」を開設しました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

納米里公会堂の1、2階を利用しています。天気の良い日は公会堂横の公園で遊びます。スタッフは7名程で、子育てがひと段落し、自分も何かしたいと自発的に集まった方々です。毎回3、4名の参加があります。全員がボランティアですが、納米里地区だけでなく、長泉町の他の地区から、また、三島市から来ている方もいます。

【運営経費】

なめり区から活動費（オモチャ、粘土、写真代金等） 年間1万5千円

【大切にしていること】

日頃の些細なことでも、話すことによって子育ての不安が軽減するのではと考えているため、スタッフもママたちもお互いに語り合う時間を大切にしています。スタッフが楽しいと感じることが長続きのコツのようです。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

年間の利用述べ人数は、1,800人程度です。お母さん、お子さんだけでなく、おばあちゃんやお父さんも参加されていますよ。みんなでうどん、スパゲッティ、豚汁、焼き芋などを作って食べたり、小麦粉粘土を作って遊んだり、ピアノに合わせて歌い踊り、走り回っています。活動の効果はわかりませんが、お互いの子供たちの成長を見ることで、とても安心できるようです。



みんなおいで！楽しいよ！
(なめり公園にて)

お母さんたちのこえ

- ・初めての出産で、知り合いもいませんでした。公会堂へ来てママ友達が出来、色々と先生たちに相談にのっていただき、孤立しそうだったので、とてもありがたい場所です。
- ・産休、育休中ですが、このような場所があって、嬉しいです。色々な人と話しが出来て、病院や保育園のこと学校のことなども聞けて助かります。
- ・子どものことを聞いてもらったり、料理を教えてもらったり、自分の子より大きな子どものお母さんから成長の話などが聞けて安心できます。楽しいです。



余暇を楽しむ主役になろう！

活き生きサロン「寄ってっ亭」

所在地：静岡市清水区追分 3-5-17

電話：054-367-2878 NPO 法人 泉の会

054-367-7213 おいさんケアネット(通称)

管理者：藤下品子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

誰もが気軽に活用出来る場所を提供しています。

手芸、囲碁、太極拳、習字等趣味を楽しむ一角に「おいさんケアネット」の事務所を置き、民生委員を中心に住民の見守り支えあいネットワークを立ち上げました。

【利用方法】

一階スペースは通りがかりに自由に寄っていただけます。二階は前もって利用日を予約して下さい。

【活動日・利用時間】

日曜・祝日を除く午前9時～午後4時

※利用日時は相談に応じます。

【利用料】

基本的には無料。

但し先生が受講料をとって行う教室は1回500円をいただきます。



活 動 を 始 め た 経 緯

NPO 法人泉の会は、発足当時(平成1年)から「住み慣れた地域で暮す」ことをテーマに、ボランティアで活動を始めました。平成12年、法人格を取得して介護保険事業に参入しましたが、予防介護の必要性を感じ、平成20年からは趣味やおしゃべりを通じて健康維持する「居場所作り」に取り組み始めました。

(介護事業に当たっていたスタッフも年齢を重ね、リタイアした時、行き場がないと困るということで開いたのが本音ですが…)

現在は、安心して住み続けることが出来る地域づくりを目指し、民生委員を中心に「おいさん・えびすケア会議」(通称おいさんケアネット)を立ち上げるに至りました。

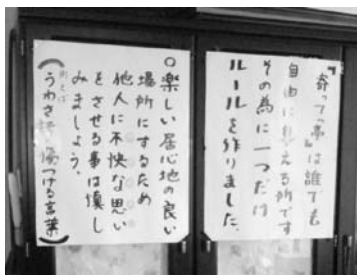


運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

NPO 法人泉の会の介護ホーム「わたしのうち」に隣接してサロンを開設。

誰もが皆、利用者であると同時に、ボランティア運営者でもあります。



【運営経費】

古い和服をリフォームした洋服、趣味で作った小物、近くの農家の野菜などを販売して売上金を活用。

【大切にしていること】

誰もが自由に利用出来る場所ですので、お互い他人に不快な思いをさせないことを心掛けています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

ひきこもりになったうつ状態の方が、あるきっかけから当サロンを利用し、元気になりました。その方は、今では売り子ボランティアとして、明るく活躍してくれています。一ヶ月の利用者数は、通りがかりに一寸話をしていく人を除き、延べ 150 人程度です。日々の活動の中で、利用者は生活の「質」を大きく向上させることができます。例えば、囲碁の人は教えたり教えられたり腕をあげていますし、太極拳の人

は普段使わない筋肉を使い、運動不足解消に役立っています。



運営者からのメッセージ

利用者のこえ

元気で忙しく過ごしていた頃は、サロンの存在を知ってはいたけれど特に利用することはありませんでした。年を重ねて暇ができ、代わりに元気がなくなってからは、なくてはならない場所となりました。

同じような人と気楽に話し合える場所は近所がないので、とても助かります。自分の居場所が出来てありがたいです。

生き生きサロン「寄ってっ亭」

は自分たちで楽しむ場所を提供するのが目的です。

〇〇教室というようにやりたいことを与えられるのではなく、自分で楽しみを見つけ、自主的に活用して下さい。



自覚して行動する市民に！～民設民営の市民センターを運営～

オープン・スペース「清水ネット」

所在地：静岡市清水区下野緑町17-11

電話：054-340-1013

代表理事：鍋倉 伸子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

大人同士が絆を結び、深めるために、昼の「ランチトーク」、夕方の「ゆうぐれカフェ」を交互に開催。年に数回「夢の玉手箱」の企画で、郷土史・和服のリフォーム・年金問題など講師を囲んで話がはずみます。年1回「清水ネット発！市民フォーラム」を開催し、地域の課題を市民と共に考えます。

オープン・スペースは会議室としても貸し出しており、印刷機やパソコン教室等誰もが気軽に利用できます。NPO 設立相談も行います。

【利用方法】

「ランチトーク」「ゆうぐれカフェ」は事前申込みが必要です。会議室・印刷・パソコン教室・NPO 設立相談の申込みは随時。

【活動日・利用時間】

月曜日～土曜日 10:00～17:00

(日曜祭日と年末年始に休館)

【利用料】

会議室（和室・洋室）

10:00～12:00 500円

13:00～17:00 700円

18:00～21:00 800円

印刷機（紙は持ち込み）

会員 製版1枚50円 印刷1枚0.5円

会員外 製版1枚50円 印刷1枚2円

パソコン教室

1回2時間1,000円 入会金 無

マンツーマン個別指導

「ランチトーク」「ゆうぐれカフェ」

参加費 500円



活 動 を 始 め た 経 緯

市民活動の拠点として「いつでも、誰でも、来て話し、学ぶことができるオープン・スペース」の必要性を感じたことが始まりです。

1999年 任意団体「清水ネット」発足

2004年～2006年

清水 NPO ボランティア市民センター
委託運営

2006年9月

特定非営利活動法人 清水ネットの設立

2006年～2009年

静岡市清水市民活動センターの指定管理
事業を実施

2010年

空き店舗を借り、居場所「清水ネット」
の活動をスタート

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

活動拠点として、空き店舗を無償で借り受けています。新事務所のオープンでは、書架・事務机・椅子・テーブル・衝立・扇風機・ストーブ・カッター・掛時計等を、静岡県労働金庫や NPO 法人、地域の方々から提供いただきました。

事務所の常勤スタッフ1名、ボランティア10名。その他の活動は全員で取り組みます。

【運営経費】

会費、寄付、補助金

パソコン教室の収入

【大切にしていること】

- ・地域に根をもつこと。自由な気分。
- ・居場所づくりから、退職後の男性や子育て後の女性の社会参加を促す活動。
- ・多世代交流。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

年に1回の市民フォーラムや連続講座「夢の玉手箱」、月1回の「ランチトーク」や「ゆうぐれカフェ」等を開催し、市民活動の活性化や地域の居場所づくりをしています。静岡県委託あざれあ地域協働事業では「子どもと共に地域は育つ」のテーマで芋ほり交流会を実施します。地域の大人が子どもたちと関わり、共に育ち、地域を育てる活動となっています。



定年後の男性が新たな活動に取り組むきっかけにもなり、人々の自由な話し合いから課題解決へのネットワークが構築されつつあります。



運営者からのメッセージ

子どもから高齢者まで一。居場所への取り組みで誰もがいきいきと安心して暮らせるまちづくりを目指します。

東日本大震災後、パスカルの

「人間は自然の中の弱い葦に過ぎない。しかし人間は考える葦である」の言葉をかみしめ、考える日々です。



参加者のこえ

○ゆうぐれカフェの参加者は、職業も地域も様々で、違う意見が自由に飛び出します。有意義で、とても楽しいです。(男性)

○清水ネット自家製料理を味わい、3分の自己紹介から話がはずみ、豊かな経験談を聞く機会ができ、アットという間の2時間半です。(女性)

子どもの笑い声が響きあうまちに

駄菓子屋カフェ

所在地：静岡市葵区鷹匠3丁目3-6

代表者：池田庭子

連絡先：054-248-2071



活動内容

【活動地域・内容】

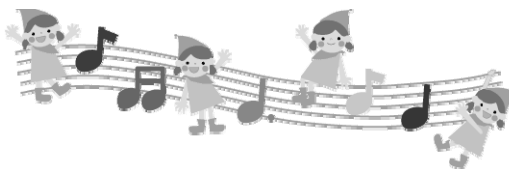
静岡市葵区の北街道沿いにあるユニークな駄菓子屋です。2011年3月にオープン。

静岡の駄菓子文化を継承して、子どもや高齢者の「憩いの場」を提供しています。

【利用方法】

駄菓子等の買い物をしたり、食事や飲み物を取りながらおしゃべりをしたり、のんびり過ごせます。Wi-Fiもあります。

料理教室や習字教室も開催します。



【活動日・利用時間】

月曜日～土曜日

午前10時～午後7時

【利用料】

利用料なし

昔懐かしい駄菓子の他おでんや弁当、惣菜、野菜などを販売

エスプレッソコーヒーも150円で提供



活動を始めた経緯

常葉学園大学教育学部生涯学習科で学んだ後、若い学生と一緒にNPOを立ち上げました。子どものための山あいの遊び場運営に取り組んでいたところ、大学の売店（Vショップ）の運営を任されることになりました。

売店運営を軌道にのせていく中で、学生は皆駄菓子が好きということがわかり、駄菓子を通じて地域とコミュニケーションをとれる場をつくりたいと考えました。

核家族や「お一人様」が増加する中、ほんの一瞬でも、何か暖かいものを伝えることができたという思いで駄菓子屋カフェを始めました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

元々は八百屋であった空き店舗を改修して駄菓子屋カフェとしています。代表者のほか、ベテランの有償ボランティア（惣菜部門）1名の計2人で運営しています。子どもたちも仕入れやレジのお手伝いをしてくれます。



【運営経費】

自己資金

駄菓子部門の1日の売上は3千円未満

【大切にしていること】

駄菓子でちょっとおしゃれな店。

子どもがここにいるだけでよいという場所。

子どもが子どもらしくいられる遊び場。

惣菜部門は“食べ物から命をいただく”という気持ちから、無添加・無農薬の食材にこだわっています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

1日の来客数は平均50名程度。朝は年配の方が野菜や卵を買いに、夕方には子ども・高校生が駄菓子を買に見えます。10月には、子どもたちが企画し、地域の商店街にも協力していただいた「ちびっこ縁日ハロウィン祭」を実施。50名程の参加があり、盛り上がりました。

コアなファンづくりの企画として、「からだに優しいクッキング教室」「子どものクッキング教室」等も開催しています。現在は学生と地域の

子どもたちがつながる場、そして、子どもとお年寄りがつながる場となりつつあります。



利用者のこえ

・気軽に来られて、楽しく、ごはんもおいしいです。部活で疲れた後、ここに来ると元気になれて、とても居心地のいい所です。お菓子もあって、最高です。

・核家族がふえてきましたが、ここに来ると、家の延長のようで、穏やかな気分になれます。子どもがお店の人と親しく話せてコミュニケーションできる場として、とても良いと思います。

運営者からのメッセージ

多くの人に助けられてきたことを、精神面でお返ししたい。そんな想いで活動を続けてきました。

鷹匠が、子どもたちの笑い声で響き合う街になればうれしいです。



一人一人が主役の 駄菓子屋ひろば

地球のこえ

所在地：静岡市駿河区宮本町7-20

連絡先：054-281-9277

代表者：増井 由美子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

主に静岡市駿河区の大里中学区・新通小学区の人々が、国籍・性別・障がい・年齢などに関わらず、誰でも気軽に立ち寄って交流できる「駄菓子屋ひろば 地球のこえ」をオープンしています。駄菓子販売の他、木工細工や手芸の日を設けたり、昔遊び・外国の遊びを含め自由遊びをしたり、おしゃべりをしたりすることができるスペースを提供しています。

【利用方法】

オープン時間内であれば、いつでも誰でも利用できます。利用者の多くは小中学生です。自主性を重んじた活動の場であるということをご理解いただき、持ち物管理・けが等について（当然、スタッフも十分注意を払いますが）各自で責任をもっていただけるよう、ご家庭でもご指導をお願いしています。

【活動日・利用時間】

月・木・土曜日の14:30~18:00

※但し、第三土曜日は 社会福祉法人ピロスさんのバザー会場（静岡市駿河区宮本町4-17）をお借りしてのミニイベント。

イベント時間は、9:00~12:30

この日は、午後の活動はお休みです。

【利用料】

駄菓子を買う場合は、その代金が必要ですが、それ以外の活動は基本的に無料です。

※木工細工・手芸などは参加費（20円~50円）が必要です。

※お仕事体験やお料理教室などの講座を公民館等で開く（不定期）場合、参加費がかかります。（金額は、内容による）

活 動 を 始 め た 経 緯

私達は、年齢・国籍・性別・生活環境などそれぞれ違います。自分と全く同じ人は、世界中探しても一人もいません。

そんな私達が、違いを受け入れ互いを理解し、ともに心地よく生活していくにはどうしたらいいか？ 大切なのは、相手を知ることです。そのために・・・「誰もが気軽に立ち寄り、ふれあいを通して互いを理解し、自分の居場所・生きがいを感じられる場所を！！」

そんな思いから、平成22年3月に『地球のこえ』を設立しました。国際理解・幼児教育・英語教育・介護・障がい者福祉など様々な分野で活動をしている仲間がスタッフとして集まり、平成22年4月22日、駄菓子屋ひろば『地球のこえ』をオープンしました。

『地球のこえ』という名前には、地球を愛し、地球に生きるものを愛する一人一人のこえをここで響かせたい、という願いがあります。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

代表者の自宅一角（物置）を利用して駄菓子屋を開いています。その他の活動は、駄菓子屋前のスペース（屋外屋根付き）を使用しています。

スタッフ6人でシフトを組み、駄菓子屋・遊び・交流スペース等を分担して、常時三人体制で運営しています（臨時ボランティアの協力もあり）。また、留学生にも積極的に活動へ参加してもらっています

【運営経費】 22年3月立ち上げ

主に、助成金（22年度は、静岡県社会福祉協議会モデル的活動助成・静岡市シニア活動促進事業、23年度は、静岡県民間子育て支援活動応援事業費補助金）を活用しています。

- ・年間活動経費（22年度） 約1,210千円
- 静岡県社会福祉協議会助成金 895千円
- 静岡市シニア活動促進事業助成金 315千円

【大切にしていること】

参加者自身の主体性を大切にし、多世代・多文化交流や体験を通して互いを理解し、自分の居場所・生きがいを感じられる場所に！！

活 動 の 実 績 ・ 効 果

1年目は、地域の方に理解してもらい・活動を知ってもらうことに重点を置き、地域の活動への参加や交流を積極的に行い、月刊フリーペーパー「ちっけった！」の発行にも力を入れました。また、留学生によるミニ異文化講座・高齢者による竹細工/木工細工・遊びのチャレンジ大会など、参加型/体験型の活動を取り入れたり、イメージキャラクターやその名前を募集したり・・・と、参加者主体の活動を中心にスケジュールを立てました。

その結果、2年目には多い日で50人位の利用があり、自転車置き場が足りなくなるほどの盛況となりました。地域や学校からの理解も、以前より得られるようになり、子どもたちは、通う学校が違っても駄菓子を分け合ったり、一緒にゲームをしたりして楽しんでいます。外国の方や障がい者の方に対しても、自然に対応できるようになってきました。また、「自分たちの居場所」という意識が生まれたためか、チラシやポスターを描いたり、活動のアイデアを提案してくれたりするようになってきました。

みんなのこえ

「いいですね、こういう所。昔はたくさんあったんですけどねえ。うちにあったものですけど、よかったら子どもさんのゲームの景品にでも使ってください。また来ますね。」（地域の方 70代）

「お店のオープン時間は、うちの会社の駐車場を空けるので、自由に使ってください。子どもたちが楽しく安全に過ごせるように願っています。」（近隣の会社）

「店長！この店、何歳までやってくれる？」（小5 男子）

運営者からのメッセージ

「てんちょ～！」「ゆみこさ～ん！！」
利用者のそんな声に、元気もらっています。多くの方々に支えられ、導かれながら、活動できることに感謝しています。



今後は 長く継続していくための自立した人員体制や運営経費の確保が課題です。

これからも、多くの方が『地球のこえ』を知り、気軽に立ち寄ってくだされば嬉しく思います。

まちのみんなの憩いの広場！

まちカフェSHIMIZU

所在地：静岡市清水区真砂町 3-9 リビングハウスこまつ内

連絡先：054-366-2335

コーディネーター：堀川 渉



活 動 内 容

【活動地域・内容】

清水駅前銀座商店街の店舗「リビングハウスこまつ」内にある、コミュニティカフェです。お茶を飲みながらのおしゃべりや各種団体の打ち合わせ場所、ミニ講座やミニイベントの会場として利用頂いております。店内のレンタル小棚では、ビーズアクセサリ、布小物、ドライフラワー等の作家さんの作品が展示・販売されています。

【利用方法】

清水駅前銀座商店街に位置しています。普段は喫茶コーナーとして利用頂いており、気軽にお立ち寄り頂けます。打ち合わせや会合、ミニ講座やミニイベントで使用する場合は、電話予約をして頂ければ利用が可能です。

【活動日・利用時間】

10:00～19:00

毎週水曜日と第3火曜日以外は毎日開催

【利用料】

コーヒー、紅茶等のドリンク 1杯の利用料金で、打ち合わせや、会合に利用できます。また、ミニ講座やミニイベントでも、一人あたりの喫茶料金を負担頂くことで利用できます。

*コーヒー、紅茶、ジュース 300円

*フリースペース（喫茶コーナー除く）
1,500円（2時間）

*レンタル小棚 2,000円/1ヶ月
（販売手数料20%）



活 動 を 始 め た 経 緯

今から5年前。当時世間では2007年問題が注目されていました。団塊世代の大量退職にとともに、社会・企業活動が停滞すると共に、特に定年を迎えた男性が、地域社会から孤立するのではという声が大きくありました。結果として2007年問題は大きな影響を残しませんでした。その後、やはり何もすることのないシニア男性が多くいることを知り、改め

て居場所の必要性を感じました。そのような折、清水駅前銀座商店街にあるリビングハウスこまつさんの店舗内を使用できるようになり、まちカフェ SHIMIZU の運営を開始することとなりました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

「リビングハウスこまつ」さん店舗内の喫茶コーナーを「まちカフェ SHIMIZU」として位置付け、活動場所としています。店舗内にあるため普段はお店の経営者が運営しています。当方はコーディネーターとして、運営補助や企画立案などに携わっています。

【運営経費】

通常の喫茶料金に加え、店舗内にレンタル小棚を設置し、レンタル料と販売手数料を運営費に充てています。また、ミニ講座やミニイベントの収入も運営経費の一部となっています。

【大切にしていること】

コミュニティカフェを多くの人に認知してもらうために、様々な催しを企画しています。イベントの集合場所や、打ち合わせ場所としても提供しています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

各種団体、個人と協力して様々なセミナーやイベント（ブログ・ツイッター・フェイスブック等のソーシャルネットワーク講座、ワイン・日本酒・地ビールの飲み比べ会、子どもの放課後の居場所事業の推進、まちづくり会合など）を開催しています。また、商店街イベントへの参加、商店街イベントに相乗りしたクラフトフェアの企画・運営、商店街を会場としたイベントの企画提案・運営等で商店街の活性化にも協力しています。

商店街店舗は物を売るだけでなく、コミュニケーションによる「賑わい創出」の可能性を有しています。商店街イベントは、通常振興組合の役員さんたちが企画・運営していますが、人手不足により運営に支障がでています。外部の人がイベントの企画・運営に携わることにより、新しい仕組みづくりやイノベーションのきっかけづくりとして効果が現れています。

運営者からのメッセージ



コミュニティカフェには、様々なタイプがあると思います。ターゲットを絞り込んだ上で、「利用する方々に何を提供するか」「PR方法をどうするか」



等、あらかじめ考えて準備することが大事だと思います。また、人と接する事が好きだという気持ちや、何か人の為になることをやりたいという気持ちも大変重要だと思います。

親子の、親子による、親子のための園！

なかよし子育てランド 宮方子ども園

所在地：静岡市清水区三保 880-3

連絡先：054-334-1020

代表者：宮城島 由子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

以前経営していた宮方こども園の閉園後、「遊び場がない」という子どもや保護者の声を受け、地域の親子が自由に利用し、交流できる居場所として開放を続けています。

平日は、お母さん同士は子どもに気配りしながら、情報の交換をしたり、子どもたちは友達と遊んだりけんかしたりして育てられています。（お花見、お節句、バザー、夏祭り、運動会、クリスマス会、誕生会等、家族全員参加で楽しむ行事もたくさんあります。）

【利用方法】

平日は就園前の乳幼児が中心ですが、様々な年齢の子どもも自由に遊びに来ます。ただし、乳幼児は保護者同伴。（託児所ではないため）

【活動日・利用時間】

日曜日も祭日もなく、年中無休で宮方こども園を開放しています。

利用時間は特にありませんが、午前10時～正午頃がお友達が集まって楽しいです。午後にはお昼寝タイムもあります。

【利用料】

特にありませんが、行事の際、実費を徴収することがあります。



活 動 を 始 め た 経 緯

保育士として公立施設に勤務した後、自宅に宮方こども園を開園。地域の子どもたちを受け入れてきましたが、平成6年3月末で閉園。やっと自由になった後は、他の社会をのぞいてみたいとあれこれ思い描いていましたが、遊び場のない小さな親子のお仲間が、口々に「遊ばせて、遊ばせて」と来てくれ、「どうぞけがさせないでね」などと言いつつ、かわい

い子どもたちを相手に幸せな日々をすごしているうち、18年が経過。今日に至ってしまいました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

敷地の一部（元宮方こども園の保育室、園庭）を開放しています。園は自宅敷地内にあるため、常時私（宮城島）が居住しており、常駐のボランティアやお手伝い、指導員等はいません。遊びに来たお母さん全員がボランティアです。皆で子どもが事故のないよう、見守り遊ばせる子育てランドです。

【運営経費】

主に春・秋2回行うお下がりバザーの収益金が主たる財源です。特別行事の場合は、実費徴収することもあります。

【大切にしていること】

- ・一寸立ち寄った新しいお友達にも優しく声をかけ、子育てママの仲間にする事。
- ・挨拶を身につけさせること。「ありがとう」「ごめんね」が素直に言える子に育てよう。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

就園前の子どもたちを中心に、誰でも、いつでも利用できる「遊び場」を開放してきました。保育士経験を活かし、子どもと遊んだり、お母さんの相談にのったり、親子が気楽に集まれる場所となるよう心がけてきました。平日は毎日10数名の親子が遊びに来てにぎやかです。子どもは子ども同士で楽しく遊び、お母さんは情報交換などで楽しく盛り上がっています。行事などの計画もみんなで準備し、みんなで会を盛り上げ、事故なく楽しく終了することがなによ

りとがんばっています。全員がお母さんで、ボランティアで、先生です。お母さんたちは受身ではなく、進んで参加協力して下さる、すばらしい方ばかりです。



運営者からのメッセージ

利用者のこえ

- ・「宮方こども園」は、お母さんたちが自主的に動き、互いに助け合う素敵な場所です。
- ・子育てに悩んでいても、こども園に来れば解決できるし、子どもも朝起きると「先生のところへ行く!」と言って毎日楽しみにしています。
- ・色々な行事があり、子どもだけでなく親も一緒に楽しむことができます。

大騒ぎしている小学生が、

「ここに来ると癒されるよな!」なんて生意気なことと言って遊んでいる様子を見ながら、幼い頃、沢山のママや友達と泣いたり笑



ったりして育った日々が癒しの心呼び起こしているのか、と今更のように思います。一方、今ほど子育て文化が消滅している時代もないと思います。手間を惜しまない子育ての大切さに気づいてくれたらと願っています。

中山間地の助け合い子育て

「相互育児」による子どもの「居場所」づくり整備事業

中山間地子育て支援サークル「みんなのこ」

所在地：静岡市清水区布沢 243
連絡先：054-396-3177
代表者：会長 久米 千草



活 動 内 容

【活動地域・内容】

①相互育児による『居場所』づくり事業

静岡市清水区両河内の子ども（主に未就学児童）のいる世帯を対象に、親同士子供を自宅や公民館等で預かりあい『居場所』を提供しています。

顔見知りのママに預けられるので未就園児等の子どもでも預けやすく、預かる側も子どもの性格等を知っているので安心、何かあった時も連絡をとりやすく、民間託児所より臨機応変に対応できます。（両河内地区には、民間の託児所やファミリーサポートセンターにおける「まかせて会員」がない）

保護者同士集まって子供を預け合ったり、育児についての悩みや相談しあったりする場にもなっています。

②緊急託児による『居場所』づくり事業

急用や緊急時の託児、訪問育児による『居場所』づくり

③交流イベント事業（隔月1回）

親子同士交流を深め、お互い子供を預けやすい・預かりやすい環境を作る為のイベ

ント

- 農業体験 ○森で遊ぼう
- マキストーブでピザ焼き体験
- 人形劇 ○食育イベント等

【利用方法】

メールや電話で申し込み後、登録

【活動日・利用時間】

①相互育児事業

- 活動：月3回／時間：AM9時～12時
- 場所：自宅及び公民館等

②緊急託児事業

- 活動：月3回／時間
- 場所：自宅等

③交流イベント事業

- 活動：隔月1回／時間：AM9時～12時
- 場所：公民館等

【利用料】

年会費：1,000円

交流イベント：実費

活 動 を 始 め た 経 緯

核家族化が進み、子育ての責任を親が一手に引き受けなければなりません。自由時間もなく、ストレスを抱えた孤独なママたちが、田舎にも意外と多いのです。

中間山地である清水区両河内地区には、託児施設や静岡市ファミリーサポートセンターの会員もありません。買物へ出るにも車で往復1時間以上かかるため、未就園の子どもを連

れて外出するのは大変で、断念せざるを得ない場合もあります。こうした状況の中、『みんな子育ての相互育児』という形に注目し、お散歩や公園で会う顔見知りのお母さん同士で助け合う子育てが大きな救いの手となるのではないかと考え、サークルを立ち上げました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

会員の自宅や公民館等を利用し、子どもの『居場所』作りとして活用しています。自宅等を利用することで、子供と地域との繋がりが深まることを期待。

相互育児事業は、月に3日、担当者1名とサポートママ4名が、子供を自宅や公民館等で預かり『居場所』を提供します。

緊急託児事業は、月に3日までサポートママ2名が子供を自宅等で預かり『居場所』を提供しています。

【運営経費】

主に民間子育て支援活動応援事業費補助金を活用

年間活動経費 約 540 千円

民間子育て支援活動応援事業費補助金 519 千円

【大切にしていること】

中山間地の子育てを支援し、孤独な子育てや子育てによるストレス・不安がなくなるような活動を目指しています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

- ◆ 同世代の子を持つ保護者同士の知り合いが増え、子育ての悩みや相談が自然とできるようになり、子育てのストレスが軽減されました。
- ◆ 預け合いがきっかけで、保護者同士、大変な時期に助け合う気持ちが芽生えました。
- ◆ 親子一緒に相互育児の為、他の保護者から学び取ることも多く、我が子以外の他の子へも愛着が沸き、みんなで育ち合おうという雰囲気が作られたと思います。
- ◆ 子育ての負担が軽減され、2人目・3人目を考えられるようになった親が増え、妊婦の会員が増えました。また、つわり時や妊娠後期の大変な時期には、上の子を預けたいという希望が多いため、負担の軽減に繋がったと思います。産後も、新生児の世話に追われるため、上の子を見てもらえる安心感があるという声があがっています。

会員のこえ

- 妊娠中、つわり時に預かってもらえて本当に助かりました。
- 気心の知れた顔見知りのママさんに預けられるので安心です。
- サポートママをやり、他の子どもの様子を知れたことは、自分の子育てにとっても大変参考になりました。
- 買物や病院まで遠い地域なので、とても助かります。(特に歯医者)

運営者からのメッセージ

実際子育てをして、家族にも言いにくい不安やストレスを、思った以上に感じました。同じ境遇のママ同士ならこの不安やストレスを相談し合い、助け合うことができます。

「子育てを、ママ1人で悩まない！」
助け合いの心が、この地域に広がればと思います。



～助産師が教える当たり前の個育て～

ママサロン はな

所在地：掛川市沖之須 1894-2

Tel&fax：0537-48-6737

代表者：助産師 根方友紀



活 動 内 容

【活動地域・内容】

子育てとは、感情的になったり、反省したり、日々悩みの多いことが当たり前です。そんな子育てを掛川・磐田・袋井市を中心に、妊娠中から子育て中のママと赤ちゃん、その家族を総合的に支援（母乳トラブル・託児・栄養相談 etc）しています。サロンではママ空手、ヘアメイク etc、袋井市にある岩陶浴『ありあけ』ではベビーマッサージ・骨盤矯正体操などの講座を手がけ、育児に便利なグッズや食品の販売もしています。

【利用方法】

利用希望者は直接サロンに電話で申込みをしていただきます。



【活動日・利用時間】

託児時間：9：30～16：00

定休日：土・日・祝日（土曜日は要相談）

【利用料】

年会費：5,000円

基本：10分 100円

*休日・時間外託児は「要相談」となり、料金は別途発生

講座託児：1,000円

給食：250円（離乳食の持込み可）



活 動 を 始 め た 経 緯

助産師の資格を活かし、10年前から助産院を開業。出産数に比べ、病院や産院が少ない遠州南部地域の方々を中心に、母乳相談や育児相談を行ってきました。この方々は、じっくり話ができる場所や、子供を預ける場所を求めているのです。そこで、保健医療や専門性の高い育児情報、本来は親が伝えるべき育児の知恵や経験、体験からの知識などを、助産

師が発信する会員制サービスとして始めることにしました。現在は、カルチャー講座やカフェ、託児、育児グッズ購入など、与えるサービスではなく、個々が求めるサービスが受けられるという子育て支援ビジネスを展開しています。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

所在地：掛川市沖之須 1894-2

人員：常勤6人 非常勤4人



【運営経費】

- ・保育ママ事業費
- ・お客様にいただく会費等

【大切にしていること】

母乳育児相談室相談室マンマの事業の根幹は、「個育て」の実現と「地域に根ざした社会貢献事業の展開」です。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

「当たり前の個育て」とは、怒ったり、悩んだりすることも当然で、完ぺきではない自分だけでも、学ぶことにより、大切な自分に気付ける一人一人の育ちを指します。複合的子育て支援ビジネスとして始めたこの活動ですが、現在では、お客様のニーズに合わせ、ママ達の集いの場「ママサロンはな」（会話を楽しみ、交流を持ってもらう場）を開設しています。また、助産師がセレクトした講座「ベビーリンパマッサージ・骨盤体操講座」を受講することにより、ママ磨きも楽しんでもらっています。1階「託児所チューリップ」では保育園で

の一時託児や、時間預かりでのシッターとは違う家庭的保育を提供しています。

家庭的保育とは、普通のお宅を開放し、当たり前の家庭の躰を少人数で丁寧に指導します。トイレット・トレーニングやお友達との関わり方、運動や歌、制作等、家ではなかなかできない体験を、「家庭的保育者」と呼ばれる保育士や看護師等と一緒にすることができるので、大変好評を頂いています。

運営者からのメッセージ

幼保一元化等、子育てを取り巻く環境は大きく変化しています。これから子を持つ親たちがどんな子育てをすべきか、自分で考えることは大切です。

子供同士が人との関わりの中で成長していくように、親も自分の時間や学ぶ場を持つことで人として成長する。こうした親子の成長を見守っていくことで、地域や社会の問題を他人事にならない関係を、まさに地域で築きたいと思います。



利用者のこえ

ネット社会の今日、子育て情報は沢山あり過ぎて、どれを選べば良いかわからず困っていました。でも、ここに来れば、どの情報を選べば良いのか判断することができます。また、子供同士、親同士の関わりを持つことができ、子育てに悩みや迷いを感じる事がなくなりました。

いつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もうひとつの家。
ふれあいも助け合いも生まれる家。

街の居場所「もうひとつの家」

所在地：袋井市高尾町1-1
連絡先：0538-43-7775（電話・FAX）
運営主体：NPO法人 たすけあい遠州
代表理事：稲葉ゆり子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

JR袋井駅前の貸ビル1階にある街の居場所です。活動時間内であれば、誰でもいつでも利用でき、ランチを食べたり、音楽療法に参加したりできます。

【利用方法】

一休みしたい方、電車やバスの時間を待つ方、待ち合わせ中の方、トイレを使いたい方等誰でも、いつでも利用できます。

毎日提供しているランチ(300円)を楽しみに来る人も多く、日々新しい出会いと異世代交流が生まれています。

火・水・木曜日には音楽療法があり、高齢者等が集っています。話し、笑い、ふれあいのある一日を楽しめば、たくさんの「ありがとう」が聞こえてきます。

【活動日・利用時間】

毎週火曜日～土曜日
午前9時から午後5時

【利用料】

1日参加 1,000円（音楽療法・昼食等含）
昼食のみ 300円

時間通貨「周」の利用も可能

送迎は時間通貨「周」

※時間通貨とは・・・誰もが平等に持つ「時間」を単位とした相互扶助型の地域通貨。大人も子どもも対等に助け合う方法。

※「周」とは・・・「ありがとう」が「周る」の意味です。



活 動 を 始 め た 経 緯

これまでは、高齢者や子どものための助け合い活動を行うために利用者のお宅へ伺い、一対一でお相手をしていました。多くの家を訪問しお話をするのは大変で、何か良い案はないかと考えていたところ、1999年に「転勤で家を空けるので借りてほしい」という話を受けることができました。一軒の家の中で見守りや助け合いができるのはもちろんですが、

自分の家とは別に「いつ行ってもいい場所」を持つことができると考え、活動を始めました。その後2001年に旧東海道西本陣宿、2003年には300坪の敷地に平屋二棟の田圃に移転。商店街からの「駅前シャッターを上げて」の声に応え、2009年4月からは現在の場所で活動を始めました。商店街や観光協会と連携し地域行事にも参加しています。

運 営 方 法

【人員体制】

スタッフが1日5～6名常駐しています。(ボランティア20数名が交代で担当)

利用者からスタッフになった人もいれば、ヘルパー、看護師、介護福祉士、臨床心理士、音楽療法士等専門的な資格を持ったスタッフもいます。

社会福祉協議会、地域包括支援センター、市の担当課、小規模多機能事業所等との連絡会を毎月開催し、常に情報交換を行って、他機関につなげられる体制をとっています。

【運営経費】

(年間) 利用料・ランチ売上 3,500,000円

会費 500,000円

寄付金 300,000円 等

【大切にしていること】

出会いを喜ぶ

来た人と必ず言葉を交わす

役割を決めず必要なところへさりげなく入る

仕切らない。情報交換の場を持つ

食を大切にする(食材・献立・調理人・食の時間等)

活 動 の 実 績 ・ 効 果

お年寄りを中心に、毎日60人以上の方が利用しています。音楽療法に参加している方の中には、90歳以上の方もいますが、介護保険を利用している方は少ないです。

居場所には認知症予防、介護予防の効果があると感じています。



居場所は、ボランティアをしたい人の「最初の一歩」となり得ると共に、障害のある方が社会や人に慣れるための就労前体験の場ともなっています。中国からの留学生もいます。

【きんみみ】身体の調子や都合で「もうひとつの家」に来られなくなったけれど、スタッフにとって“気になる人”の家に、金曜日に出向いてお話を伺う「きんみみ」という傾聴活動にも取り組み、喜んでいただいています。

利用者のこえ

- ・これ以上言うことなし、満足しています。
- ・こういう場所が近くにたくさんあるといい。
- ・雨の日や寒い日などバスを待ちながら一休みするときにとっても助かります。
- ・中のみなさんがいい顔をしているので寄りやすい。

運営者からのメッセージ

出会いを重ねるごとに、人は「気になる人」になります。会って話して心が軽くなる時間をつくることのできるのが居場所ではないでしょうか。



地域のふれあいの居場所：子どもから年配の方、どなたでもどうぞ!!

オープンカフェ きじの杜^{もい}

所在地：浜松市浜北区染地台5丁目4番(総合福祉施設きじの里)

代表者：NPO法人ねっとわあくアマダス 脊古光子

連絡先：053-464-8150 (アマダス事務所)



活 動 内 容

【活動地域・内容】

「きじの杜」は、2011年4月、特別養護老人ホームと保育所が併設された総合福祉施設「きじの里」1階にオープンした、地域に開放された喫茶スペースです。

地域の交流や交流のきっかけづくりの場となることを期待しています。

【利用方法】

施設利用者や家族だけでなく、地域の方々が散歩の途中に気軽に立ち寄る等、誰でもいつでも利用できます。

生涯現役で暮らすための運動機能向上トレーニング健康体操やお菓子づくりのサークル等趣味の教室にも参加できます。

【活動日・利用時間】

月曜日～土曜日（日曜・祝日は休み）

冬季：午前9時30分～午後4時30分

夏季：午前9時30分～午後5時

※夜も月1回程度、希望により開催予定

【利用料】

講師を必要とする講座や教室等の利用料は1回500円～。材料を必要とする教室は材料代もかかります。

飲み物（コーヒー、紅茶等すべて100円）、軽食（きじの杜セット(500円)、ビーフカレー(500円)、グレース菓膳カレー(800円)等)をお出ししています。

グループでのお食事（お弁当）も予約できます。（500円～）

活 動 を 始 め た 経 緯

NPO法人ねっとわあくアマダスの設立から2011年3月までの12年間、「高齢者向けサロン」活動を実施していましたが、昨年その事業は独立。丁度同じ頃、社会福祉法人が新規に声をかけていただいたので、この場所を活用させていただき、これまでに積み重ねたノウハウを活かして、更に地域に貢献していきたいと考えました。

オープンカフェきじの杜は、内野台団地と現在開発中の染地台団地の丁度中間に位置しています。内野台団地では定年退職後の年代層が比較的多く暮らしています。日常生活に不便を感じる方が増加する可能性もあるため、市民力を蓄え、支え合える環境を住民と共に創りあげていけたらと考えています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

社会福祉法人から無償で貸借しています。
スタッフが1日1～3名常駐しています。(交代可能なボランティアさんを募っています)
スタッフの中には、利用者からスタッフになった人、ヘルパー、社会福祉士、介護福祉士、保育士、普通自動車運転2種免許等専門的な資格を持っている人もいます。ニーズ調査の対応からボランティア参加につながった方もいます。

【運営経費】

活動場所を維持・継続するための経費が必要ですが、「きじの杜」では、カフェのサポーターさんを募っています。(1口以上3,000円)何口でもご支援よろしくお願ひします。ご支援者には貴方とカフェの「絆」をお約束します。

【大切にしていること】

自宅以外の「もうひとつの居場所」として、誰でも快適に過ごせる環境の設定と食の提供。特にエコと健康が「きじの杜」のテーマです。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

施設利用者や家族の方を中心にひと月400名ほどの来客数があります。また、体操教室やお菓子教室などの参加者は70～80名ほどのご利用があります。

自治会の班会や団地内のサークル利用等、定期的な利用も増加傾向で、地域の自治会や地域包括支援センターはじめ、多くの地域住民の支援により、利用数は今後伸びていくことが見込めるとおもいます。



利用者のこえ

- ・「きじの杜」は地域の人と話ができる場所、教養講座等が学べる場所として、待望していた場所です。是非ずっと末永く続けて下さい。
- ・気軽に寄れるこの場所がすごく気に入っています。スタッフの人達もすごく感じの良い人達ばかりです。

運営者からのメッセージ

ひとり一人の市民が
関心を示すことで、
ちょっとした
地域問題は解決
できるのでは
ないでしょうか。
暮らしやすい
地域のために
「声」を出し合える
地域づくりが必要かと思ひます。



笑顔がいっぱいのあたご

あたご放課後子どもクラブ

所在地：静岡県浜松市天竜区西藤平 1272-4
上阿多古ボランティアコーナー 清流荘内
連絡先：(053)928-0248 野沢里治宅
代表者：会長 青木 政治



活 動 内 容

【活動地域・内容】

上阿多古幼稚園・上阿多古小学校の園児・児童が放課後の時間を、阿多古の豊かな大自然の中で集い・遊び・楽しさを体験できるよう、また次世代を担う子どもたちに、地域の魅力や伝承文化を継承するため、月に一度、地域の民話・伝承・伝統行事に基づいたお話を開催しています。

子どもたちが安全で安心して過ごせるように上阿多古地域全体で、保護育成を行っています。

【利用方法】

上阿多古幼稚園・上阿多古小学校に通う園児・児童

【利用料】

1回 50円

(内訳)＊傷害保険 21円、おやつ代 29円

【活動日・利用時間】

毎週火曜日・金曜日

園・学校の日課に合わせて、放課後(午後2時頃)～午後5時ぐらいまで

＊火・金が国民の祝日となった場合は実施しない。



2月3日豆まき

活 動 を 始 め た 経 緯

上阿多古地区は、浜松駅から北へ車で1時間程に位置し、山に囲まれた自然豊かな地区です。林業が盛んだった時期は多くの住民がいましたが、現在は点在する集落に、約420世帯、1,262人が暮らしており、少子高齢化が進んでいます。

そのような中で、平成19年に浜松市社会福祉協議会がおこなった住民懇談会で、子育て中の保護者から「子どもたちが家に帰ってきて

から近くに友達の家がないため、室内でTVゲームばかりしている」「山や谷を隔てた集落にある友達の家まで、家族の送り迎えがなくてはいくことが出来ない」等子育てに対する切実な悩みが出されました。当地区は、定年後の世代がボランティア活動に積極的に参加する「助け合いの心」が根付く地域であったため、地域で子どもを見守る活動を始めました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

上阿多古自治会で管理運営をしていた清流荘をお借りして活動を始めました。毎年、地域の人たちの力を借り、老朽化した部分を改修しながら大切に使っています。あたご放課後子どもクラブのスタッフは全体で 21 名、それぞれが月 2 回程度、受け持っています。

【運営経費】

主に、地区社協活動費(浜松市社協からの活動費助成金)、参加協力費を活用しています。

地域の方たちから資機材の現物支給を頂き活動を進めております。

【大切にしていること】

ボランティアも参加者も楽しめる活動づくり

活 動 の 実 績 ・ 効 果

上は小学校 6 年生から、下は幼稚園児までの年齢の異なる子どもたちが一緒に遊び、けんかや仲直り、我慢等の経験をすることで、人間関係の構築や健やかな成長を促します。

また、ボランティア活動を通して、高齢者の社会参加が促進されるとともに、子どもと接することが高齢者の生きがいにも繋がっています。



運営者からのメッセージ

子どもたちのこえ

友達がいっぱい居るので、一緒に遊べて楽しい。

家とは違って、遊ぶところがいっぱいある。

家の近くは、山間地で自転車に乗れないが、ここでは思う存分乗ることができる。

スタッフのおじいちゃん・おばあちゃんがとっても楽しい。

子どもたちの活気ある声が元気の源です。誰かの為にはなく自分の楽しみのために今後も続けていきたいです。

子どもたちの成長を身近に感じられとても充実した時間を過ごしています。

(2月3日子どもたちと一緒に撮影)



古民家を利用して地域高齢者の居場所づくり

伊豆・松崎・であい村 蔵ら

所在地：賀茂郡松崎町松崎 3 1 9 - 1

連絡先：0 5 5 8 - 4 2 - 0 1 0 0

代表者：(連絡窓口) 代表理事 青森 千枝美



活動内容

【活動内容】

地元住民をはじめ、観光客が気軽に集える居場所として「蔵ら」を運営しています。

「蔵ら」では、食事の提供、地元住民の手づくり雑貨の展示・販売、高齢者対象の配食サービスを行っています。

活動日時：週 6 日（木曜日定休）

10:00～16:00

活動を始めた経緯

高齢化が進む松崎町では、以前から調理や雑貨制作を通して、住民の生きがいづくりを進めていました。高齢者が一番元気なまちにしたいとの思いから、歴史ある築 150 年の蔵造りの古民家を活用して、町おこしの拠点を作りました。



運営方法

【人員体制】

「蔵ら」の運営スタッフは、25 名程度（1 日に 7 名程度）、手づくり雑貨の作成者は 45 名程います。スタッフの平均年齢は 6 7 歳ですが、一人一人が積み重ねてきたキャリアを無理なく活かし（民宿経営、看護師、ケアマネージャー、和裁、洋裁、デザイナー、美容師、教師、農家、商店、主婦）、高齢者だからできる事で運営しています。

地域の方々に、採れたての魚や野菜、果物を提供していただくこともあります。

【運営経費】

25 名の地域住民が出資し、ワーカーズコレクティブ方式で運営しています。

活動の実績・効果

高齢者の生きがい、働き場づくりになり、70 歳前後の人たちが、いきいきと働いています。雑貨作りには 90 代の方等、総勢 100 名近くの方々が関わっています。

また、地産地消の魚、野菜等を使い、まちおこしにつながっています。

運営者からのメッセージ

- ①空き店舗を活用し、蔵造りの家を守り、町おこしのお手伝いをしたい
 - ②自分を含めた高齢者の知恵と経験を活かした高齢者の生きがい・働き場づくりをしたい
 - ③一人暮らしの高齢者が気軽に昼食やお茶のできる居場所にしたい
- との思いを理念に、居場所づくりを提供することで、地域福祉に貢献したいと思っています。

今でも続いています湯ヶ島小学校の声かけ運動

見守り隊

所在地：伊豆市湯ヶ島宿公民館（宿ふれあいサロン）

連絡先：0558-83-3013（伊豆市社協）

代表者：見守り隊 小泉智恵子



活 動 内 容

【活動内容】

老人会を中心に地域の人達が一丸となって登下校時、通学路に立ち、声かけしながら、子ども達の安全確保を図っています。



活 動 を 始 め た 経 緯

全国で子ども達が犠牲になる事件が多発している今日、少しでも子ども達を守っていくことに協力したい思い、小学校の校長先生に相談しました。話し合いを重ね、市内初めての試みとして、平成18年1月10日から、登下校時に合わせて、声かけ運動しています。「無理をしない」を原則として、活動しています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

地域の老人会や地域住民主に子どもたちの通学路を中心に活動しています。（小学校までの横断歩道や信号機のあるところ等）が協力してくれています。



【運営経費】

小地域福祉活動として社協より助成金を頂きまして、布製の腕章を作成。防犯協会から寒くないようにとパトロール防寒着とベストをいただきました。

【大切にしていること】

子ども達の顔を見てあいさつをする。危険・防犯防止だけでなく、ふれあいの場として子ども達とお年寄りの世代を超えたコミュニケーション作りを大切にしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

声かけをするようになってから、子ども達のほうから進んであいさつしてくれるようになり、信頼感が深まったと感じます。地域の通学路は、子ども達と地域の人達を結ぶ交流の場になっています。お年寄りにとって、子ども達の笑顔は活力であり、生きがいになっています。

運営者からのメッセージ

子どもからお年寄りまでみんなが声をかけあい、支えあい地域の結び付きを深め安全な住みよい町になることを願い、見守り続けたいと思います。

子どもに安全なまちは大人も同じ 地域で子供を見守ろう

下田小学校区安全会議

所在地：下田市4丁目5-29

連絡先：090-9123-0645（代表者携帯電話）

代表者：立野健藏、山下千與子

連絡窓口：下田市社会福祉協議会



活 動 内 容

【活動地域・内容】

① 生徒児童の登下校時見守り活動の実施

見守りが必要な箇所をマップで確認したり、場所によっては、青色防犯回転灯を装着した車両で巡回したりするなど工夫して取り組んでいます。

② ふれあいサロンの開催

一人暮らし世帯が増加したことや、隣近所との関わりが希薄化してきたことを受け、月1回ふれあいサロンを開催しています。



活 動 を 始 め た 経 緯

1 組織立上げの経緯

市内で生徒児童を狙った声かけ事件が多発しており、地域住民やボランティアが、登下校時に個別に見守り活動を続けてきました。

活動を続ける中で、活動者の証となるユニフォームがないことや学校・PTAとの情報共有ができていないことが問題となりました。「地域ぐるみの活動」の実現に向け、市社協に相談をしました。

市社協からボランティア・小中学校教職員・PTA・女性の会・区役員および民生委員等呼びかけてもらい、住民懇談会を開催しました。その結果、地域の安全を守ることを目的に組織化を図ることを決め、『下田小学校区安全会議』を設立することとなりました。

2 児童生徒登下校時見守り活動と活動の広がり

見守り活動にもルールが必要であることから、警察署員や教育委員会の職員を招き、勉強会を開催しました。

見守り活動に必要なユニフォームや腕章等は市社協からの補助金その他、関係機関の助成金制度を活用しました。

活動を継続するなかで、学校や家庭で何があったか等を子どもたちと話すようになり、通りがかりの地域住民とも会話が生まれるようになりました。こうした会話は、活動者の増加や、地域課題の明確化につながっていきました。

運 営 方 法

①生徒児童の登下校時見守り活動の実施

【活動場所】

学校から離れた人通りの少ない場所
過去に声かけ事案があった場所

【人員体制】

活動者 30～40 名が交代で取り組んでいます。

②ふれあいサロンの開催

【活動場所】

下田市総合福祉会館や空き店舗（商店）

【人員体制】

地域住民 40～50 名

【運営経費】

見守り活動に必要な備品（ユニフォームや腕章等）購入費は、市社協の補助金、県共同募金会「赤い羽根共同募金配分金事業」や県社協「助成金事業」等を活用しています。

青色防犯回転灯を装着した車輛の燃料費は、小学校の青少年育成会から助成を受けています。

【大切にしていること】

学校やPTAとは、日頃から連絡を取り合い、情報交換を行っています。子どもや地域住民とのふれあいを大切にしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

活動が地域に浸透することにより、児童生徒を狙った声かけ事件は年々減少、現在では事件がほとんどなくなりました。

子どもも大人も自主的に挨拶するようになり、様々な関係機関の職員とも、顔の見える関係を作ることができました。



運営者からのメッセージ



（生徒児童登下校時見守り活動）

この活動は地道に継続していくことが大切であり、成果が直ちにに見えるものでもありません。

活動者の中には、17年間、毎日通学路に立ち、地域の安全を見守っている方もいます。皆、子どもからご年配方までの「ありがとう」の笑顔に支えられて頑張っています。年に一度、2月に小学校の児童会主催で「感謝の会」が催され、当会の会員が招待を受けます。

子どもたちの手作りの感謝状と丹精込めて育てられた鉢植えをもらうことも楽しみとなっています。

ひとりで安心して暮らせる地域の見守り活動

ひとり暮らし高齢者配食事業

所在地：伊豆の国市四日町302-1 韮山福祉保健センター

伊豆の国市社会福祉協議会

連絡先：電話 055-949-5818 F A X 055-949-2540

E-mail：info@izunokuni-wel.jp

代表者（連絡窓口）：会長 碓井和美（辻延子）



活 動 内 容

【活動地域・内容】

伊豆の国市内で生活されているひとり暮らし高齢者を見守るため、年3～6回程度、ボランティアさんが作ったお弁当を、民生委員がお持ちして安否確認を行っています。



活 動 を 始 め た 経 緯

伊豆の国市は、平成17年4月に旧大仁町、旧韮山町、旧伊豆長岡町が合併してできた市です。地区によって産業構造の違いなどから地域性が異なっているものの、どの地域においても、高齢化率が増加しており、特にひとり暮らし高齢者や障がい者世帯が増加しています。

社会福祉協議会では、民生委員やボランティアの協力を得て、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者世帯の把握に努めています。合併前から行っていた見守り活動を一層充実できないか、日常や災害時などの安否確認など地域と世帯をつなぐ手法を検討しています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

<大仁地区>

会場：大仁保健センター

人員：ボランティアゆずりはの会 20 名
大仁地区民生委員児童委員協議会
40 名

<伊豆長岡地区>

会場：長岡あやめ会館

人員：ボランティアすこやか会 23 名
伊豆長岡地区民生委員児童委員
協議会 37 名

<菰山地区>

会場：菰山福祉保健センター83 名

人員：ボランティア菰の花 46 名
菰山地区民生委員児童委員協議会

【運営経費】

共同募金配分金

【大切にしていること】

配食を届けることで、ひとり暮らし高齢者と民生委員との接点を持つこと。

食事の感想やお礼の電話をいただき、その反応を配食を作るボランティアさんに伝えることで、活動の活性化につながっていきます。



活 動 の 実 績 ・ 効 果

配食による安否確認だけでなく、ボックスティッシュ（生活に関わる相談先をデザインしたもの）の配布や消防職員・電気保安協会職員の訪問等、ひとり暮らし高齢者と、地域との接点を広げています。



運営者からのメッセージ

個人情報保護法の施行から、ひとり暮らし高齢者や障がいを持った方の情報もなかなか入らない状況になっています。東日本大震災が発生し、ご近所付き合いや助け合いの気持ちが大切であることが再確認されているようです。配食事業は合併前から実施している事業ですが、対象者の増加と

援するボランティアの高齢化など、早急に解決しなければならない課題もあります。今後もこの事業を継続するために、それぞれの地域で、よりよい支援の在り方や体制づくりを検討していきたいと思います。

災害時一人暮らしや障がい者へのお助けグッズ

大平安心くんの配布で地域の見守り

所在：沼津市大平2197-1 大平地区センター内

連絡先：055-934-3980

代表者：大平地区社会福祉協議会 会長 的場 達雄



活 動 内 容

【活動内容】

障がいを持った人や、一人暮らしで75歳以上の高齢者の方は、災害時に対する備えが出来ていないのが現状ではないでしょうか。そこで、大平地区では、災害時要援護者として登録された方に対し、防災グッズ「大平安心くん」を無料で配布して、見守り活動を行っています。

1. 地区の一人暮らしの高齢者の調査
2. 地区別一覧表の作成
3. 活動する方の選定…自治会長・民生委員・福祉委員
4. 活動する人への教育(個人情報保護について)

訪問時、「大平安心くん」の中身を交換するとともに、該当者の現況や健康状態を確認し、報告書に記録して次回訪問の参考するためにファイルにしています。

【防災グッズ「大平安心くん」の中身と目的】

〈中身〉懐中電灯、笛、水のペットボトル、キャラメル、絆創膏、三角巾、濡れティッシュ

〈目的〉1. 地震の時に逃げ遅れや閉じ込められた時、高齢者や障がいを持った方は声を出しても外に聞こえません。笛を吹き、外にいる人に自分の居場所を知らせたり、水やキャラメルを食べ、助けが来るまで待ちます。

2. 配布後、半年毎に、懐中電灯の点灯確認や賞味期限のある水のペットボトルやキャラメルの入れ替えを行うために友愛訪問をします。その定期的に顔の見える関係づくりを目指します。

【活動時期】 毎年6月・12月

【対象者】障がい者33名、一人暮らし高齢者42名

活 動 を 始 め た 経 緯

大平地区では、市よりも高齢化率が高く、団塊の世代が高齢者となり、毎年65歳になる人が約100名ずつ増える一方、新生児の誕生は20名弱であり、若者は大学や就職を機に、ほとんどが故郷に帰らず、少子高齢化が進んでいる現状であります。そのため、障がい者や一人暮らしの高齢者がますます増えていくことが予測される中、見守りを検討している時、市から災害時要援護者の対応について検討す

るよう依頼がありました。そこで、平成20年に市社協が実施した視察研修会で紹介された横浜市池部地区の「安心くん」が、大平地区でも利用できるのではないかと、専門部会の安全会議(自主防、安協、消防、警察などで構成された災害委員会)で検討してきました。その結果、大平地区仕様にアレンジした「大平安心くん」を採用することに決定しました。

運 営 方 法

【活動者】自治会 1 1 名、民生委員 8 名、社協福祉委員 2 2 名

【運営経費】

「大平安心くん」1セットの費用は、7品目殆ど100円均一で調達し、全品目で1,000円以下に収めています。

【大切にしていること】

- ・個人のプライバシーや人権を守る。
- ・信頼関係を大切にする。
- ・訪問時にはいつも明るく元気な身体で伺う。
- ・困ったときには一人で解決せず、関係者に相談して対応する。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

再訪問時に「大平安心くん」を確認すると、キャラメルや絆創膏などをお孫さんにあげてしまったり、怪我に使用したり、防災に関係なく使用していることもありますが、楽しく話すきっかけとなり、見守りに最適なグッズとして利用されています。現在まで、幸いなことに災害に利用することもなく過ぎていますが、懐中電灯などは普段から身近に置いてくれているようです。

【これからの見守りについて】

少子高齢化の現状を考えると、いずれ高齢化が40%を超えることが予想されますが、高齢でも元気な方が多くおられるので、そのような方の協力をお願いすることも検討しなければなりません。一方、障がいを持った方や一人暮らし高齢者だけでなく、老々世帯も対象にすることも必要と考えています。配布を行って3年が経過しましたので、利用者の実態調査を行い、様々な意見を検討し、最も有効に利用しやすいよう考慮して、安心安全なまちづくりを目指して活動していきます。

利用者のこえ

市販されている防災グッズよりコンパクトで玄関など狭い所におけるので良い。

この前の計画停電の時など、懐中電灯が身近にあったのですぐ利用できて良かった。

身近におけるので安心感がある。



運営者からのメッセージ

訪問する時に何もなく訪問するよりも、グッズを持っていくことにより話しやすくなった。

災害が話題になっている時に防災グッズは話題性もあり、大変喜ばれている。

「ありがとう」「また来てね」の言葉に支えられて

川根本町赤十字奉仕団

所在：榛原郡川根本町上長尾 6 2 7

連絡先：0 5 4 7 - 5 6 - 2 2 2 4 (川根本町役場 福祉課)

代表者：委員長 井澤 玉枝



活 動 内 容

【活動地域・内容】

○高齢者見守り事業

一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅を定期的に訪問し、安否確認を兼ねた見守り活動を行っています。

○福祉施設におけるボランティア活動

町内2ヵ所の福祉施設において、入所・通所されている方々のお手伝いをボランティアで行っています。主には、話し相手のボランティアをしていますが、お食事等のお手伝いも行っています。入所・通所されている皆さんと一緒に楽しいひと時を過ごしています。



○講習会・研修会

災害時でのボランティア活動に役立てるように、災害時生活支援講習会などの研修や活動の親睦を深める為の研修、海外たすけあいの街灯広報などを、町内数カ所で行っています。

【対象者】

川根本町にお住まいの方ならどなたでもご参加いただけます。

※毎年2月下旬～3月中旬にかけて、団員の者が地区の皆様に参加のお願いに訪問させていただきますので、その機会にぜひご参加ください。

なお、事務局までご連絡いただいても構いません。

活 動 を 始 め た 経 緯

以前は、本川根赤十字奉仕団と中川根赤十字奉仕団に分かれていましたが、平成17年度の市町合併により、川根本町赤十字奉仕団となりました。

旧町から長年にわたり行われてきた地域の方とのふれあい、人と人とのつながりをなくさない為、川根本町赤十字奉仕団として新たな活動を始めました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

川根本町全域を対象としています。現在、
団員は98名です。

【運営経費】

町補助金 200,000円
分区交付金 220,000円
団員社費 98,000円

【大切にしていること】

お宅を訪問し、お話をさせていただく際
には、少しでも気持ちが和らいでもらえ
るよう心がけています。



活 動 の 実 績 ・ 効 果

一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅を定期的
に訪問し、必ず会話を楽しむようにして、
一人暮らしの方がふさぎこんでしまわない
よう「心のケア」も心がけています。
過去には、静岡新聞社・静岡放送の「善行賞」
も受賞をしました。団員全員が活動を理解
し、協力している事の実績だと思います。

また、地域の方とのふれあい、人と人との
つながりを大切にできる活動をするこ
とにより、「ありがとう」「また来てね」とい
う言葉がもらえることが、一番の実績だ
と思います。



団員のこえ

- ・一人暮らしの方は、どうしても人
と話す機会が減りがちです。そのた
め、お邪魔すると、ついつい長話に
なってしまいます。皆さんが喜んで
くれるのが一番の励みです。
- ・自分も家族も健康だからこそ続け
られる。これはすごく幸せなこと
と感じています。
- ・お邪魔した時の皆さんの喜んだ顔
をみるのは、私たちにとっても生き
がい、喜びです。

運営者からのメッセージ



これからも、地域の方たちが笑顔でいられ
るように、団員みなで力を合わせて頑張
っていきたいです。

一人の百歩より 百人の一步

西山口地区福祉協議会

所在地：掛川市藺ヶ谷 881-1
東部地域健康医療支援センター内
連絡先：企画委員長 菅沼孝行 0537-22-9539
代表者：会長 落合 登



地 域 概 要

西山口地区は、掛川市の中央よりやや東部に位置し、地区内を東海道の街道が通る歴史や文化を持ちつつも、都市化が進む地区です。小学校区を単位とした人口 7,563 人、世帯数 2,734 世帯（平成 24 年 1 月 1 日現在）と、市内でも 1～2 の規模を誇ります。

従来より、コミュニティセンター的役割である地域生涯学習センター内の福祉部が、専門機関の一つとして地域福祉活動を担っていましたが、活動の限界を感じていた平成 18 年、市社協の呼びかけにより組織の見直しを行い、平成 19 年 6 月に現在の組織「地区福祉協議会」を設立しました。

地区内の 7 つの区（自治会）を単位に、地区福祉協議会「支部」が設置され、活動の役割分担がなされているとともに、5 つの専門部が様々な活動を実践しています。



全体研修会の様子

活 動 内 容 等

【活動をはじめたきっかけ】

都市化、核家族化が進む地域状況を踏まえ、新組織設立時の基本構想として「高齢者見守りネットワークの組織的取り組みの具体化」を柱の一つとしました。併せて、行政から「災害時要援護者避難支援個別計画作成」の取り組みが区に依頼されたことや、市社協が「小地域福祉ネットワーク活動」の推進を呼びかけたことも、推進のきっかけとなりました。

【活動内容】

①組織で対象者を選定し、②主に民生委員が活動を説明し、同意をとります。③協力者を選定し、活動内容を確認した後、④訪問・声かけを中心とした活動実践が始まります。⑤また、支援員を交えて定期的に会合をもち、経過報告や課題の検討を行っています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

活動のエリアを日常顔の見える支部（区）とし、支部単位に推進のための「〇〇支部福祉委員会（以下「委員会」）を順次設置しました。委員会を中心に対象者の選定や支援員・支援方法を決定、ネットワーク活動を実践しています。

委員会は定期的に開催され、支援員からの報告を受けて見直し活動の改善を行ったり

大きな課題に対しては、地区福祉協議会に設置されている「西山口見守りネット会議」にて検討されたりします。委員会は、支部役員（区長会役員、民生委員）と福祉委員等の10名程度で構成されています。

【運営経費】

「見守りネットワーク活動」は経費のかかる活動ではないので、予算化はしていません。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

【実績・効果】

個別支援に関わる実践であり、プライバシーの問題や、関わりが難しい対象者の場合等、取り組むまでは、慎重な意見も多くなりましたが、「できる1例」を大切に育てるところから活動していきました。実績が出たことが実践者の自信となり、実践地区の広がりにつながりました。活動によって「一命を取り留めた」という事例もありますが、何よりも、活動を通じて区内の「気になっていた人」と一般の住民との接点ができ、「見守りネットワーク活動」に留まらない、日常の人と人とのつながりが育ってきていることが最大の効果です。

【今後の展望】

「学習」と「話し合い（振りかえり・協議）」を丁寧に行っていることが西山口の特徴です。住民への啓発、活動理解、課題共有と共に、実践者が活動から学ぶことにより、新たな「気付き」を産み、住民自身が「福祉力」を高めていくことにつながっていま

す。高められた住民福祉力と様々な専門職種との連携により、住民主体の地域包括ケア活動が展開されることを期待しています。

【運営上の課題点】

実践事例のほとんどが、高齢者対象の見守り活動ですが、高齢者に留まらず、区内で様々な課題を抱えた人を見守ることも必要です。実践活動を積むことで視点を広げていきたいと思っています。

運営者からのメッセージ

「見守りネットワーク活動」は、要支援者のおかれている環境や健康状態、生活様式が千差万別であるため、対象範囲を広げにくく、困難点も多い事業です。

学習の場や行政関係者からのアドバイス、連携する場を年間計画の中に位置づけながら、決して欲張らず、できることから取り組んでいきたいと思っています。これは、活動を今後へつなげる大事な要素だと考えています。

災害に備えてのたすけあい！一人暮らし高齢者等への家具固定の支援

家具固定ボランティアグループ **家具やしめ隊**

所在地：富士市本市場432-1

富士市フィランセ東館3階ボランティアセンター内

連絡先：0545-64-7100（ボランティアセンター）

代表者：リーダー 小長谷亘弘



活 動 内 容

【活動地域・内容】

富士市内在住の一人暮らし高齢者や高齢者世帯等、自分では家具の固定ができない方に対して、家具転倒防止器具や飛散防止フィルムの貼り付けなどのお手伝いをしています。

【利用方法】

利用希望者は、ボランティアセンターに電話で申し込みます。申し込みを受けたセンターでは、職員がご自宅を訪問し、取付希望の内容と必要な固定器具の確認をさせていただいた上で、家具やしめ隊のメンバーに依頼します。実際の取付には4~6名の家具やしめ隊のメンバーがお伺いして作業を行います。



【活動日・利用時間】

申込受付は、祝祭日を除く平日の8:30~17:00の間にボランティアセンターで受け付けます。

取付日については、依頼者と相談の上決定します。

【利用料】

家具固定器具の取付費用に関しては無料です。ただし、家具の固定に必要な器具や材料代は依頼者の自己負担となります。その他、以下のことをお願いしています。

※固定作業の際は立ち会ってください。

※借家の場合は、事前に家主の許可を得てください。

※家や家具の状況などで取付ができない場合がありますのでご了承ください。

活 動 を 始 め た 経 緯

平成22年3月に富士市社会福祉協議会が主催する「家具固定ボランティア講座」（協力：株式会社エンチョー）を受講した受講者有志が集い、講座で得た知識や技術を他者のためにも役立てたいと、平成22年4月に発足しました。「家具やしめ隊」という名は、富士市の象徴でもある「かぐや姫」と「家具などを締めたい」という思いを込めて会員同士で決めた名前です。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

ボランティアセンターを拠点に活動しています。取付作業に必要な工具等は、静岡県ふれあい基金助成金（県社協）や市民活動助成金（市社協）からの助成で整備しました。毎月最終火曜日の夜間に、工具の使い方やフィルム貼りの練習などを兼ねた勉強会を行っています。現在 38 名が登録しており、女性メンバーも 8 名活躍しています。

【運営経費】

各種助成金を活用しています。

平成 23 年度静岡県ふれあい基金助成金など

【大切にしていること】

もともと日曜大工などが好きなメンバー達なので、取付方法についてあの方法がいい、これがいいなどと意見を交わしながら、みんなで和気藹々と活動しています。女性メンバーがいることも会が和む秘訣だと思います。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

発足当初は、なかなか依頼がありませんでしたが、平成 22 年 8 月の静岡沖地震や、記憶に新しい平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災、その後の県東部地震等をきっかけに、家具の固定に関する関心が高まったことに伴い、依頼件数も増えてきました。大災害後は依頼する方も重なり、また、店舗に必要な取付器具を買いにいつでも品薄状態で買いそろえられず、入荷するまで依頼者に待っていただくような状態でしたが、現在は順調に活動しています。

また、民生委員児童委員や地域包括支援センター等に PR したところ、そちらを通じて依頼される方も増えてきています。さらに、活動の様子が静岡朝日テレビの「エンジョイ DIY」でも取り上げられ、徐々にではありますが、市民にも家具やしめ隊の活動が知られてきたように感じています。非常食や備蓄品を備えるより先に、まずは身の安全を守る家具固定の大切さを広めていきたいです。

23 年度実績	取付軒数	29 軒
(24. 2. 1 現在)	出勤人数	281 人

依頼者のこえ

- ・大きな地震があり、寝室のタンスが固定されておらず、おちおち寝てもいられなかったが、しっかり固定してもらってこれで安心して眠れます。
- ・器具は用意したが、いざ取り付けようと思ってもなかなか自分ではできませんでした。固定していただいて助かりました。
- ・女性のメンバーがいて、作業中、話相手になってもらえて良かったです。

運営者からのメッセージ



私たち、家具やしめ隊のメンバーは、戦後の繁栄を築いてきたお年寄りに、災害による被害を少しでも無くすことができればという望みを持って今後も活動していくのが使命ではないかと思っています。

私たちは、あらゆる方々が
生き生きと生活するためのネットワーク作りをしています

NPO 法人 生き生きネットワーク

所在：〒420-0882 静岡市葵区安東 1-23-12

電話：054-209-0700 FAX：054-209-5700

E-mail：npo_ikiiki@pure.ocn.ne.jp

URL：http://ikiiki.canariya.net//



活 動 内 容

【活動地域・内容】

1983年に「働く母の会」として発足後、1999年、静岡県第1号のNPO法人として認証されました。私たちは「ひとりひとりが生き生きと生きるためのネットワーク作り」をしている会員組織で、「困ったとき、伺います！」をモットーに、準家族としての助け合い活動をメインの事業としています。現在は、高齢者介護、障害児・者支援、子育て支援、清掃やリフォーム等、幅広い活動にも取り組んでいます。2007年、内閣総理大臣「再チャレンジ支援賞」受賞。

【会員登録のご案内】

生き生きネットワークは、「こんな団体があったらいいな」と思う人たちの集まりです。助けたい人も助けて欲しい人も、それぞれにドリーム会員、ワーカー会員、正会員、賛助会員として会費をいただき、運営しています。会員になると、生き生きネットワークの色々な支援が利用できます。また、情報交換の場としてのご利用や、研修会・交流会等にも参加いただけます。

活 動 を 始 め た 経 緯

生き生きネットワークは、「助けて欲しい」という人と、「力になりたい」という人を結ぶ活動をしています。家族の形が多様化したことで、これまで家族が担っていた機能を「外注化」せざるを得なくなってきました。介護や家事のお手伝い、高齢者のデイサービス、病児保育、ベビーシッター派遣、障害者の自立支援等、家族の代わりとなる「準家族」としてサポートしています。

生き生きネットワークの施設の一つに「複合デイサービス喜楽庭」というものがあります。ここでは、ごく日常的に高齢者と子ども、そ

して障害者が一緒に時を過ごしています。皆で赤ちゃんを笑顔で抱っこする姿は、昔の大家族ではよく見られた光景です。皆さんの様子はとても和やかで、自宅とは違う、もう一つの居場所のような空間となっています。一人でも多くの人に生き生きと生きて欲しい、そのためのネットワークを構築したい。そうした気持ちで、毎日活動しています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

高齢者と子どもと障害者は、「社会的弱者」と表現されることがありますが、私たちは一度もそう感じたことはありません。誰にでも困った時はあるものですから、「高齢者・子ども・障害者＝弱者」ではないと思います。助け合うお相手に過ぎません。

ちなみに、「活き生きネットワーク」で働いている人の最高齢は 82 歳。今年には 65 歳以上が 12 人、80 代も 2 人います。誰にでも何かしら特技があり、中には資格を持っている人もいます。人材を

活かす・活かさないは、コーディネートの問題です。求人票に「年齢問わず」と書いてあっても、10 代から 80 代までの人に門戸を開いていて、実際に合格させる事業所は珍しいでしょう。しかし、この「何でもアリ」が、NPO 法人ならではの持ち味だと感じています。



活 動 の 実 績 ・ 効 果

★助け合い事業

- ・介護、家事支援全般（困ったとき、伺います。）
- ・いきいきリフォーム
- ・なんでも相談事業他

★子育て支援事業

- ・ベビーシッター派遣
- ・託児ルーム「エンジェルハウス」他

★障がい者支援事業

- ・居宅介護、重度訪問介護事業所

・異動支援事業所

- ・生活介護、日中一時支援（喜楽庭成人部）
- ・児童デイサービス（喜楽庭児童部）
- ・わんぱくタイムケア事業
- ・障がい者の就労支援事業他

★高齢者支援事業

- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問介護事業所（ヘルパー派遣）他



運営者からのメッセージ

☆助け合う地域のつながりが世の中を変える

活き生きネットワークには、喜楽庭というデイサービスがあります。ここでは、ごく日常的に高齢者と子ども、障害者が共に過ごしています。皆さんの顔はとても和やかで、まるで、もう一つの居場所のような空間となっています。未曾有の東日本大震災により、「復興への願いと祈り、誰かを助けたい」人々の気持ちが高まる中で、地域の助け合い活動が日本中で広がりを見せています。私たちも「困ったとき、伺います」

を合言葉に、準家族として共に支え合う助け合いを原点に日々活動しています。私たちができること、その本分を果たすことで、心を寄せていければと願っています。未来を信じて…。

お互い身体に気をつけて、頑張りましょう。



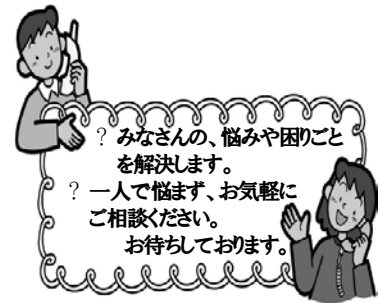
活き
生き
ネットワーク

理事長杉本彰子

幸せは、みんなの力でみんなの安心

福祉なんでも相談窓口

所在地：庵原生涯学習交流館 第2会議室
連絡先：054-368-1247
代表者：庵原地区社会福祉協議会 池田政子



活動内容

庵原地区社協では、静岡市社協と協働して、「一人たりとも見逃さない、住み慣れたこの庵原で安心して暮らせるまちづくり」を目指して、身近で気軽に相談できる窓口を設置しました。

【活動内容】

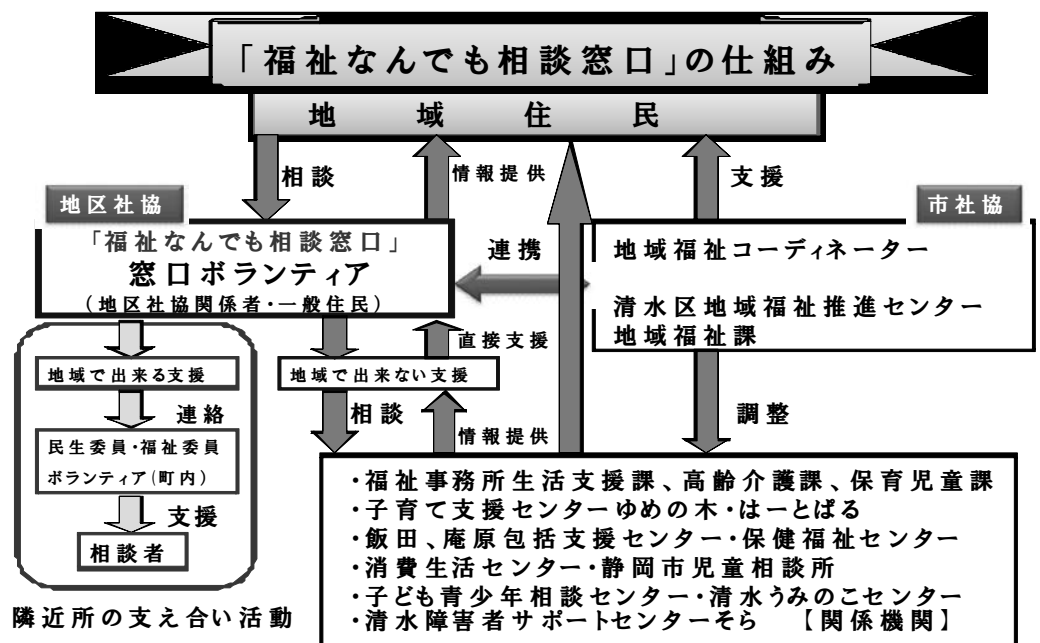
- 相談に対する電話対応
- 町内で解決できるもの、できないものを判断する。
- できないものは、市社協または関係機関へ連絡（相談）する。
- 相談者に情報の提供（関係機関から直接支援してもらう事もある）
- 町内で解決できるものは民生委員または福祉委員に連絡する。
- 急を要する時は隣近所の人に連絡し、支援をお願いする。
- 日報の記入

【相談内容】

- 生活保護について・DV（家庭内暴力）
- 介護保険、高齢者福祉・高齢者の虐待・高齢者の話し相手
- 健康に関する問題・悪質販売、消費者被害
- 家庭育児相談・乳児保健福祉・保育所について
- 子育て支援などサービス全般
- 児童(18歳まで)虐待や権利侵害緊急通報
- 不登校、いじめなど20歳までの子どもに関する悩み
- 障害者福祉問題・その他何処にも属さないこと・ボランティア保険など

【対象者】

地域住民（個別支援）、悩みごとや困りごとなどを持った人



活動を始めた経緯

庵原地区は、多くの活動を展開しておりますが、その谷間にある問題解決の為、これまで活動の振り返りとして、参加者の感想やアンケートを実施して、次の活動に活かすよう努力してきました。住民の問題・困りごとを、制度サービスにつなぐ解決やたやすいが、支えるサービスそのものがないケースも少ない。個別ケースの対応・隣近所の支え合いをする為「幸せは、みんなの力でみんなの安心」、私たちのまち庵原は、「みんな」で「みんな」の幸せを願い、叶える場所であるという理念を掲げ、お互いを思いやり、助け合いの心を持って福祉のまちづくりを進めております。

平成20年から3年間、研修・地域座談会などを重ねて検討してきました。

1年目：「福祉なんでも相談窓口」検討委員会を立ち上げる。15名

2年目：1年かけて地域座談会を12町内で14回実施。趣旨を説明し、住民の声を聴く（生活課題など）

3年目：窓口ボランティアを募集。4カ月間に8回の勉強会(研修)を開催。立上に向けて準備を行う。

※毎年、先進地域への視察研修を行う。

運営方法

【活動場所・時間】

庵原生涯学習交流館 第2会議室

毎週火曜日 10時～12時

(年末年始・交流館の休館日を除く)

【運営者(相談委員)】

ボランティア32名

(4カ月間で8回の研修を受けた者)

※当番制のため、1日3名

活動の実績

4月からスタートして10ヶ月で、7件の相談がありました。生活保護の問題・不法請求の問題・心に病気を持って庵原に引っ越してきたけど、引っ越しの片づけが出来ない・台風で雨戸が外れてしまっはめられない(一人暮らし高齢者)・介護保険の申請方法が分からない・明日から地デジに変わるが映るか心配(一人暮らし高齢者)などの声に対応してきました。

本日開設しております
福祉なんでも相談窓口
受付電話番号
080-2617-1800
受付日 : 毎週 火曜日
受付時間: 10時～12時
1人で悩まないでご相談ください。

運営者からのメッセージ

関係機関や市社協の御協力もあって、解決につながりました。お礼の電話を頂くこともあり、みんなに大変喜んで頂きました。たった7件というより、7人の人を支援出来たという喜びを実感しています。

地域でやれることはやっぴいこう！～地域でボランティアセンターを運営～

ボランティアセンター“こまごえ”

所在地：静岡市清水区殿沢2丁目5-18
住民サロン“こまごえ”内
連絡先：054-335-4550
代表者：センター長 朝比奈伸江



活 動 内 容

【活動地域・内容】

静岡市清水区の駒越地区在住の高齢者世帯（一人暮らし、高齢者のみの世帯）、障害をもつ方がいる世帯、未就学児童がいる世帯を対象に、家の周りや庭の草取り、低木の剪定、ゴミ出し、買い物代行、部屋の掃除、病院送りなどを行っています。

【利用方法】

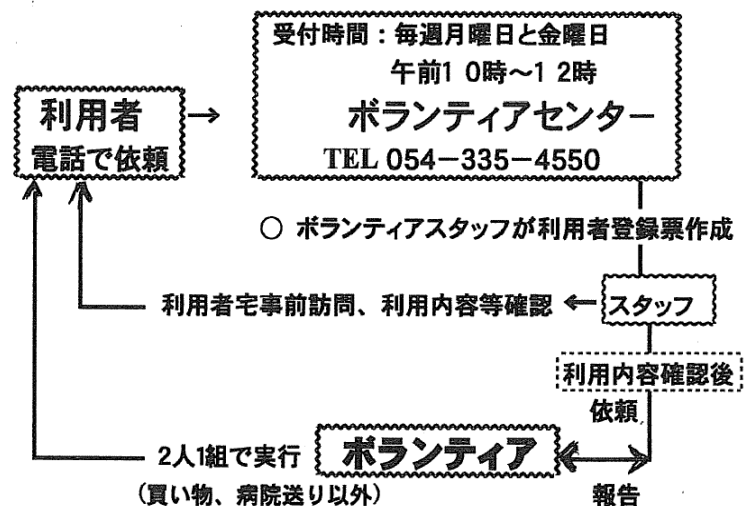
利用希望者は、ボランティアセンターに電話で申し込みます。申し込みを受けたセンターでは、スタッフ（コーディネーター）がご自宅を訪問し、利用内容の確認をさせていただいた上で、支援をボランティアに依頼します。ボランティアは、原則として2人1組です。

【活動日・利用時間】

毎週月曜日～金曜日 午前9時～午後4時
※ 利用申込は、毎週月曜日と金曜日の午前10時～12時

【利用料】

無料



活 動 を 始 め た 経 緯

駒越地区社協では、少子高齢化・核家族化が進む現状を踏まえ、小学生や中学生を交えた地域全体で、「誰もが住んでいてよかった」といえる福祉のまちづくりを目指して、「地域福祉活動計画」を策定し、住民の憩いの場、交流の場、そして駒越地区社協の活動拠点とすべく、住民サロン“こまごえ”を平成22年2月に開設しました。

その活動計画推進項目の一つに、地域の住民同士がつながり支え合うためのボランティアセンターの開設、運営が盛り込まれ、平成23年4月から住民サロン内にボランティアセンターを開設しました。

住民サロンでは、手芸、健康マージャン、囲碁・将棋の3クラブと男性主体のS型デイサービスを行っており、連日大賑わいです。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

住民サロンの開設にあたっては、地域住民の紹介で一軒家を借り受け、連合自治会の補助や地元企業からの建材の提供、地元大工さんの協力で、壁やふすまの張替え、水洗トイレへの改修、空調機の設置などを施しました。ボランティアセンターは、住民サロンの一室で、毎週月曜日と金曜日の午前10時～12時、スタッフ10名が交代で運営しています。ボランティアは、現在26名の登録ボランティアで対応しています。

【運営経費】

主に、地区社協活動費（市社協からの活動助成金等）を活用しています。

年間活動経費 約3,780千円

【大切にしていること】

住民相互の助け合いを大切にしているため、利用申込みにあたっては、コーディネーターが事前訪問し、利用内容をしっかり確認したうえで調整しています。また、互いの助け合いの思いを尊重し、利用料はいただいません。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

開設当初は、なかなか問い合わせがありませんでしたが、2ヶ月を過ぎると、問い合わせも多くなりました。月平均で10件位の利用者がいます。主に、買い物代行や病院送り等の利用が多く、最近では部屋の掃除や庭の水かけ等の利用も増えてきています。

この活動には、地域の自治会や民生委員をはじめ、様々な方々の協力・応援をいただいています。



利用者さんのこえ

- ・年をとると、困り事が少しずつ増えてきますが、地域の方々の協力のおかげで長年住み慣れた自宅での生活を続けることができ、本当に助かります。
- ・何度かお願いすることで、ボランティアさんとのコミュニケーションもとれるようになり、感謝でいっぱいです。これからも時々お願いしたいと思っています。

運営者からのメッセージ



「助かったよ、ありがとう」の言葉を聞くたびに幸せになります。これからも少しでも多くの方がこの地域に住み続けられることを願います。

地域で高齢者を支える福祉活動

楽しさと学びを届ける なみぞうげきだん “浪蔵劇団”

所在地：焼津市東小川 5 丁目 1 3 - 7

連絡先：0 5 4 - 6 2 7 - 5 6 1 7

代表者：山 口 浪 男

仲間たち：杉山幸代、村松 茂、増田静子 池ヶ谷さち



活 動 内 容

【活動地域・内容】

ご要望があればどの地域へも出掛けます。

パートⅠは高齢者向き、パートⅡは一般向きの演目になっています。

パートⅠ：危険がいっぱい悪質商法(50分)

パートⅡ：認知症高齢者への接し方(38分)

これまで焼津、藤枝、島田各市内、遠くは袋井、御前崎、菊川市内の会場で活動してきました。

【利用方法】

依頼の殆どが口コミによるものです。

公演依頼を受けますと、2種類の劇(パートⅠかパートⅡ)のうち、どちらかを選んでいただきます。そして、会の名称や会場(場所)、実施日、責任者の名前をお聞きした上で、団員の動向を調整してからご返事を差し上げています。気軽にお電話ください。

【活動日・利用時間】

パートⅠの劇は、地区で決められた日が活動日です。

パートⅡの劇は、自治会の役員会や民生委員児童委員協議会、公民館女性講座等が対象になります。

高齢者や老人会が主体ですので、午前中(10時~12時)が主な活動時間です。しかし、敬老会等依頼側の時間帯の都合もあると思いますので、相談させていただきます。

【利用料】

小道具を積んだ2台の車で現地へ出向きますので、ボランティア劇団ですが、ふれあいサロンや老人会では、車代・謝礼(数千円)をいただいています。福祉大会や敬老会では、主催者側にお任せしています。

活 動 を 始 め た 経 緯

安全で明るい街づくりを目指し、自治会活動における福祉活動の一環として、平成21年11月に『ご近所福祉2009 イン小川』を企画しました。その際、地元有志により、「危険がいっぱい悪質商法」の防犯寸劇を小川公民館で演じました。当日は300余名の参加があり、多くの参加者から好評をいただくと共に、新し

いコミュニティづくりの一環として劇団活動がマス・メディアに大きく報道されました。これを機に、防犯啓発活動に取り組む決意を新たにし、平成22年2月に正式に劇団を結成しました。公演活動は、月に4回以内をメドに行っています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

焼津市小川地区在住の有志5人(男性2人、女性3人)によるボランティア劇団です。ご要望のあった地区の状況により、市文化会館や町内会館、地域の公民館、公会堂等を会場にしています。

【運営経費】

ボランティア劇団であり、地区の助成金はありません。

【大切にしていること】

～楽しさと学び合いを両立させて～
公演に先立ち、依頼のあった各地区の会場等を事前に調べ、地域性を採り入れ、公演当日は親近感と会場での一体感が生まれるように心掛けています。また地域の被害状況をお知らせすることで、学び合いの場となっています。(パートI)

活 動 の 実 績 ・ 効 果

ぶっつけ本番が取り柄の劇団ですが、悪質業者、被害者、家族をコミカルに演じ、笑いと教訓を参観者にお届けしています。会場は大きな笑いに包まれます。

平成22年2月発足以来、75回の公演を実施しました。

平成24年に入ってから、2月現在で既に18の地区から依頼を受けています。



参観者のこえ

- ・本当にありがとう。その土地にあったお芝居に仕立てられ、人々に心をとらえて離さない！さすが。(パートI)
- ・日ごろの生活の中にありがちな話題、とっても楽しく暗くなりがちな話題も素直に受け止めることができました。心のこもったお芝居は感動ものでした。団員のみなさん、ありがとう。(パートII)

運営者からのメッセージ



参観者の明るい大きな笑いと温かな拍手が演技する私たちのエネルギーになっています。これからも笑いと学びを地域にお届けしたいと思っています。

“地域でも立ち上げたいねえ！”
そんな声も聞かれ、うれしさ100倍！

近所で手助け高齢者

手助け支援ボランティア活動

所在地：藤枝市大洲3丁目17-12

連絡先：藤枝市立大洲公民館内 大洲地区社協事務局

代表者：地区社協会長



活 動 内 容

【活動内容】

身体的理由で日常生活に困っている方のために、『手助けボランティア』を提供しています。

【活動地域・対象者】

藤枝市大洲地区在住の高齢者世帯の方

【支援の内容】

- ①可燃物や不燃物の整理整頓
- ②荷物の荷造りや発送
- ③古紙・新聞紙等の整理整頓
- ④住まいの整理や片付け
- ⑤庭木の簡単な枝おろし等の手入れや除草
- ⑥電気製品の簡単な修理・照明器具の取替え
- ⑦日曜大工程度の補修作業等
- ⑧その他（要相談）

【利用料】

登録料：200円（初回のみ）

利用料：30分まで50円

以降30分毎に50円

（例. 2時間では200円）

材料費等は実費をいただきます。

【申込み】

地区担当の民生委員・児童委員を通してお申込みください。



活 動 を 始 め た 経 緯

平成15年代、日本社会全体で少子高齢化、核家族化が大きく叫ばれるようになりましたが、当時は介護保険制度も十分浸透しておりませんでした。そのため、お互いに地域でできることに取り組んでいこうという機運が高まっていました。そこで、地域の中で自立して暮らしていけるように、近隣で支援体制を作り、互いに助け合い・励まし合い、安心し

て生活できる住みよいまちづくりを目指し、先進地の見守り活動を視察し、検討を重ねました。平成15年度に開始したこの活動も、現在では8年目を迎えますが、試行錯誤を繰り返しながら、内容の改善を図っています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

藤枝市大洲地区において、ボランティア 9 名、民生委員 15 名で活動しています。



【運営経費】

登録料、地区社協運営費など
※チラシを作成する等、運営のために活用
しています。

【大切にしていること】

地域の高齢者のためにボランティア活動を行
っている会員の皆さんの“気持ち“を、
大切にしていきたいと思ひます。

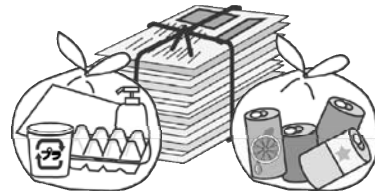
活 動 の 実 績 ・ 効 果

平成 22 年度の活動状況

- | | |
|-------------|------|
| ①不燃物の整理運搬 | 51 回 |
| ②植木の手入れや草刈等 | 59 回 |
| ③日曜大工的な補修等 | 2 回 |
| ④その他 | 1 回 |

活動によって利用者とコミュニケーション
がとれるので、会員の皆さんは喜んで活動
しています。

「公民館だより」「社協だより」に活動を掲
載し、「町内会」「老人会」においても、民
生委員・児童委員により活動を紹介し、ボ
ランティアや利用者の募集に努めていま
す。



会員のこえ

- ・横の繋がりが少なくなっている中
で、近隣での助け合いはとても大切
に感じます。
- ・ゴミ出しが週 1～2 回あるので、定
期的に顔を合わせることができま
す。
- ・「何か用事はないですか」と聞くこ
とが、声掛けのきっかけになってい
ます。

運営者からのメッセージ



高齢者世帯が急激に増加しつつある現状
を踏まえ、今後も地域に密着した活動を行
っていきたいと思ひます。

心のふれあいで、たのしい地域づくり

浅羽東地区地域福祉推進委員会

所在地：袋井市梅山63-1（浅羽東公民館内）

連絡先：0538-23-7470

代表者（連絡窓口）：伊原幸一郎

連絡先：0538-23-2121



活 動 内 容

【活動内容】

①あいさつ運動（特に老人クラブ）

各自治会をとおし、年2回全世帯を対象にあいさつ文を配布

②地域協働バスの運行

【利用方法】

地域協働バス（自主運行バス）

利用希望者は事前登録制により利用日前日までに電話申込をしていただきます。運転者は地区内で募集したボランティア（18名登録者、勤務は半日交代）。地区内乗降場所、行き先等活動についての詳細は、浅羽東地区地域福祉推進委員会の自治会長ら9名で構成する月1回の運行委員会を開催し、決定しています。また、4ヶ月に1回はボラ

ンティアを対象に、交通事故防止のための講習会を開催する他、乗客の要望を活動に反映するよう随時運転手を通じて情報を集めることに努めています。

【活動日・利用時間】

①年2回 パンフレット配布、異世代交流会開催

②月～土運行（1日9便）

8：00～16：00

【利用料】

①無料

②自主運行にて無料

【対象者】

①浅羽東地区の全住民

②浅羽東地区在住の高齢者

活 動 を 始 め た 経 緯

①平成19年、地域福祉推進委員会発足に当たり、地区の重点目標として何が必要かを協議する中で、「最近当地区は昔からの在住者と新規加入在住者が増加した混在地区へと変わりつつある。昔ながらの隣家の付き合いが希薄にならないようにする必要がある」との意見が出されました。そこで、6つの言葉（①朝起きたら「おはよう」、②外から帰ったら「ただいま」、③食事の前「いただきます」、④食

べ終わったら「ごちそうさま」、⑤寝る前に「おやすみなさい」、⑥感謝の気持ち「ありがとう」）が記された看板を区内6ヶ所に設置しました。

②平成21年の路線バス廃止等に伴い、当地区内は交通の便が悪くなりました。住民の足として買い物、外出や市役所への往復を実現すべく、地域協働バス（自主運行バス）運行を実施するに至りました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

- ①あいさつ運動
地区内6ヶ所に看板を設置（小学生、一般）
各自治会（4自治会）
委員25名と地域全体
- ②地域協働バス（自主運行バス）
浅羽東地区全体
運行委員会9名
ボランティア運転手18名

【運営経費】

社会福祉協議会 助成金
袋井市市民協働課 助成金

【大切にしていること】

- ・住民のふれあい
- ・地域活性化と住民の生きがい、楽しさ

活 動 の 実 績 ・ 効 果

①あいさつ運動を通して、地域内の老人クラブや小学生との結びつきが強化され、各自治会で開催される交流会への参加者数も増えました。また、異世代交流会を通じて、住民間に親しみと心のふれあいが生まれました。

②地域協働バスの運行により、地域内の高齢者に、喜びと安心感が生まれました。特に日常生活に必要な買い物や通院、市役所等への用件が電話一本のバス予約により済ませられるようになりました。この運行の

取り組みは、「あいさつ運動」によって地域でのふれあいが育まれていたため、すぐ実行に移すことができました。現在この地域力をもって、「小地域見守り隊」の発足に向けて、自治会ごとに協議を重ねています。民生委員や自治会、ふれあい・いきいきサロン関係者等地域の方々が協力し合い、高齢者の不安軽減及び孤立死予防のために生活を見守っていくことができると考えています。

「地区内お年寄り」のこえ

- ・仲の良い3人で買い物ができ、便利です。
- ・袋井市街、磐田市への便利なアクセス便として活用しています。
- ・公民館で開催する講座へ参加が楽しみです。
- ・雨や風の日でも、安心して医者に行き、便利です。

運営者からのメッセージ

地域の方々の力を得て、よりよい地域となるようにしたいと思います。

そのためには、「老人クラブ活動と子どもたちの交流」のきっかけづくりや、高齢者の生活を地域で支える仕組みづくりが大切だと思います。高齢化率が低くない今から、将来を見越して活動しています。

いつでも どこかで やっている幸せ運動

蒲地区社協 家事支援事業「めくもい」

所在地：浜松市東区子安町 309-1

蒲公民館内「ネットワーク蒲」

連絡先：053-462-6576

会長：水下浩

家事支援事業：代表 本田榮一 窓口担当：熊岡邑子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

浜松市東区の蒲地区在住の高齢者世帯、未就園児童がいる世帯を対象に、家の周りや庭の草取り、部屋の掃除、ゴミ出し、病院の送迎、病院の付添い、託児、散歩等の支援を行っています。また、地域の学校等での託児、子育てサロンの応援等も行っています。

【利用方法】

利用希望者は、ネットワーク蒲に申込みます（民生委員・児童委員経由での申込み方法もあります）。受付記録票をもとにコーディネーターがご自宅を訪問し、利用内容を確認させていただいた上で、援助計画を作成します。援助計画を地域の協力者（支援者）に渡し、支援が開始されます。援助計画により、協力者の人数が定められますが、初回は必ずコーディネーターも同行し、利用者と協力者の間をつなぎます。

また月 1 回の全体会にて、支援内容を他の協力者やコーディネーターと共有しています。

【活動日・利用時間】

月曜日～金曜日

9：00～17：00

【利用料】

1 時間あたり 600 円

※但し、支援内容により金額は異なります。



活 動 を 始 め た 経 緯

蒲地区社会福祉協議会では、社会とのつながりをもちながら、手助けがあれば住み慣れた地域で安心して楽しく暮らすことができるよう、高齢者サロン活動の推進に取り組んでいました。蒲地区内 11 町すべてにサロンが出来たため、次なる事業を計画するにあたって、ニーズ調査を行った結果、家事支援事業への要望が多数ありました。そのため、高齢者世帯を対象とし

た家事支援事業を平成 19 年 1 月に開始しました。その後、地域の小児科病院より、三つ子、双子、年子のいる世帯への支援が出来ないかとの相談を受け、未就園児のいる世帯へも支援が始まりました。最近では、高齢者世帯以上に、未就園児のいる世帯への支援依頼の割合が高くなってきています。

運 営 方 法

【人員体制】

家事支援事業「ぬくもり」スタッフ

- ・代表者 1 名
- ・事務局 2 名
- ・コーディネーター 5 名（男性 2 名・女性 3 名）
- ・協力者 25 名（男性 8 名・女性 17 名）

【運営経費】

事業費（蒲地区社協）・利用料・その他寄付金

【大切にしていること】

地域住民同士が、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにという気持ちを大切にしております。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

概ね全体で月 60 時間から 70 時間程度の利用がありますが、未就園児のいる世帯への支援が多数を占めており、地域性があらわれていると思います。また、活動が知られるにつれ、他地区からの利用希望や、ケアマネージャー・地域包括支援センターからの支援相談が増えてきておりますが、他地区の方、身体介護を必要とされている方は対象外とさせていただきます。

利用者のこえ

家族以外で、久しぶりに大人と会話した。私は、主人の仕事の関係で最近引越しをしてきましたが、近くに援助を受ける親族も友人もないため、この子たち（三つ子）を予防接種につれて行くのにどうしようかと思っておりましたので、大変助かります。

この町では地域の皆さんがこのようなことをしてくれるなんて、本当に住みやすい町ですね。この子たちが学校に入るようになったら、私も、ぜひ手伝わせて下さい。

しかし、この活動が市のどこの地区でも行われていれば、浜松市全体が住みやすい町になります。ご関心のある方に、ぜひ事業展開していただけたらと思います。

活動者からのメッセージ

「助かったよ」「ありがとう」の一言が、このボランティアをやってきてよかったなあと思わせてくれます。

また、支援をしている子どもたちの成長を感じられるのも喜びとなっています。

自分自身も、この地域でいつまでも住み続けていきたいため、安心して住みやすい町づくりに少しでも協力できたらと思っております。



ここに“もうひとりの家族”がいます。

公的サービスだけで要介護者を賄えると思いますか？困ったときは私たちを思い出してください。

優しさを編み出す「ねっとわあくアミダス」

所在地：浜松市東区上西町1270 友愛会館内

代表者：脊古光子

連絡先：電話番号 053-464-8150

FAX 番号 053-411-8141



活 動 内 容

【活動地域】

主に浜松市中区・東区・浜北区(その他は応相談)

【活動内容】

- ・核家族化で支え合う家族が少なくなっています。企業や行政に頼むほどでもない「ちょっとした困りごと」や「気がかりなこと」を実現することで地域に貢献しています。
- ・家族ができることなら、ほぼ何でも協力可能です。
- ・現在主な依頼は、病院の送迎、院内付添い、墓参、買物同行、庭の草取り、部屋の掃除等です。
- ・ボランティア情報伝言板の設置、及び福祉系NPO活動啓発事業。

【対象者】

日常生活支援は、主に在宅の高齢者

【サービスなどの内容】

- ・日常生活支援、福祉有償運送(外出支援)、
- ・居場所(地域の交流の場)の運営や居場所での各種講座の開催(⇒「オープンカフェきじの杜」参照)

【活動日・利用時間】

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

【利用料】

- ・協力・利用、双方とも活動を維持継続するために会員となっていただきます。会員は広い意味で家族という考え方です。
- ・会員になるには
入会金0円、年会費1,200円
- ・サービスを利用する場合
1時間1,200円(交通費は別途)
- ・サポーター(会を支援くださる方)
(1口3,000円)何口でもお願いします。

活 動 を 始 め た 経 緯

個人ボランティアに取り組んでいたとき、様々な要望を見聞きしたことから、このような活動が生まれました。

人が人らしく暮らすには、サポーターの力が必要ですが、家族に要介護者が出ても、助け合うシステムがあれば、休職・退職することなく暮らせます。

話し合える家族のような仲間(会員)がいることで、心身(心も体も)共に健康で暮らせるようになればと思います。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

東区上西町の事務所では、NPO 本来の事業として、日常生活支援や病院等への送り迎えの対応、委託事業・啓発活動、イベント等の企画実行及び総合的事務機能を担っています。事務局は中心となる男性1名女性3名、及び20名ほどの協力者に支えられています。会員総数は現在90名程です。



【運営経費】

サービスを利用する方から支払われる利用料によって運営しています。会員からの収入のみでは運営困難であるため、活動に賛同くださるサポーター(寄付者)を広く一般の方より募っています。

【大切にしていること】

人は「体」の元気と共に「心」の元気も伴わなければ「心身共に元気」にはなれません。「こころ」が大切。「心」や「魂」はお金では買えません。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

- ・2012年に活動14年目を迎えます。この間、市民の困った事例に対応できたのは、これまた多くの市民でした。双方がお互いに多くのことを学び、本当に良かったと思います。
- ・日常生活支援事業は、希望する内容は千差万別ですが、一般的には家の片付け等、一人では困難な作業の他、草取り等が増えています。

外出支援事業では、福祉有償運送を利用したの病院への送迎や外出時の付き添い、買物同行(代行)のご希望が多いです。

時折、墓参りのためにご利用される方もあります。これらの活動の利用者数は、月約25人程度です。



運営協力者の声

- ・たまり場のように、いつ来ても誰かが話し相手になれるような仕組みを検討したい。
- ・個人的にはそれぞれの人が描いている理想像が有ると思うので、少しずつ実現できたらいいなと思う。



運営者からのメッセージ

人との出会いから、人生はより豊かになると思います。誰かのためではなく、どうぞご自分のために、ボランティアへ参加してみたいかがでしょう!

きっと良いことと
沢山出会えること
受け合いです。
人生1回!
楽しみましょう!!



障害のある子どもたちも、私たちもみんなが住みやすい地域を！ ～小地域福祉活動と特別支援学校の連携～

富士岡地域福祉推進委員会 富士見原支部

所在地：御殿場市富士見原 1 丁目 3 3 富士見原集会所内
連絡先：0550-87-3583
代表者：支部長 坂田義勝



活 動 内 容

【活動地域・内容】

御殿場市富士見原区から県立御殿場特別支援学校(以下「学校」)に通学している児童生徒(含む家族)と、地域住民のふれあい交流・相互理解のために次の活動を実施しています。

○地域住民への情報発信

- ①学校や児童生徒のことを全住民に知ってもらえるよう、地区情報紙「富士見原の風」に通学や学校活動の様子、地域との交流活動の様子を掲載しています。また、学校が発行する情報紙「御特だより」も毎月住民に回覧しています。
- ②地区の集会所に掲示・展示スペースを設け、学校の紹介パネルや児童生徒の絵画作品等を展示しています。

○学校と地域住民の交流

- ①地域行事への児童生徒の参加
地域の隣組単位の一斉清掃(年4回)、子ど

も会行事(年数回)、富士見原祭り(10月)、クリスマス会(12月)、地域防災訓練(12月)、どんど焼き(1月)、小学校児童歓送迎会(3月)等の地域主催行事に積極的に参加してもらっています。

これらの活動の他にも、小学部児童と地元富士見原合唱団との音楽交流、中学部生徒による区集会所や公園の清掃活動、グラウンドゴルフ・料理教室、正月遊び、畑づくり等の交流活動も行っています。

また、これらの活動の成果を子どもたち自らが住民向け学習発表会で報告しています。

②学校行事への地域住民の参加

学習発表会(御特祭)、運動会等の学校行事に住民(特に老人クラブ、民生児童委員、地域福祉委員、子ども会、PTA他)が参加し、交流を通じて理解を深めています。

活 動 を 始 め た 経 緯

富士見原地区は、平成3年に開発・分譲が始まった新興住宅地です。平成15年4月の開発当初は、207世帯700名でしたが、現在では410世帯1,600名が居住しています。

地域福祉活動は、若い世代が多いことから、子育てサロンや登下校支援等の活動を中心とした住民相互のつながりづくりに区自治会と一緒に取り組んできました。

更に、地域に県立御殿場特別支援学校を有し、当区からも児童生徒が多数通学していることから、「障害のある人が住みやすい地域社会をどう作っていくか」ということがテーマとして浮かび上がりました。そこで、地域福祉推進委員会富士見原支部として、平成20年4月にエリアコミュニティ委員会を設置し、活動が始まりました。

【バス通学の支援】



【区集会所や公園の清掃活動】



運 営 方 法

【運営・人員体制】

地域福祉推進委員会支部長、区長、民生児童委員、保護者代表数名が中心になり、企画や運営に当たっています。

また、同時期に学校に設置されたコミュニティスクール委員会にも、代表者が参加し、連携、交流を深めています。

【運営経費】

地域福祉推進活動費(市社協・行政・自治会の助成)を活用しています。

・委員会運営費は約1万円

【大切にしていること】

児童生徒の成長により、心身の状況や環境は大きく変化していくため、地域住民に障害をいかに理解していただくかを重視しています。また、児童生徒が気軽に出かけていける環境づくり、共生していける地域社会づくりに取り組んでいます。

このため、保護者との懇談会を設け、児童生徒や家族のニーズと気持ちを受け止めるとともに、活動や運営に生かしていくよう努めています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

地域行事の開催時には、障害のある児童生徒のお宅へ近所の普通校に通う児童生徒が誘いに行き、一緒に参加する姿がよく見られるようになりました。

また、障害のある児童の姿がふと見えなくなり行方不明か?と思われたこともありましたが、近所をあげて声をかけ合って探し、事なきを得ることができました。

活動を通じて、障害のある児童生徒・家族と、その近隣住民とが違和感なく認めあい交流ができるようになりました。助け合い支えあう地域になってきたと思います。

運営者からのメッセージ



支部長
坂田義勝

「障害のある人が住みやすい社会は、みんなが住みやすい社会」と言われています。次代を担う子どもたちに良い環境を残し、この地に来て良かった、住んで良かったと思える街づくりをしていきたいと考えます。

デイサービス利用者による「平和教育活動」

宅老所 みんなの家

所在地：〒410-3513 賀茂郡西伊豆町中 745-3

電話・FAX：0558-52-4730

E-mail：min7noie@poem.ocn.ne.jp

代表者：奥田 俊夫



活 動 内 容

宅老所「みんなの家」は、西伊豆町・松崎町に住む要支援者・要介護老人を対象に、在宅生活の継続と社会参加を支援する活動に取り組んでいます。特に利用者の社会貢献を支援する取組の一つとして、数年前から戦争体験の伝承に力を入れています。

- (1) 利用者から戦争体験を聞き取り、文集にまとめ、配布する。
- (2) 利用者自身の語りや紙芝居等を通じて、戦争体験を子どもたちに伝える。



活 動 を 始 め た 経 緯

みんなの家では2005年より、デイサービスに通うお年寄りからこれまでの人生を聞き取った上、本人が主人公として登場する『人生紙芝居』を手作りしてきました。

みんなの家の利用者は、戦争を経験された80歳以上の方が多いため、人生紙芝居を作るにあたっては、必然的に戦争体験談を聴く機会が増えてきます。戦争は、この年代の方しか語れない歴史です。お話を伺ううちに、その悲劇を二度と繰り返さないためには、私たちが利用者の体験談を記録し、若い世代に伝えていかなければならないという思いが強くなりました。そこで2007年以降、スタッフが

聞き取った戦争体験をもとに、文集『戦争の思い出』を作成し、関係者や希望者への配布を開始することになりました。

また、近隣小学校との交流の機会でも、戦争の思い出を直接子どもたちに話していただき、戦争体験を含む人生紙芝居を観てもらおうようにしました。



活動の実績・効果

みんなの家では、毎年7月に利用者の戦争体験が描かれた人生紙芝居を持って地元の小学校を訪ね、子どもたちの前で上演しています。子どもたちは、お年寄りの戦争体験を知って大きな衝撃を受けるとともに、戦争や平和についてより身近に考えるようになるようです。

一方、お年寄りも自らの戦争体験が子どもたちの成長に役立ったと実感することができるため、双方にとってとても有意義な交流会となっています。



人生紙芝居に聞き入る子どもたち

子どもたちが、お年寄りに何かをしてあげるばかりが福祉教育ではありません。お年寄りの持つ豊かな人生経験に耳を傾ける中で、自然とお年寄りに対する敬愛の念が生まれ、福祉の心が育つこともあるのです。

お年寄りにとっても、自分の人生経験から何かを学んでもらうことで、自己肯定感が高まり、生きる意欲が生まれてきます。

介護現場と教育現場の協働で、このような交流がさらに広がっていくことを望みます。



子どもたちのこえ

紙芝居『満州の悲劇』では、自分の家族が死んでいくのを目の前で見ていた良三さんが、とてもかわいそうでした。そして、良三さん本人からお話を聞かせてもらって、今はどんなに豊かで平和なのかが身にしみてわかりました。これから私達が大人になってから、戦争を絶対におこさないようにしていきたいです。
(仁科小学校6年生)

運営者からのメッセージ

不況の長期化、若者の貧困化の中で、老人介護へ多額の税金をつぎ込むことに、若い世代の不満が噴出しつつあります。

老人を楽しませるだけの介護ではなく、“老人を社会のために活かす介護”が、これまで以上に求められているように感じます。

もちろん、老人を生き生きさせるためにこそ、老人の社会貢献を支援する介護が必要なのですが…。

子どもから大人までが関わりを持つ福祉のまちづくり

庵原子どもボランティア隊

所在地：静岡市清水区庵原地区

連絡先：054-368-1247

代表者：庵原地区社会福祉協議会 池田 政 子



活 動 内 容

地域の中で大人との関わりを持ち、自分達のやりたい事・地域の人みんなが、幸せになる為に、自分達も地域の一人として、何が出来るか考え、活動につなげることを目標に、「庵原子どもボランティア隊」を立ち上げました。

【活動内容】

- 地域探検災害マップ作り
(自分の住んでいる地域の危険な所を知る)
- 救急法を学ぼう
 - ・ AED の取扱実技
 - ・ 救命手当(心肺蘇生法)実技
 - ・ 応急手当(三角巾・止血法等)
- 掛川市西山口地区(子ども福祉委員)と交流
- 認知症サポーター養成講座
(認知症の方との接し方・見守り支援)
- 静岡県地震防災センター見学
- 地区社協事業への協力
 - ・ 子育てトークの会のお手伝い
 - ・ S型デイサービスのお手伝い
 - ・ 赤い羽根共同募金の呼びかけ
 - ・ 福祉教育を考えるつどい(活動発表)
 - ・ 寝たきり高齢者の慰問品作りと慰問
- 地区内の施設利用者へ手作りのクリスマスプレゼントの贈呈、交流
- 一人暮らし高齢者と料理教室
- 中学生パソコンボランティア
(地域の役員さんの資料作りのお手伝い)

【活動日】

年20回

全員参加は年4回、それ以外は自由参加
(自主性を尊重し、中高生が参加しやすいように配慮)

夏休みや冬休み等の長期休暇時、地区社協活動への参加は土日のみ



活動を始めた経緯

平成14年・15年の頃、テレビやマスコミを賑わせていたいじめ問題やそれを苦にする自殺に対し、誰かしら気づいてあげられなかったのか、胸を締めつけられるような思いでした。

その頃、講演で徳島の子ども民生委員の活動の話を聴き、すごく感銘を受け、次代を担う子ども達に「福祉の心を伝えたい」、庵原にも

「子ども民生委員」を創りたい、という大きな「夢」を持ち、検討しました。「子ども民生委員」という言葉では、なかなか子ども達に伝わりにくいのではないかと思い、「子どもボランティア隊」と命名して、平成18年12月に立ち上げました。

運営方法

【人員体制】

対象は小学4年生～高校生までとし、現在の隊員59名（小学生32名、中学生24名、高校生3名）

サポート隊17名（小中PTA役員、子ども会役員各2名、ボランティア8名、社協3名）

【協力者】

庵原小中学、庵原小中PTA、庵原子ども会、庵原連合自治会、市社協



活動の実績・効果

活動を通して、自分に自信が持てるようになり、積極的に活動が出来る隊員が増えてきました。また、人に対して、優しさや思いやりが育ってきて、子ども達の成長を感じています。

～子ども達の声～

* 私たちも地域の一人として、自分たちのできることを隊員みんなで考え、活動につなげていきます。

* 体験や交流を通して、みんなに喜んでもらえた、その喜びを感じることができました。これからも、地域の人みんなが笑顔になれるような活動をしていきたいです。

* クラスの事とは別に、男女みんなで仲良く活動でき、友達がたくさんできました。

* 学校では学ぶことのできない体験をすることができ、地域の大人の人たちからも、色々教えてもらえてうれしかったです。

* これからも楽しく学びながら、みんなが笑顔になれる、明るい・温かな庵原にして行けるよう頑張りたいです。



安心して産み育てることができる地域社会をめざして

ふれあい♪子育てひろば

所在地：静岡市葵区黒金町 59-6
生活協同組合 コープしずおか
連絡先：054-272-6814（小林）
代表者：中川 浅行



活 動 内 容

【活動地域・内容】

静岡県内のコープしずおか店舗集会室で、未就園児を持つ親御さんや、これからお子さんが生まれる親御さんを対象に「気軽に」「自由に」集まり、情報交換ができる場を提供しています。

また、使い終わった子育て用品の持ち寄りも受け付けております。まだキレイだから捨てられない、他のお子さんにぜひ使っていただきたいという子育て用品をご持参願ひ、引き取りを希望する参加者に無償で提供しています。

【利用方法】

◎未就園児を持つ親御さん、これからお子さまが生まれる親御さんが対象です。

◎参加は無料です。お気軽にお越しください。

◎事前の予約登録は不要です。

開催時間内で出入り自由ですので、お好きな時間にお越しください。

【活動日・利用時間】

各店舗で月2回実施しています。

下記は3月の予定です。

利用時間：共通 10：00～12：00

コープ新沢田店 3/7（水）、3/21（水）
（沼津市新沢田町 2-43）

コープ富士中央店 3/6（火）、3/12（月）
（富士市中央町 3-13-7）

コープ下野東店 3/2（金）、3/6（火）
（静岡市清水区）

コープ八千代店 3/6（火）、3/16（金）
（静岡市清水区八千代町 7-21）

コープ袋井田町店 3/2（金）、3/8（木）
（袋井市田町 1-10-7）

ハーモス浜北 2/28（火）、3/6（火）
（浜松市浜北区小林 1361-1）

【利用料】

無料

活 動 を 始 め た 経 緯

コープしずおかでは、これまで子育て支援の取り組みとして、「こころ」「食」「あそび」をテーマに親子と一緒に学ぶ場を企画し、子育ての「悩み相談」「アレルギー等の健康相談」「仲間同士の交流」を行ってきました。参加者からは好評を得ておりましたが、「もっと気軽に立ち寄り、仲間同士の交流し合える場」

が欲しいとのご意見をいただきました。買い物ついでに立ち寄れて、新しい仲間と、子育ての情報交換ができる場を提供したいという思いから、県の助成を受け、県内コープの店舗集会室を使い、子どもを安心して産み育てることが出来る環境づくりをスタートしました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

活動場所はコープの対象店舗の集会室を利用して行っています。

スタッフは、常設の施設ではないため、1会場あたり、5～6人で運営しています。安定した運営を行うため、登録しているスタッフは7～8人います。

【運営経費】

主に、静岡県民間育て支援活動応援事業費を活用して行っています。

- ・年間活動費 3,075千円
- ・静岡県民間育て支援活動応援事業費 2,997千円

【大切にしていること】

買い物のついでに、だれもが気軽に立ち寄り、自由に交流のできる場を大切にしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

今年で2年目を迎えますが、開設当初は3店舗で展開し、309組、661名の親子が参加しました。とくに転勤で引越してこられた方が「食」のことや幼稚園選びなど、子育ての悩みを交換できる場として喜ばれました。また、リサイクルの交換市も評判になり、新しい仲間も増えたようです。今年では会場を増やし（6会場）、1月現在で721組1,520名が参加されました。

スタッフも同年代ということもあり、同じ悩みをもつ者として親しみやすく気軽に

声を掛け合うことのできる環境が整いつつあります。

また、リサイクル交換も関心が高いです。当初は「持ち帰ってもらえないのでは」「持ってきてもらえないのでは」と心配しましたが、みなさんの協力でたくさんものを持ってきていただくと同時に、気に入ったものを持ち帰っていただくことができました。

参加者のこえ

- ◎スタッフが気軽に話しかけてくれるので悩み事等を話すことができました。
- ◎たくさんのママさんたちとお話ができ良かった。
- ◎子育てママどうしのおしゃべりはストレス発散になります。
- ◎リサイクル品を頂き、とても良かったです。

運営者からのメッセージ

スタッフも、同じような子どもを持つ方たちです。このような場を維持していくために、子育てが一段落した方々がこのような活動

に参加し、次世代の未就園児をもつ親子を見守り、助け合う、そういう地域社会が生まれることにより、子どもがより住みやすい環境が生まれると思います。



人が人らしく育つためのだっことおんぶ ～明日の絆づくりのために～

特定非営利活動法人だっことおんぶの研究所

所在地：静岡市葵区宮ヶ崎町 91
北極しろくま堂有限会社内
連絡先：054-653-6777
代表者：理事長 園田正世



活 動 内 容

【活動地域・内容】

だっこやおんぶの大切さを広め、その正しい方法、災害時の避難方法等を伝え、全国に広める研究を進めています。また、だっこやおんぶに使う道具を正しく安全に使えるよう、広く普及する人材育成も行っています。

【利用方法】

「乳幼児との避難時に役立つ防災レクチャー」「子育て中の方向けのだっことおんぶの講座」「ベビースリング講習」「お父さんのためのだっこ・おんぶ講座」「マタニティから準備するだっこひもおんぶひもの選び方講座」「孫育て講座」「子育て支援者向けだっこおんぶ講習」「世界中のアンティークおんぶだっこ道具の展示」等、ご依頼を随時受け付けています。受講可能な講座情報はホームページをご覧ください。

【活動日・利用時間】

不定期

【利用料】

不定。講座ごとに異なります。

【開催場所】（2012年2月現在）

例：防災セミナー開催実績
アイセル 21、きてこ、御殿場市ふじざくら、沼津健康福祉プラザ、焼津大富公民館、tvkハウジングプラザ横浜、静岡市賤機保育園、小糸製作所、袋井北公民館、758 キッズステーション（名古屋市）、吉永まちづくりセンター（富士市）、八潮アネックス（埼玉）、そなエリア（東京）他
計約 1850 家族が受講

活 動 を 始 め た 経 緯

子育てをめぐる環境は、昨今著しく変化しています。便利な育児用品が次々と売り出される一方で、昔から行われてきただっこやおんぶの時間は、確実に減ってしまっています。だっこ・おんぶによる子育ては、基本的信頼感を育み、他者との良好な関係づくりを促します。日々の報道を見るまでもなく、基本的信頼感の不足が様々な問題を引き起こすことは、否定できない事実です。

だっこ・おんぶの大切さを社会に広め、その研究を進めていくことは、子どもたちの健全で幸せな成長につながると確信し、私たちは2010年2月、想いを同じくする仲間と共に、特定非営利活動法人を設立しました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

基本的にボランティアで運営を行っています。電話やメールでのご依頼に対しては、その予算や内容に応じて講師・非常勤スタッフを手配し、準備から終了まで行います。防災講座の場合は、有事の際にも有効なネットワークづくりを兼ね、講座実施地域の市民団体に協力要請することもあります。

【運営経費】（2010年度）

年間活動経費 約 4,000 千円

静岡県補助金 約 3,000 千円

【大切にしていること】

精神面でも身体面でも一体感を得られるパーフェクトなだっこやおんぶの方法
ベビーウェアリング
babywearingを推奨しています。
babywearing=赤ちゃんを身にまとい、密着して過ごすことにより、赤ちゃんは基本的信頼感を獲得し、保育者は赤ちゃんの要求に気づきやすくなります。だっこやおんぶが楽にでき、子育ての負担軽減にもつながります。当研究所はこのbabywearingの考え方を大切にしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

静岡県の補助を受け、2010年より「乳幼児のいるご家庭対象の防災セミナー」を実施してきました。2011年3月の東日本大震災後、セミナー開催の依頼が急増し、現在は全国各地で実施しています。乳幼児を対象とした実践的内容の防災講座は類を見ず、マスコミ等からも取材の要請を受けています。防災セミナー参加者からは「受講して

本当に良かった」「友達にも聞いてもらいたい。次回開催はいつか」等多くの反響をいただくと共に、行政や企業からセミナー講師の依頼を受けることも多くなっています。2011年にはベブリースリングの正しい使い方を普及するため、ベブリースリングコンシェルジュ養成講座を開催。資格取得者が各地で活躍しています。

防災セミナー参加者の

- ・地震に冷静に対処できる一助になったと思います。早速家に帰って色々確認しなおしてみようと思いました。
- ・本当に災害にあったら自分で考えて動かなくてはいけないので勉強できて良かったです。多くの人に知ってもらいたいと思います。
- ・避難グッズや日用品は用意するだけでなく、仕組を理解して使いこなすことが大切だと分かりました。

運営者からのメッセージ

防災セミナー参加の皆さんは大変熱心で、2時間のセミナー中ずっとメモをとっていらっしゃる方も多いです。

常に生活者の立場を忘れず、役立つ情報やサービスを提供し

続けることが、継続的運営を実現させる鍵だと思っています。



小さく生まれた赤ちゃんのこと、大切に思っている人集まれ！

ポコアポコ ～poco a poco～

所在地：静岡市葵区池ヶ谷東17-6

連絡先090-9944-3013（担当・久保田）

代表者： 小林 さとみ



活 動 内 容

【活動地域・内容】

- 小さく生まれた赤ちゃん家族の交流会
- 先輩パパママによる悩み相談
(医師、看護師、保健師)
- ボランティア学生参加受け入れ
- NICU 入院中ママサポート『ママサロン』
- 小さな赤ちゃんを生んだママの為の母子手帳『リトルベビーハンドブック』制作&普及 (H23年4月以降に静岡県で2,000g未満の赤ちゃんを生んだママに無料でお分けしています。※別途送料がかかります。)

【利用方法】

- 小さな赤ちゃんを大切に思っている人ならどなたでもご参加いただけます☆

連絡担当 久保田

電話090-9944-3013

メール poco.a.poco.3013@softbank.ne.jp

【活動日・利用時間】

※防犯上の都合で公表できません

- ポコアポコ会員さんには毎年4月に年間計画をお伝えしています。
- 交流会のボランティア募集については社協や高校大学のボランティア担当の方に時期や内容を伝えています。

【利用料】

- ・会員…入会費なし/月・100円
- ・ボランティア…参加費なし



活 動 を 始 め た 経 緯

小さな赤ちゃんとパパママのサークル『ポコアポコ』は、平成10年に、退院後も気軽に病院に来て、お友達づくりが出来るようにと作られました。発足にあたっては静岡県立こども病院のNICU科長志村先生と作業療法士鴨下先生（当時）が中心となりましたが、現在は親が主体となり活動をしています。成長や発達の遅れを医師や看護師に相談できる場を

提供したり、小さな赤ちゃんを生んだママが、その成長や発達を楽しく記録できる母子手帳（『リトルベビーハンドブック』）を作ったりしています。詳細についてはお問合せ下さい！



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

- ・主として静岡県立こども病院
- ・小さな赤ちゃんを生んだママパパ、静岡県立こども病院新生児科医師、看護師さん、保健師さんの参加
- ・社協から紹介していただいた学生ボランティア（高校生）、英和大学ボランティアセンターから紹介していただいた学生ボランティア（大学生）の参加

【運営経費】

◎手帳作成および普及活動経費

H22 静岡県民間チャレンジ応援事業

H23 静岡県民間子育て活動支援応援事業

◎サークル運営経費 会費より

【大切にしていること】

『つながり』を大切にしています。赤ちゃんだけでなくパパやママ、ボランティアさんなど参加する人みんなで一歩ずつゆっくり『成長』していきたいと思います。

活 動 の 実 績 ・ 効 果



- ・小さな赤ちゃんを生んだママの為の母子手帳『リトルベビーハンドブック』作成
- ・リトルベビーハンドブックの反響
(TV、ラジオ、保護者、他県医療従事者他)
- ・NICU&GCU での手帳活用
(静岡県立こども病院、済生会病院)
- ・厚生労働省母子手帳改訂に伴うパブリックコメント作成提出
- ・こども病院



運営者からのメッセージ

ポコアポコ～poco a poco～とは『ゆっくり』や『急がなくていいんだよ』という意味です。

参加したママから仲間に出会えてよかったと聞くことも嬉しいですが、小さく生まれた赤ちゃん達の成長を、私たちも一緒に見守らせていただいていることが一番嬉しいです。



子育てから～親育ちへ

子育て支援グループ まいせるふ

所在：島田市湯日3276番地の15

連絡先：090-4212-9468

代表者：杉本 章子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

島田市全域において

・主に母親を対象に、子育てに関する講座（託児付き）を実施しています。講座内容は、しつけ・食育・家族の健康管理・子育てに利用できる絵本等についてですが、他にも島田市議会を傍聴したり、地域の環境や郷土理解等、母親自身も成長できるようプログラムを工夫し、『いきいき子育て勉強会』を企画・運営（市との協働）しています。

・その他近年力を入れているのが、父親のための『お父さんだって子育て講座』です。子育ては母親だけでなく、父親も大きな役割を担っています。子育ての具体的手法や経験者の話を聴いたりして、子育ての喜びや、父親が子育てに加わることの利点・有効性を啓発しています。（もちろん、母親のストレス軽減にもつながっています）また、必要に応じて『本気で子育て・しつけ講座』『市長との意見交換会』等も開催しています。



活 動 を 始 め た 経 緯

15年前、自分たちも島田市乳幼児学級の講座を受講しました。子育て中の孤独感や社会から離れた焦燥感等大きなストレスを感じていましたが、講座に参加して友達もでき、社会とのつながりを回復することができました。

子育てが一段落した今、自分たちの経験を活かし「子育てに悩む両親を支えよう」と決意して上記講座を開催することとなりました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

主に島田市プラザおおりの講座室と託児室等を利用しています。場合により金谷地区のみんくるを利用したり、現地見学等を行っています。

【運営経費】

島田市社協からの一部助成と講座生からの会費によって運営しています。なお、『いきいき子育て勉強会』は島田市からの助成金、『お父さんだって子育て講座』等のプログラムは、県社協等からの助成金を活用しています。

【大切にしていること】

一人でも多くの声を聞かせていただき、その悩みを共有し、皆で解決方法を模索します。自分自身で決断できるよう、お母さんたちの心に寄り添い、自ら気づいてもらうための導きをします。また、子育て中であってもアンテナを張り、母としてだけでなく、一人の人間として見識を深め、成長できるよう啓発しています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

当講座によって支えられたとの感謝の声を多く聞きます。

また、この講座で成長していった母親たちの中には、その後、地元子育て広場のスタッフとなったり、市内学校の家庭教育学級の委員や学級長、市の啓発広報誌の編集員に推薦されたりする方が多くいます。活動を通じ、地域で活躍できる人材育成にも力を入れています。



運営者からのメッセージ

島田市の親たちは、皆頑張って子育てをしています。私たちが講座を開催することにより、悩みを話したり、友達になったりして、出会いと学習&気づきの場を提供できればいいと思います。答えは親自身の中にありますが、やはり誰もが一度は悩んだり、もがいたりしています。声に出し、聞いてもらい、互いに助言し合うことで、親子共々成長してもらえればと思います。子どもが社会に巣立っていけるよう、親がしっかり子育てし、社会がそれを制度で支える。そんな子育て支援ができればと考えています。

参加者のこえ

まいせるふ参加者の声

- ・改めて、子育ての大切さを学び、妻とも確認し合った。
- ・夫が講座に参加した後、態度が優しくなった。
- ・子供や夫とコミュニケーションをしっかりと取り、大切な基本的生活習慣を学び、子ども親も共に成長していきたい。

「聴き書き」から始まる学区(まち)のつながいづくり

NPO 法人 まちなびや

所在地：静岡市葵区长沼631
連絡先：054-264-7170
代表者：理事長 弓削幸恵



活 動 内 容

【活動地域・内容】

静岡市葵区の千代田小学校区を中心に活動しています。

「聴き書き」や「おしゃべりものづくりの会」、「やつやま다가しや楽校」、「冒険遊び場」など、地域の多世代がつながるための様々な活動を展開しています。

【利用方法】

主催する事業については無料・有料それぞれあります。毎月開催する「だがしや楽校」は老若男女誰でも自由に参加できます。

その他各種事業についてはHP・ブログをご覧ください。

NPO 法人協力会員も募集中。個人年会費は一口3,000円、団体は一口10,000円。

【活動日・利用時間】

活動は年中無休。拠点事務所は 9:00～18:00。

事務所の一角では地域の子ども向けに駄菓子屋コーナーを開いています。火曜日と日曜日が定休日（2012年現在）。

・「やつやま다가しや楽校」は、毎月第4土曜日 13:00～15:30、会場は愛宕貯留地グラウンド（葵区沓谷）にて実施。

・「おしゃべりものづくりの会」「聴き書きの会」はそれぞれ月1回開催。

メール通信「かわらばん」（配信無料）、フリーペーパー「コドモンデ」等にて毎月お知らせをしています。

【利用料】

特に定めはありません。事業によっては参加費等をいただくことがあります。

活 動 を 始 め た 経 緯

静岡市教育センターで教育研究に携わっていたスタッフ有志が、地域に根ざした継続的な子育て支援の必要性を感じ、民間の教育研究&実践グループとして2005年にスタートしました。

放課後の子どもの基地としての駄菓子屋の価値に着目し、2007年から実際に駄菓子屋を運営し現在に至ります。

2007年から市生涯学習課との協働で高齢者の方から子ども時代の記憶を記録にするワークショップを展開。

2011年に県子育て支援課の補助により「よその孫育て事業」をスタート。子育て支援にあたっては地域の高齢者の方々との関係が重要であると考え、高齢者福祉分野との連携に力を入れるようになっていきます。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

地元小学校区内において地元企業や市民グループとの協働により、子どもから高齢者まで、皆が交流できる複数のスポットを持っています。事務所での日常業務は2名ですが、イベントやプロジェクトには10人～20人というチームで取り組んでいます。こうしたチームづくりが柔軟に迅速にできるように、日頃から心がけています。

【運営経費】

自己負担金に加えて自主事業、委託事業と寄付・協賛金、助成金等の多様な収入源で運営しています。それぞれの金額は年ごとに変わります。

【大切にしていること】

歩いていける程度のご近所どうしのつながりづくり、そして、個性が違う一人ひとりの居場所と出番づくり。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

子どもの育つ地域のあり方を模索する中で、2007年から駄菓子屋を運営。その意義を発信し、実践者どうしで学習し合う「寄り合い」を毎月定期開催しています。

2009年には「だがしや楽校 in しずおか」（静岡市との共催）を開催。2000名の参加があり、翌月からは地域密着型・参加型で継続的に行っています。

また、聴き書き手法を用いたワークショップを行政と協働して開催し、その活動をもとに「だがしや楽習帳」「子どもの頃の遊び

場マップ」「子育てに役立つ聴き書きスタートブック」等を発行しています。

子どもと地域をつなぐ情報紙『コドモンデ』は、毎月約10,000部を発行し、小・中学校や生涯学習センター、大型店舗などで配布中。

こうした活動によって、地域における高齢者と子どもの交流の姿が定着してきました。

利用者のこえ

- ・じっと聴くだけの受身的な講座でなく、自分の活躍の場が広がった。こういう講座を待っていた！（ワークショップ参加者）
- ・今の子どもはのびのび遊ぶ場所も時間も少なくてかわいそうな気がする。谷津山やだがしや楽校など、子どもが豊かな体験をできる場をつくっているのは良いことだと思う。（地域の方）

運営者からのメッセージ

地域の先輩方のお話は、子育てや自分の生活、生き方のヒントで一杯です。手を動かしながら気楽に聞くのもよし、しっかり「聴き書き」させていただくのもよし。話し手の皆さんが「だがしや楽校」で遊んで下さると、子どもや親へ自然と知恵や技が伝わっていきます。放課後の自由な遊びの中で「子ども・親・高齢者、みんなが笑顔」を目指しています。



～みんなで参加、住み良いまちづくり～

第三小学校区地区社会福祉協議会

所在地：島田市南1-2-19（会長宅）

連絡先：0547-35-2553

代表者：（連絡窓口）：会長 鈴木喬治



活 動 内 容

【活動内容】

地域の高齢者と児童・生徒の交流、子育てをする方々の孤立を防止のための機会づくりや支援、見守り等を行っています。

1. 福祉・高齢者支援

- (1) 一人暮らし高齢者ふれあい旅行の実施
- (2) 高齢者と子ども達との交流会への参加、
- (3) 各町内で実施しているサロンへの支援

2. 子育て・児童・生徒支援

- (1) りとるきっずの活動支援
- (2) 登下校時の声かけ運動の実施 他

3. ボランティア活動支援

- (1) ボランティアの参加呼びかけ
- (2) 子どもボランティア隊の結成



活 動 を 始 め た 経 緯

平成19年に市社協主催による「地域福祉推進委員会」に自治会及び民生委員が参加し、小地域福祉活動の必要性の研修や先進地への視察を通して、地域での支え合い・助け合いのしくみづくりが自分達地域でも必要だと

感じ、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指して地区社会福祉協議会を設立しました。

運 営 方 法

【活動場所】

各町内会の公会堂、その他

【人員体制】

(役員)

自治会長、町内会長、民生委員 12名

(企画委員)

自治会長、町内会長、民生委員、

ふれあいサロンスタッフ、保健委員 0B

【運営経費】

1. 各自治会、町内会協力金 109,000円

2. 社協補助金 514,000円

【大切にしていること】

地域の住民との助け合い、絆づくりに努めています。



活 動 の 実 績 ・ 効 果

組織設立によって地域で横のつながりができるなど、できてよかったとの意見も聞かれます。

今後も、「自分達まちは自分達でよくしていく」取り組みを地域全体で行って行きたいと考えています。

また、そのためには、人と人のつながり、絆づくりが必要である為、交流の場等を設けるなど、地域での絆づくりを図っていきたいと思います。



運営者からのメッセージ

参加者の声

りとりきつず参加者の声

- ・ 参加しやすい雰囲気良かった。
- ・ 近所の方と友達になれて良かった。
- ・ 子どもが幼稚園入学前につながりができてよかった。



何かを皆と一緒にやることは、友達も出来るし笑顔で話も出来るようになります。多くの方に参加して欲しいです。

「こんな支援があったらいいね」から始まった市民パワー！

しまだ次世代育成支援ネットワーク

所在地：島田市船木1883-31

連絡先：0547-38-5046

代表者：添谷 絹代



活 動 内 容

【活動地域・内容】

島田市内において、次の7事業を展開しています。(②④⑦は要予約、他は予約不要)

①つどいの広場 “きしゃぽっぽ”

0～3歳児の親子、祖父母が対象。自治会・行政と連携し、保育士等の派遣やボランティアによる演奏会等を行います。現在、市内6ヶ所の公民館・公会堂で開催中

②「お母さんになりたい」応援団

不妊治療を続けていいのか不安、「子どもはまだ？」と聞かれるのが辛い…。そんな女性を対象に、道を切り拓く勇気と意欲をサポートします。

③「もったいない」をプレゼント

成長して使わなくなった衣類やおもちゃを集め、必要としている家庭へ贈ります。

④地域ボランティア交流会

地域ボランティア関係者の交流を図ります。

⑤スキルアップ研修会

ボランティア技術向上を目的に、親子ふれあい遊びやレク指導研修を行います。

⑥じいじ ばあばの孫育て

“おおるりきしゃぽっぽ”

祖父母を対象に今どきの子育てに関する情報を提供し、孫育てをサポートします。

⑦父親支援「もっと子どもと遊ぼう！かかわろう！」

積極的に育児に関わり、子育てを楽しむお父さんを応援します。

【利用料】

「お母さんになりたい」応援団は、参加費1クール（3日間）2,000円。

父親支援「もっと子どもと遊ぼう！かかわろう！」は、参加者保険料を徴収。その他の事業は無料です。

活 動 を 始 め た 経 緯

平成15年度、秋。私たちは「次世代育成支援島田市行動計画」の策定協議会メンバーとして、初めて顔を合わせました。計画策定に向け作業を進める中で、行政が実施する子育て支援と子育て中の親が求める支援には、大きなギャップがあることに気が付きました。「市中心部に親子で遊べる施設ができて、駐車場がなくて幼い子どもをつれて行けない…。」

「子育てのちょっとした悩みや不安を、気軽に相談できる人がいない…。」

子育て中の親子が望む、こうした「こんな支援があったらいいな」を、市民の力でかたちにしてみようと思い、活動を始めました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

地元自治体の理解を得て、市内各地の公民館等を使用しています。(例:「きしゃぽっぽ」市内公民館、「もったいない」島田市地域交流センター歩歩路) 人員については、現在、正会員 26 名、地域ボランティア登録員 52 名で運営しています。(このうち「お母さんになりたい」応援団は、不妊治療経験を持つスタッフ 10 名が支えています。)

【運営経費】

島田市つどいの広場事業交付金、島田市社協の活動助成金、静岡県民間子育て支援活動応援事業補助金等を活用。H22 実績 1,526 千円

【大切にしていること】

子育て世代のニーズを敏感に捉え、柔軟に対応できる行動力をモットーとしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

- ・平成 22 年度「きしゃぽっぽ」利用者数は 3,727 名。我が地域において、「きしゃぽっぽ」の周知度は抜群です。
- ・「お母さんになりたい」応援団では、この 4 年間に 7 割を超える参加者が妊娠・出産を果たしました。参加者は回数を重ねるにつれ見違えるほど表情が明るくなっていきます。自分自身で答えを見つけていく参加者の変化には、毎回、深い感動を覚えます。

【受賞実績】

- ・しずおか子育て未来大賞(平成 21 年度)
- ・第 26 回中日ボランティア賞(平成 21 年度)
- ・静岡県社会福祉協議会ふれあい基金奨励賞(平成 21 年度)
- ・内閣府子ども若者育成・子育て支援功労者表彰(平成 23 年度)

参加者のこえ

【きしゃぽっぽ参加者】

「昼間は子どもと二人きり。行くところができるよかった！」

【お母さんになりたい応援団参加者】

「いままで辛かった気持ちがふっと楽になった」

【「もっと子どもと遊ぼう！」参加者】

「できれば年に数回開催して欲しい」
「パパ友ができた！」

運営者からのメッセージ

「継続は力なり」といいますが、小さな活動でも、長く続けるには大きなエネルギーが必要です。「楽しかった」「また来ます」という参加者の声や、共に団体を作り上げてきた仲間間の絆に支えられ、今日まで活動を続けることができました。今後も、「こんな支援があったらいいな」のポリシーを忘れず、子育て支援がまちの元気につながるよう、頑張っていきたいです。



親子でにこにこ！～子育て家庭が地域の福祉力を高めるぞ！～

特定非営利活動法人 ポレポレ

所在地 : 湖西市新居町浜名1063
連絡先 : 080-6970-0005
代表理事: 柴田摂美



活 動 内 容

【活動地域・内容】

湖西市新居地区を中心に、妊婦、乳幼児、小学生とその親、家族及び青少年に対して、あそび場や情報等を提供しています。子どもの発達、親の育児力の形成を支援することで、地域の福祉向上に寄与することを活動目的としています。

【利用方法】

参加を希望する方は、電話またはメールにてポレポレの事務局神谷までご連絡ください。

電話 080-6970-0005

family2525pore-pore@ezweb.ne.jp



【活動】

月1回活動 年間6,000円

毎週活動 毎月3,500円

活動は主に新居体育館にて

リズムあそび と リトミック♪

0歳児～幼稚園児の親子 各20組

親子体操

1歳児～小学生の親子 各15組～40組

えいごあそび

2歳児～小学生の親子 各10組

キッズ（季節のあそび）

1歳児～3歳児の親子 30組

あそびっこ広場

0歳児～小学生の親子

コンディショニングトレーニング

0歳児～子育て家族

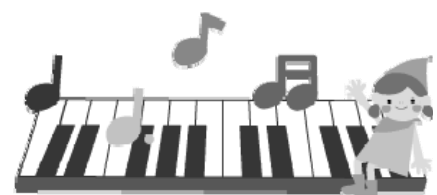
ノルディックウォーク 福祉

活 動 を 始 め た 経 緯

「幼稚園入園前の子どもと親が、遊んだり、同じ年の友達を作ったりする場が欲しい…」そんな気持ちから始めたリズム体操に20家族が参加。2003年にポレポレ設立、2005年に法人化。

参加者のニーズに応じていくうちに、活動メニューや利用者が増え、現在、会員270家族、定期活動23を数えています。

その他、季節ごとの活動が10以上あります。ちなみに、ポレポレとはスワヒリ語（アフリカの言語）で「ゆっくり ゆっくり」を意味する言葉です。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

湖西市新居地区の公共施設（体育館・地域センター）、学校施設（幼稚園遊戯室・小学校体育館）、福祉施設の地域交流室などで活動しています。

事務局は常勤 1 名とアルバイト 1 名で、会員間の連絡調整や運営を担当。活動ごとにいる講師が講座を組み立て、展開をしています。

【運営経費】

主に参加費で運営。約 600 万円。

補助金や助成金は新規事業や特別活動に活用している。

今年度、県補助金 350 万円。

【大切にしていること】

みんなの笑顔をひきだし、それぞれが知らない自分に出会うこと。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

2004 年地域ネットワーク、2008 年情報提供、2010 年父親参加の子育てで独立行政法人福祉医療機構から総額 448 万円の助成。これまで、麒麟福祉財団、しずおか健康いきいきフォーラム 21、はましん地域振興財団、静岡県社会福祉協議会、えんしん地域サポート、生命保険協会などの助成事業や県教育委員会・県子育て支援課の補助事業を開催。

会員の増加とともに活動が増え、クリスマス会などは 300 人以上の家族が参加。

2010 年度（財）パナソニック教育財団の「子どもたちのこころを育む活動」団体の部中部ブロック大賞。

2011 年度あしたのまち・くらしづくり活動活動賞振興奨励賞。

子育て家族と子育て家族を応援して下さる地域の方々に、元気な地域づくりをしています！

参加者のこえ

- ・子どもたちだけでなく、家族みんなで楽しい時間を過ごしています。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に活動できて、うれしいです。
- ・できなかったことも、先生たちの応援でがんばるようになりました。
- ・子どもも親も友達がいっぱいです！

運営者からのメッセージ

「ヤッピー♥」は、ヤッホーとハッピーをつなげた言葉。

笑顔でみんなが「ヤッピー♥」と言い合えることを目指します！！



笑顔と笑い声が絶えない環境の場

特定非営利法人めぐみ会 心象めぐみ会共同作業所

所在地：熱海市伊豆山340-1
連絡先：0557-80-1373
所長：小磯 和雄



活 動 内 容

【活動地域・内容】

「障がい者の場づくり」をコンセプトに、平成23年8月、熱海市伊豆山で「めぐみ茶屋」を開店しました。軽食と喫茶を提供しています。

歴史・文化の薫る町で、地域や観光客の方々と障害者が出会い交歓する場づくりを目指しています。

【対象者】

地域の方や観光で来られた方など、どなたでも利用いただけます。

【活動日・利用時間】

毎週水曜日～日曜日

午前9時30分～午後4時

定休日 毎週月・火曜日



活 動 を 始 め た 経 緯

これまで障がい者の工賃倍増のため、様々な新商品の開発に取り組んできましたが、思うような成果を挙げることはできませんでした。また、障がいのある人たちが、地域で安心して働き、生活を送ることができる作業所づくりを目指しているなかで、地域や観光客の方々と障害者が接触して交流する最も一般

的な場は「店舗」だと考えました。コミュニケーションを通して、育む時間・空間、人々とのネットワークが店舗にはあり、きっと、障害者の新しい発見の「場」となると思い、平成23年に「めぐみ茶屋」をオープンしました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

熱海市伊豆山521-1

「めぐみ茶屋」は、伊豆山神社入り口の目の前にあり、観光客・地域の方々と障害者が出会い交歓する場となっています。

指導員2人、ボランティア1人、施設に通所している障害者3人の計6人体制で接客しています。

【運営経費】

事業全体の年間経費 約35,000千円

熱海市社会福祉協議会活動助成金50千円

伊東市社会福祉協議会活動助成金30千円

【大切にしていること】

障害者が接客業について学び、地域で安心して働ける場を目指しています。地域の「憩いの場所」、観光客の「休憩場所」として愛される「茶屋」にしていきたいと思えます。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

「めぐみ茶屋」のオープンに伴い、職員全員で新商品の開発を進めたところ、「食するモノ」が良いのではとの結論に至り、地域性を活かした製品の開発に取り組むこととなりました。

地域における自然を利用したシンボルと素材探しに始まり、自然、産業、生活、文化を中心にブレインストーミングし、「伊豆の四季だんご」「伊豆の四季小判もち」

「伊豆の四季蒸しまん」を考案しました。

★茶屋に来られる方々に、「おいしいよ」「また来るね」と声をかけていただき、好評です。

商品づくりの中で、地域における海・山・里の素材探しに苦労しましたが、引き続き

素材の確保、製造、販路拡大等の開拓と共に利用者の工賃アップ及び地域と連携した活性化につながる商品づくりに取り組んでいきたいと思えます。

運営者からのメッセージ



理事長 中田 剛充

利用者のこえ

「めぐみ茶屋」で接客をすることがとても不安でしたが、落ち着いてやれば出来ることがわかり、レジも打つことができるようになりました。今は楽しいです。

障害のある人達が「地域で安心して」働き、生活を送る事ができ皆が幸せになり「笑顔」で楽しく働ける作業所です。

みんなで協力 身近な環境改善

NPO 法人グラウンドワーク三島

所在地：三島市芝本町 1-43

連絡先：055-983-0136

代表者：理事長 緒明 實



活 動 内 容

【活動地域・内容】

ゴミ捨て場と化した源兵衛川の水辺の再生や、市内の川から姿を消した水中花ミシマバイカモの復元、歴史的井戸や水神さん・お祭りの再生、ホテルの里や学校ビオトープ・手づくり公園の建設、荒廃山林の再生、植林活動等、身近な環境改善を目的に、約 50 ケ所以で活動に取り組んでいます。

その他、東日本大震災支援活動、街のにぎわい創出を目指した「三島街中カフェ」の開設、まちづくり人材育成の研修事業の企画運営等も実施しています。

【利用方法】

源兵衛川や手づくりミニ公園、学校ビオトープは、周辺地域の方々や観光客が、交流や憩いの場、環境教育の場として自由に利用しています。また、一度は市内から姿を消したミシマバイカモを復元させた「三島梅花藻の里」

は、三島市の名所として無料見学が可能です。さらに、空き店舗を利用した「三島街中カフェ」は、幅広い世代の人々が自由に集い、市民の憩いの場、学習の場、そして情報発信拠点として利用されています。

【活動日・利用時間】

- ・三島梅花藻の里整備活動
(毎週木曜 10:00~11:00)
- ・鏡池ミニ公園整備活動
(毎月第一土曜日、10:00~11:00)
- ・せせらぎシニア元気工房 竹・木工加工
(毎週火曜日 13:30~16:30、賀茂川町)
- ・三島街中カフェ
(平日 10:00~16:00)
- ・各種環境教育活動
- ・東日本大震災支援活動

※どなたでも、お気軽にご参加いただけます。

活 動 を 始 め た 経 緯

「水の都」と呼ばれた三島市は、1960年代、産業活動の活発化による地下水のくみ上げによって湧水が減少し、市内を流れる川はドブ川となってしまいました。ふるさとのこの環境悪化に問題意識を持った8つの市民団体が、水辺自然環境の再生と改善を目指し、1992年9月に「グラウンドワーク三島実行委員会」を発足させました。

グラウンドワークとは、英国発の市民・NPO・企業・行政のパートナーシップによる環境改善活動です。グラウンドワーク三島が、日本で最初にこの運動を導入しました。

1999年10月にNPO法人の認証を受け、現在では20の市民団体が関わり、ネットワーク型の市民組織を形成しています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

・源兵衛川 ・三島梅花藻の里 ・境川・清住緑地 ・松毛川 ・手づくりミニ公園(鎧坂、鏡池、みどり野ふれあいの園) ・学校ビオトープ(長伏小、中郷小、三島南高校、函南さくら保育園) ・悠遊工房ひろかわ ・三島街中カフェ
・職員3名 ・会員150名 ※随時ボランティアを募集し、多くの方にご協力いただいています。

【運営経費】

補助金・助成金 2,000万円
その他 150万円(会費、寄付金など)

【大切にしていること】

「ミッション」を明確にし、地域の課題解決に取り組むこと。「アクション」を実際に起こし、市民とともに活動を行うこと。「パッション」を持ち続け、活動を継続することを大切にしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

活動のきっかけとなった源兵衛川の再生事業では、ゴミ捨て場と化した源兵衛川を「水の都・三島」のシンボルとして、市民が親しむことができる美しい川へと再生し、第1回「地域再生大賞」を受賞することができました。その他、鎧坂ミニ公園や、みどり野ふれあいの園のように、市民・行政・企業が連携した手作りミニ公園を作り、公共事業にたよらなくとも市民の力で街づくりを行えることを実証しました。また、境川・清住緑地や松毛川等での環境保全活動や、三島市内の森林や水辺環境を活用した環境教育活動は、次世代へ

の環境づくりに貢献しています。私たちの活動は環境再生から地域再生へと拡大し、毎年約3,000人・約130団体が国内外から視察に訪れています。今後は、「市民会社」として自立、成長することにより、高齢者や女性に対して、新たな雇用機会の創出等、行政や企業では担えない社会的ニーズに対応できる継続的、発展的な市民活動団体となることを目指し取り組んでいきます。

ボランティア のこえ

グラウンドワーク三島は様々な事業に取り組んでいるため、幅広い活動を経験することができました。ただ、それはバラバラな事業ではなく、地域の改善・活性化、ひいては自分たちの生活につながると実感できました。活動を通じて実際に行動することの大切さを知るとともに、地元へ貢献できたことに充実感を感じました。

運営者からのメッセージ

私はこれまで、弱者や地域のために自分の特技を生かしたい、何か体を動かしたいと希望しているたくさんの方々に出会ってきました。考え、家に



閉じこもってしまうのではなく、積極的に、私たちの活動に参加していただき、自分の生きがいや社会的な新たな役割を見つけ、仲間を増やしていただければと思います。

災害時要援護者に対する民生委員活動～市社協との連携～

裾野市民生委員児童委員協議会

所在地： 裾野市佐野 1059

連絡先： 055-995-1819

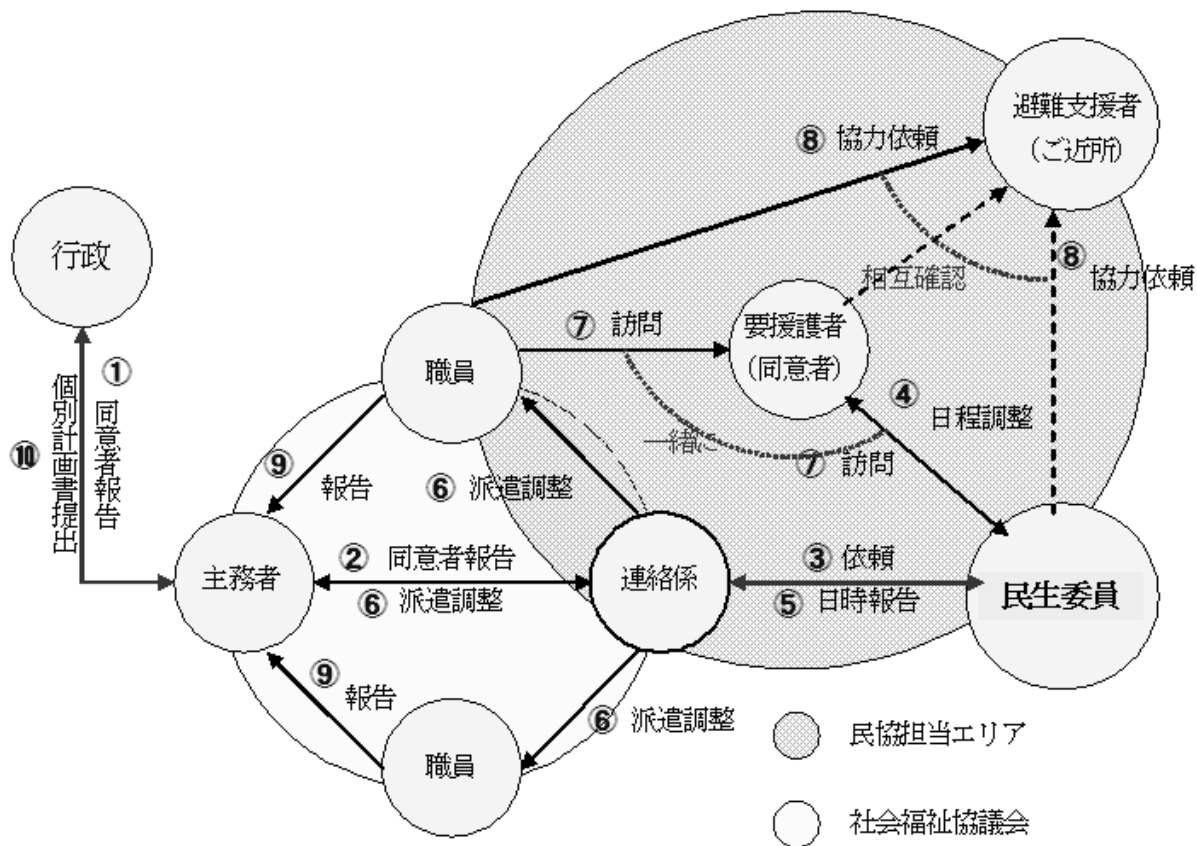
代表者（連絡窓口）： 裾野市民生委員児童委員協議会 会長 松井 文義（裾野市役所健康福祉部社会福祉課内事務局）



活動内容

【活動地域・内容】

民生委員活動として、行政・市社会福祉協議会との協働により、災害時要援護者避難支援計画における個別計画書の作成、それに係る訪問調査及び社会福祉協議会職員との同行訪問を行っています。



【裾野市災害時要援護者避難支援計画個別計画作成手順】

活 動 を 始 め た 経 緯

平成 21 年 4 月より、裾野市災害時要援護者避難支援計画が施行されました。当時、裾野市民児協は、民生委員制度創設 90 周年記念事業「災害時一人も見逃さない運動」に基づいて、平成 19 年 5 月から福祉票による災害時要援護者名簿やマップの整備を行い、災害に備えていました。支援計画に基づき、個別計画書を作成するためには、訪

問調査等を実施する必要がありました。そこで、災害ボランティア本部機能を担っている社会福祉協議会と当民児協が一体となって行うことが、要援護者にとってより安心、信頼を担保できるのではないかと考え、市社協と民児協が連携して、事業を進めていくことになりました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

場所：各担当民生委員の担当地区

人員：裾野市民生委員 84 名

【運営経費】

裾野市社会福祉協議会からの助成金

139,500 円

【大切にしていること】

援助を断る方々への説得です。

また、災害時要援護者避難支援個別計画書を作成するにあたり、ご近所の方に避難支援者（2 名程度）として協力を求めています。その際、災害時に限定することなく、平常時も見守り、支えあい活動が行われるよう声掛けをしています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

初年度は市内の要援護者 280 名余りの個別計画書を、社会福祉協議会と一緒に作成しました。その中で、災害時における地域での民生委員の役割についても明確になりました。

12 月の県下一斉防災訓練時には、各自治会及び自主防災会と一緒に要援護者の避難支援訓練を実施する地区もできており、市内における要支援者対策の意識付けがなされてきているように思います。

また、行政から対象者リストが提示されるため、要援護者を漏れなく把握することができるようになりました。

運営者からのメッセージ



民生委員は、行政計画の対象としている要援護者のみならず、福祉票に基づいて担当エリアに居住する、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方々についても、対策を実施しています。「向こう三軒両隣」といった昔からの古き良き支え合い活動の構築に向け、今後も継続的な活動を実践していきます。

『いのちに、まっすぐ！』自分の^{いのち}生命は、自分で守ろう！

NPO法人

日本沼津災害救援ボランティアの会

所在地 沼津市東原239番9

連絡先 ☎Fax 055-967-4564

代表者 理事長 稲木寛男(県災害VC 沼津社協評議員)



活 動 内 容

【活動地域・内容】

沼津市から全県・全国、そして海外へ！

平常時は市民救命士講習や、防災講演会。

地域イベントでの救命隊派遣、青少年育成。

災害発生時は、現地へ直行し被災者への災害
救援活動及び継続支援。

【利用…登録…方法】

年齢、性別、国籍などを一切問いません。

誰でも登録できます。

- ① 会費無料
- ② ノルマなし
- ③ あなたの被災時には、救援に向かいます。

NVN事務局へ御連絡を…。

パンフレットをお送りします！

【活動日・活動時間】

総 会…年一回

定例会議…水曜日

(沼津市青少年教育センター)

平常時活動…週末及び休日

災害時活動…昼夜を問わず

【利用料】

なし



活 動 を 始 め た 経 緯

阪神淡路大震災（1995年1月17日発生）時の福祉ボランティア体験者が『自分と、家族と、地域を守ろう！』の県スローガンを実践するために、95年秋に設立！以後国内外の災害に対し、救援活動や緊急募金活動を行ってきました。

『神戸に学び、明日に備える！』の心で、青少年現地ボランティア活動も継続中！

東日本大震災においては、震災翌日に現地へ向かい、茨城県大洗の会員へ救援物資を贈呈。その後は、岩手県大船渡市や陸前高田市への支援を継続しています。

NVNの活動主旨を表した言葉として、ノーベル平和賞受賞シュバイツァー博士の『生命への^{せいめい}畏敬』を、誰にでもわかりやすい『いのちに、まっすぐ！』と表記し活動中！

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

平常時は沼津市青少年教育センターや、保健センター等を中心に防災学習を展開。

災害時は国内外の被災地にて活動！

小学生から高齢者までの会員がそれぞれ各自のできることを実施！

柔道整復師、建築士、管理栄養士、看護師、介護福祉士、言語聴覚士等有資格者はそれらを活かして活動中。

【運営経費】

創立当初より、全て寄付による運営を実施！指定活動に対する助成金は、内閣府や県から受給し、実施しています。

【大切にしていること】

東海地震等の災害から、自分を守り、家族そして地域を守る事を目標に、『生命に、まっすぐ！』活動中です！

活 動 の 実 績 ・ 効 果

この17年間は、災害が発生すると即被災地へ入り、初動の災害救援を行うと共に継続支援も行なってきました。

青少年でも高齢者でも、被災地・被災者支援は可能です。数回にわたる被災地訪問で、被災者の心を我がものとする方も多くいらっしゃいます。

神戸は勿論、岡谷土石流、新潟中越及び中越沖地震、そして東日本大震災等様々な災害で、複数回救援に参加する方も多く、人間的な成長も感じます。

子供や愛する人の生命(いのち)を守るため、市民救命士講座も開催しています。

また、こうした災害支援の他、子育て分野でも活動に取り組んでいます。県子育て事業として、平成22年度は地域三世代で子供を育てる『子育てサンドイッチ』を、平成23年度は伝承遊びや伝承技術を磨く『グランママパパ講座』を開催しました。

会員の声から…

【中学生の声】

救命法を受けて、いのちのはかなさと大切さを知りました。

【高齢者の声】

若い人たちとの活動は「大変かな」と思ったが、みんなやさしい方たちで、やはり「防災で教育！」の成果が表れていると感じました。

理事長からのメッセージ

「平常時に出来ない事は
非常時には
絶対にできない！」

市民救命士活動もその想いで実施しています。

非常時に必ず役に立つ、市民救命士講習にぜひ御参加を！

災害に強い人と町づくりにあなたもぜひ御参加下さい！県災害VC・沼津柔道会会長 稲木寛男



言葉を超えて伝わる心♡ 地域の中での言語リハビリは住民参加で

西伊豆いろは組(西伊豆失語症友の会)

所在地：西伊豆町中 745-3 NPO 法人みんなの家内
連絡先：0558-52-4730 (事務局担当・奥田真美)
代表者：組長 森一人



活 動 内 容

【活動地域・内容】

リハビリ入院を終えて、家に戻ってきた言語障害者が月に1度集まり、言語訓練を行う“失語症の方のつどい”を開催しています。平成21年5月から毎月欠かさず実施し、丸3年程が経ちました。

メンバー(言語障害者)は、主に西伊豆町・松崎町在住ですが、伊東市から参加している人もいます。年齢は20代から80代まで幅広く、言語障害の程度も様々です。

会話ボランティアも主に西伊豆町・松崎町在住者。介護の資格や経験は必要ありません。また、静岡県言語聴覚士会所属の言語聴覚士(ST)有志6人が「西伊豆応援団」を結成し、毎月のつどいにST1名を派遣。言語リハビリを専門的にサポートして下さるので、会話ボランティアと1対1でペアを組んだメンバーさんたちも、体操・発声練習・ゲーム等を通じて、楽しみながら言語訓練に励んでいます。

【活動日・利用時間】

月1回、日曜日の午後1時30分～3時30分。
最後の約20分間はおやつタイム。

【活動場所】

車椅子の参加者も多いので、障害者用トイレやエレベーターのある松崎町生涯学習センターを主に会場として利用。

【利用料】

毎月発行の会報「西伊豆いろは新聞」の郵送料と、手作りおやつ材料費として、メンバーと会話ボランティアから年会費を徴収。

メンバー：年会費 2,400 円

会話ボランティア：年会費 1,800 円

【運営経費】

指導STへの交通費・謝礼に年間18万円。西伊豆町社会福祉協議会から助成金を頂いたり、松崎町社会福祉協議会を通じて、会場借用料を減免して頂いたりしています。確固たる財政基盤がなく、経費確保は悩みの種。

活 動 を 始 め た 経 緯

みんなの家が行っているデイサービスの利用者Kさんは、失語症のため周りとのコミュニケーションがとれず、生きる意欲を失いかけていました。西伊豆地域には、デイケアにも病院にもSTがいらないため、相談することもできません。何とかKさんを元気づけたいと考えた末、デイサービスの枠を超えて、地域の失語症患者が集まる“ピアカウンセリング的な場”を創りたいと思うようになりました。

偶然にも、介護保険制度が始まる以前から、埼玉県内で失語症患者が会話ボランティアとペアを組み、集団で言語訓練を行う地域リハビリ事業が行われてきたことを知り、早速、有志を募って見学に行きました。住民が会話ボランティアとして言語訓練に関わる“所沢方式”をモデルにして、自分たちも西伊豆地域で始めることにしました。

活動の実績・効果

初年度はNPO 法人みんなの家が助成金を受けて行っていた事業でしたが、2年目からは、言語障害者の当事者団体として活動をしていくことにしました。

これに伴い、失語症に対する地域住民の理解を深めるための啓蒙活動等にも取り組み始めました。

具体的には年1回、「失語症研修会」を開催し、役場職員や民生委員に参加してもらいます。失語症に関する基礎的な講義に加え、メンバー自らが会話の練習台になる会話実技も行います。参加者からは「初めて失語症の人と話をした。貴重な経験になった」と、とても好評です。

また、西伊豆町福祉大会ふれあい広場にも出店し、メンバー達が小麦饅頭を販売し



ながら、いろは組の存在をPRしています。さらに新たな挑戦として、山梨の桃源郷に初の1泊旅行にも行ってきました。メンバーより会話ボランティアの方が多いため、サポート体制はバッチリ。山梨県内の失語症友の会の人達とも交流してきました。発病以来、旅行は7年ぶりというメンバーもあり、この旅行の成功を通じて、皆とても自信をつけることができました。今後は、都内の失語症団体と交流した後、東京ディズニーランドを周る1泊旅行を計画中です。これからも、言語障害者の生きる力を高める活動を、仲間と一緒に創っていきたいです。



会話ボランティアのこえ

介護の経験もなく、全くの素人ですが、会話ボランティアに参加させてもらって、本当に感謝しています。普段は何も意識せずに話したり読んだりしている私ですが、言葉が不自由なメンバーさんとペアを組み、相手の伝えたいことを、時には絵やジェスチャーも交えながら、一生懸命汲み取ろうとして通じ合えた瞬間は、本当に嬉しくなります。コミュニケーションの本質を言語障害者の皆さんから改めて教えてもらいました。

運営者からのメッセージ

月1回のつどいなので、言葉そのものの改善は強く望めませんが、同病者同士が顔を合わせることで、「今月も会えて良かった」「また来月も皆に会いたい」という気持ちを大切にしています。

言語障害者のメンバーさんと付き添い家族、言語リハビリの専門家であるST、同じ町民の会話ボランティアさんとおやつ作りボランティアさん、事務局機能を後方支援するNPO法人みんなの家。たくさんの人達の温かい思いがあって成り立っているこの活動は、“地域の宝”だと思います。

趣味仲間が地域福祉を活性化
～アフリカ生まれの民族楽器“ジャンベの響き”をサロン活動に！

ドラムサークル 悠遊会

所在：駿東郡小山町桑木923-808-705

連絡先：0550-76-6026

代表者：和田 幹生



活 動 内 容

【活動地域・内容】

小山町社会福祉協議会の支援を受け、町内各地区のコミュニティーセンターや集会所で定期的に行われる「ふれあい茶論（高齢者対象サロン）」において、社協所有のジャンベ、ボンゴ、ドラム等の打楽器等を活用しながら、「会場設営」から「ドラムサークル」「器材の片付け」までを行っています。

『ふれあい茶論』とは…

ひとり暮らしや虚弱な高齢者など、外出する機会の少ない高齢者が集い、振り込め詐欺、防火や交通安全、悪徳商法被害防止等について消防署や警察署の職員による講話、歌唱や室内ゲーム、転倒予防体操等の多彩なプログラムで楽しいひと時を過ごしています。このサロンは「仲間づくり」「困りごと発見」「参加者同士による見守り・支え合い」「介護予防・認知症予防」「リフレッシュ」「孤立・

閉じこもり防止」の場として定着しています。

『ドラムサークル』とは…

参加者が輪（サークル）になって太鼓をたたくことにより、自然免疫力を高め、ストレスを低減し、健康になると言われています。別名「ヘルスリズムス（ヤマハが提唱・展開している“リズムを楽しむ健康生活”）」とも呼ばれています。

グループドラミングは、上手に太鼓をたたけるようにしたり、素晴らしい演奏を聴かせる場ではなく、人々に演奏の機会を与えようとするもので、一人ひとりがチカラを与え合い、共有するためにあります。リラックスして太鼓をたたき、音楽を楽しみ、音楽を通して互いのコミュニケーションを図る場です。

活 動 を 始 め た 経 緯

2005年2月、小山町社会福祉協議会が主催した「第二の人生・しあわせ探し応援講座」や「お父さんのための生活科教室」のプログラムであるメンズクッキングとヘルスリズムス体験に参加し、スッキリ感を得られた者の中から、“もう少し基本的な太鼓打法を習得し

たい”との声上がり、同年7月に小山町社会福祉協議会の助言・指導を得て、8名で趣味の会・悠遊会がスタートしました。幸運なことに、メンバーの息子さんで、ジャンベを長年趣味としてアフリカにまで出かけたジャンベのエキスパートのTさんから、月1回・

2時間程の指導を受けることができました。ほどなくして当初の目的であった「ジャンベの基本打法」を全員が習得できたことで、段々楽しくなり、稚拙なリズムから、徐々にアフリカの代表的なリズムを自らのものと感じることができました。現在では、全員が同じリズムをたたきながら、3グループに分かれ、3つの異なったリズムのアンサンブルが出来るレベルにまで到達しています。

現在、平均年齢73歳余の11名で活動しています。全員が未経験者で始めましたが、音楽的な才能に恵まれ、めきめきと腕を上げたS氏が必然的に、今日まで一貫して音楽面での指導的役割を務めております（国内最高齢のドラムサークル?）。また、長老は80才余ではありますが、シルバー世代、いや“プラチナ世代”の代表として、いまもなお元気に頑張っています。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

町内各地のふれあいサロンからの要請を受け、「出前的」に訪問し、1～2時間ほどはあるがサロンの場を盛り上げ、参加者とともに楽しい時間を共有させてもらっています。（月2～3回／年10回程度）

毎週水曜日の13時30分から2時間ほど、小山町健康福祉会館の一室で練習を行っています。町民は自由に見学出来、希望者は無料で太鼓を体験できるオープンスタイルをとっています。

【運営経費】

年間の活動経費

指導者謝礼 65,000円

保険料 3,000円

消耗品費 34,000円

その他 30,000円

【大切にしていること】

仲間の“和”をモットーに、門戸をオープンにして入会希望の町民等を受け入れる。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

年間を通して開催される「ふれあいサロン」への出前もほぼ一巡しているが、中には毎年声を掛けてくれる地域もあり、こうした先には、ヘルスリズムスのレベルアップや、リズム楽器であるトランペットやエレクトーンとのコラボレーションで、より娯楽色やゲーム色のあるサロンにする等の創意工夫が求められています。

過去7年間で、80回余のサロンに参加し、年間40回余の公開練習に励んでいます。このように「介護」や「子育て支援」のボランティア等とは異なる“趣味のグルー

プ”であっても、その活動が在宅福祉や地域福祉の活性化につながっているといえます。

運営者からのメッセージ



ドラミングを通じて、地域の皆さんとのつながりが深まっていくことが、私たちにとっての「ふくし」だと思います。

「地域との積極的な交流」「障害者の地域参加」を目指して！

ハルモニア“地域交流センター”

〒426-0066 所在地：藤枝市青葉町2丁目11-1

電話：054-637-2111 FAX：054-634-0031

メール：info@harmonia-fujieda.com

代表者：理事長 大長昭子



活 動 内 容

ウェルフェア塾

「障害のある人もない人もみんな仲間」を合言葉に、7つのふれあい交流プログラムを実施しています。

- ①とどけ歌声 楽しい居場所
- ②ホッとする おしゃべり会を創ろう
- ③自然をあそぼうよ
- ④サッカーボールでナイスキック！
- ⑤あっとおどろく不思議体験
- ⑥みーつけた！昔のあそび
- ⑦チャレンジランキングにチャレンジ

【活動日】

- | | | |
|-----|-------|----------|
| 第一回 | 9/25 | 開講式 |
| 第二回 | 10/23 | 実践プログラム① |
| 第三回 | 11/27 | 実践プログラム② |
| 第四回 | 12/25 | 閉講式 |

【利用料】 無料

福祉コミュニティ講座

「誰もが安心して生活できる地域づくり」の担い手養成を目指し、グループ学習等を行います。

【活動日】

- | | | |
|-----|------|---------------|
| 第一回 | 6/5 | 開講式 基調報告 |
| 第二回 | 6/19 | 基調講義 公開トーク |
| 第三回 | 7/3 | グループ学習「私の居場所」 |
| 第四回 | 7/19 | ミニシボ「居場所づくり」 |

【利用料】 無料

協働ネットワーク委員会

地域活動の実践者等で構成される委員会において、「福祉施設の社会化」を目的に、その活用法等について協議します。

【活動日】

- | | | |
|-----|------|---------------|
| 第一回 | 1/29 | センター経過報告 意見交換 |
| 第二回 | 2/18 | 24年度事業について |
| 第三回 | 3/10 | 24年度事業実施計画 |

活 動 を 始 め た 経 緯

障害者一人一人の主体的な自己実現を目的に、「地域交流センター」を設立しました。地域密着型施設機能の確立を目指すと共に、福祉教育の推進にも力を入れています。どちらも、共生社会の実現に向け、地域の方々と協働して取り組んでいるところです。法人設立から7年の実績をもとに、今後も様々な活動を推進していきたいと考えています。

事業内容

- ・施設福祉サービス 利用者主体支援事業
法人通所施設の余暇活動等の支援
- ・地域学習開発事業
福祉教育に関する各種研修会の開催
法人通所施設への見学・実習等受け入れ
- ・啓発事業
広報誌やホームページ等を通じた啓発活動

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

社会資源の有効活用を図るべく、公民館や特別支援学校といった外部施設を活動の拠点としています。また地域で活躍されている方々を講師にお招きし、専門的な立場からご支援をいただいています。センターは法人内の事業所をコーディネートする役割を有しており、併用された会議でも、積極的に関わりを持っています。当法人の職員をスタッフとすると共に、新人職員研修の場としても位置づけています。

【運営経費】

各種研修は法人事業として実施するため、後援会からの助成もいただいています。ウェルフェア塾は、県委託事業「地域における施設の拠点機能活用事業」委託費を活用しています。

【大切にしていること】

単なる楽しいイベントで終わらせないこと。事業を通じて、障害者や職員、住民等が同じ地域に暮らす者として、住み良いまちづくりを理論と実践の両面から学び合っています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

ウェルフェア塾には、障害者 58 名、地域住民 170 名等の申し込みがあり、延べ 518 名に参加していただきました。特に学生ボランティアの 93 名には、運営や実践の場を提供することができました。

福祉コミュニティ講座には述べ 224 名の参加があり、「地域に居場所がない」等の課題提起のもと、安心して暮らせる地域づくりを目指して、参加者同士アイデアを出し合い、「地域に何が必要か」を議論しました。

協働ネットワーク委員会では、社会教育や地域団体等の分野から 8 名の委員を委嘱し、福祉施設の公民館的役割や、取り組みを地域に発信する広報啓発の必要性、障害者就労と余暇のあり方について議論を深めています。

「ウェルフェア塾」参加者のこえ

- ・ 障害を持つ方と接する良い機会だった。
- ・ 障害の有無、老若男女問わずみんな生き生きとして、とても居心地が良かった。
- ・ 障害のある人もない人も、区別されことなく楽しめる場所があり良かった。
- ・ 一般の人をもっと巻き込んで欲しい。
- ・ 初対面の人とも笑顔で打ち解け、こういったチャンスは今の時代貴重だと思った。
- ・ 障害者がそれぞれの持ち味を発揮し、楽しく生活していることを嬉しく思えた。

運営者からのメッセージ

地域と施設とをつなぐ

「地域交流センター」は、今後も教育と福祉を融合し、地域の誰もが寄り合う場づくりの実現に向けて、さらに充実した取り組みを行っていきます。

ぜひ一緒に各種研修プログラムにご参加いただき、これからの地域づくりについて語り合いましょう！



障がいがあっても、役に立ちたい！

ベアーズ

所在地：御前崎市池新田1650

連絡先：0537-86-9327

代表者：湊 八重子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

- ①地域での有償ボランティアに取り組むことで、障がい者が協力し合って資金を稼ぎます。(介護施設への図書館本の配達、使い捨てお尻拭きの寄付、車椅子そうじ、リサイクル回収、町内会ごみ収集、ステーションの清掃、公民館トイレ掃除等)
- ②ラウンジを設置し、毎週月曜日午後、コーヒーやお茶、ジャズを楽しみながら交流しています。

【利用方法】

- ①身体・知的・精神等障害の程度や種類に関わらず、希望する人に有償ボランティアを紹介し、やりたいものをしていただいています。
- ②ラウンジは、障がい者のみならず、知人・友人・家族の方にも利用していただけます。

【活動日・利用時間】

- ①ボランティア活動は、通年で実施しています。(時間の指定なし)
- ②ラウンジ営業は、月のみ13:00~16:00

【利用料】

- ①有償なので、奉仕料をお受け取りいただけます。登録料・年会費なし
- ②ラウンジでの飲み物、お菓子代 寸志(10円~50円)程度

※活動は、家族やホームヘルパーの方と一緒に行っていただきます。一人での参加は認めておりません。重度から中度の障がい者向けです。



活 動 を 始 め た 経 緯

代表者の息子が重度自閉症であり、6歳から13歳まで米国テキサス州の障がい者コースの学級で学びました。息子が学校へ通う間、代表者は別のクラスの学級担任の助手としてボランティアに取り組みました。11年前、日本に帰国しましたが、福祉を取り巻く現状に大きな驚きを受けました。2001年には介護事業が始まっていたし、御前崎市立図書館「アスパル」には、良い本が沢山ありました。

これらを活用しようと思い、11年前から、介護施設へ本の配達を行うようになりました。息子が養護学校・中等部・高等部と通う中、地域での様々なボランティアにも参加するようにもなりました。(ちなみに、当団体は2007年から2011年までNPO法人として活動していましたが、解散し、任意団体に戻りました。)

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

〈場所〉

御前崎市内 26ヶ所（リサイクルの回収）

介護施設 7ヶ所

町内会

〈人員体制〉

代表者がコーディネーターを務めています。

障がい者のガイドは家族やホームヘルパーが行いますので、他者が面倒を見ることはありません。 会員 15名

【運営経費】

リサイクル等の収入 年間約 120 万円

必要経費を除き、残った分を有償ボランティア代金として各自に支払っています。

【大切にしていること】

奉仕報酬の配分が、実労に合わせ、公平であること。（ボランティアの内容によって、得られるポイントが異なります。内容の選択等は各自に任せてありますので、障がい者自身が責任を持って継続できます。）

活 動 の 実 績 ・ 効 果

有償ボランティアは、日中仕事をする方にとっても、施設サービスを利用する方にとっても、社会とつながる貴重な時間です。小銭ながらもお金がもらえ、「もっと頑張りたい」と思えるようになります。向精神薬が減った方もいます。有償で、しかも年間を通じて取り組めるというのは、大きな意欲向上が見込めます。各自の生活に合わせて取り組むこともできます。

社会に出てボランティアをすると「ありがとう」と感謝の言葉を沢山いただきますが、逆に、障がいゆえの偏見に出会うこともあります。「普通に生まれ、普通に生きることも楽ではない」と言う障がい者の言葉が耳に残っていますが、等身大の自分と向き合い、仲良くすることを考えることで、落ち着いて生活することができればと思います。

地元のごえ

「あんたら、こういうことやってくれて、本当に助かるよ」

【94歳になる近所のおじさんが押し車を押しながら言った言葉】

「今日もリサイクル回収箱に3つ段ボールを入れて来たよ。応援しているよ。あんたらが仕事を止めたら、オレの仕事がなくなって困る。頑張れよ。」

運営者からのメッセージ

日中デイサービスを利用せず、有償ボランティアに取り組んだ方は、年間一人当たり 400 万円の節税につながっています。自助努力にも成功しているのです。

国の社会保障制度のみを当てにせず、今暮らしている町で、工夫と努力を重ねて自分らしく生きていきたいと思います！



顔の見える地域づくりで、支えあいのある地域に！！

地の神様で地域づくり

所在地： 菊川市川上 1371-2

(小笠東地区コミュニティセンター くすりん)

連絡先： 0537-35-3724 (菊川市社協地域福祉係)

代表者(連絡窓口)：

そんだもんで東【小笠東地区地域サポーターグループ】

代表 二俣美保子 (連絡は菊川市社協へ)



活 動 内 容

【活動地域・内容】

小笠東地区コミュニティセンター「くすりん」において、地域の方(5名)に講師となっていていただき、「地の神様」製作講座を実施しています。小笠東地区自治会の協力の下、お申込をいただいた方々(回覧板を活用)と一緒に、その年に地域で採れた竹・稲わらを使って製作を行います。

【利用方法】

自治会もしくはコミュニティセンター経由でお申込いただきます。

【活動日・利用時間】

例年11月第3土日のいずれか
午前9時00分～午前11時30分

【利用料】

無料

活 動 を 始 め た 経 緯

概ね月に1回の割合で、「そんだもんで東」【小笠東地区地域サポーターグループ】の座談会を行っています。座談会では、小笠東地区の地域福祉を推進するための話し合いを行っていますが、その中で「顔の見える地域づくりから地域福祉の推進を進めてみたら」との声が上がりました。そこで、次の3つのことを目的に講座を実施することとなりました。

- ①老若男女の住民同士の世代間交流を促し、顔の見える地域づくりの場とする。
- ②地域の住民が信仰されている『地の神様』(※)をつくることのできる人が地域の中でも少なくなっていること、そして地域でつくることのできる方の大半が男性の

高齢者であることから、講師になりうる高齢男性の社会参加を促す。

- ③成果物である「地の神様」を、一人暮らしのお年寄りに地域サポーターが直接配布することで、見守り声掛けの一助とすると共に、福祉ニーズの聞き取りを行い、高齢者を対象としたさらなる事業を見据える。

※「地の神様」とは、当地域の住民の多くが信仰している神様で、毎年12月15日、居住する敷地の北西の方角に祀られます。その年に取れた稲藁と新竹を使い、社と供え物を載せる皿を作ります。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

小笠東地区コミュニティセンター「くすりん」において、小笠東地区地域サポーターグループ「そんだもんで東」と菊川市社会福祉協議会の共催により、地域の住民の中から講師をお願いして開催しています。

【運営経費】

共同募金助成金を原資とする「菊川市社協地域ボランティア助成事業」による助成金事業経費 15 千円

【大切にしていること】

地域の皆様が心温かく、幸せに住むことができる「小笠東地区」を目指して活動しています。



活 動 の 実 績 ・ 効 果

平成 21 年度から実施し、本年度で 3 回目を数えます。地域の認知度も年々向上し、様々な方にご参加いただくようになりました。当日参加してくださった方には、自分用とは別にもう 1 セット、ひとり暮らし高齢者の方へのプレゼントとして製作していただきました。地域のことを思いながら、皆さん、笑顔で製作してくださいました。

参加者に製作していただいた「地の神様」のお社とお供え物を載せるお皿は、地域サポーターと民生委員児童委員により、ひとり暮らしをされるお年寄りのもとにお届けにあがります。皆さん、とても喜んでくださいます。これをきっかけとして、談笑しながら福祉ニーズを拾いあげることができるよう、頑張っています。

参加者のこえ

- ☆行くまでは億劫だったけど、行って見たらいろんな人としゃべりながらできて面白かった。
- ☆昔は売っていることもあったけど、今は作れる人が少ないせいか、売らなくなってしまった。こういう機会に覚えておかないと。
- ☆こういう事業をたくさん開催してほしい。

運営者からのメッセージ

小笠東地区
地域サポーターグループ
『そんだもんで東』
二俣美保子 代表



「できることをできるだけ」歩みは遅いかもしれませんが、地域での住民同士の助け合いや支え合いは、行政や社協から言われたまま行うのではなく、自分たちで考え、気づいたことを発信したいと思います。無理のないよう少しずつ頑張っています。

地区民生委員児童委員協議会の機能強化への取組

南部地区民生委員児童委員協議会

所在地：磐田市国府台57番地7
連絡先：0538-37-4824
代表者（連絡窓口）：柴田 明浩



活 動 内 容

【活動地域・内容】

磐田市南部に位置する天竜於保地区及び長野地区は、高齢化が進む一方、十分な交通機関や日用品販売店、医療機関等が整備されていない地域です。消費・医療・介護等の生活課題が山積する中で、民生委員・地区民協として何かできることはないか考え、「高齢者の日常生活上のニーズの把握とその対策を考える」をテーマに、次の活動に取り組んでいくことになりました。

- ①地区民児協における意思統一
- ②社協活動と地区民児協活動との連動性確立
- ③地区民児協管内の地域診断（住民へのアンケート）、地域ニーズの把握
- ④住民意識啓発のための福祉懇談会の開催
- ⑤“地域福祉セミナーの開催”



活 動 を 始 め た 経 緯

少子高齢化等社会環境の変化に伴い、民生委員及び地区民児協が果たすべき役割は、ますます大きなものとなっています。

住民ニーズを的確に把握し、地域福祉の実現を図るためには、どのような活動を行うべきなのか。

「誰もが安心して暮らせる福祉のまち」の実現に向け、地区民児協はじめ地域住民や関係

団体と連携し、問題解決に努めていくことに致しました。



運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

活動場所：南公民館及び長野公民館

推進体制：

- ①構成メンバー…企画委員会を設置。構成員は、会長1名、副会長2名、会計1名（副会長兼務）、運営委員若干名
- ②活動への指導・支援の依頼
磐田市社協及び静岡福祉文化実践研究所代表の平田厚氏に助言を依頼している。

【運営経費】

- ・全国民生委員互助共励事業
指定民児協助成費…126千円
- ・研究地区民生児協助成金…200千円
- ・南部地区民児協…190千円

【大切にしていること】

民生委員活動の原点に立ち返ること、そして地域福祉の推進と協働の意義を学び、全員の意思統一を図ることを大切にしてきました。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

①民児協としての組織活動の重要性

地域における高齢者世帯の生活課題や多岐に渡る福祉ニーズが明らかとなりましたが、その解決のためには、地区民児協が中心となって行動することが重要であると再認識しました。

②研究活動の目的の明確化

各委員が活動の趣旨や目標、活動内容を理解し、常に情報を共有しつつ、一丸となって取り組むことができました。

③関係団体との協働

地域住民をはじめ自治会、地区社協、福祉委員会、ボランティア団体等と「協働」することの意義を感じることができました。

④語り合える環境づくり

地域福祉懇談会や地域福祉セミナーにおいて自由な意見が出され、「わかる福祉」に少しでも近づくことができました。



運営者からのメッセージ

地域福祉を推進するためには、地区民児協だけでなく、自治会・地区社協・行政・地域包括支援センター等との継続的な連携・協働が重要です。

全ての人が自分たちのまちで安心してらせる環境づくりのために、力を尽くしていきたいと思えます。



自分のしたいことが自分でできる、健康長寿をめざして～健康体操教室～

湖西市社会福祉協議会

所在地：湖西市古見1044番地
湖西市健康福祉センター内
連絡先：053-575-0294
代表者：会長 土屋 正征



活 動 内 容

【活動地域・内容】

70歳以上の高齢者が心身ともに健康な日常生活を送ることができるよう、市内20か所の公会堂などで健康体操教室（手遊び・手拭い体操・筋力体操など）を開催しています。健康体操リーダー養成講座を受講した地域の方が、講師として指導にあたり、介護予防に取り組んでいます。

【利用方法】

健康体操教室の参加希望者（概ね70歳以上）に対しては、看護師や保健師が事前に健康チェックを実施し、適切と判断された方に参加していただいています。

また、健康体操リーダーを希望する方には、3日間の健康体操リーダー養成講座を受講してもらい、社会福祉協議会へ登録後、健康体操リーダーとして指導にあたっていただいています。

【活動日・利用時間】

毎月1回 午前10時～11時30分
※活動日は各地区によって異なります。

【利用料】

無料
※地区によっては1回100円程度のおやつ代をいただきます。



活 動 を 始 め た 経 緯

平成18年度以降、高齢になっても自分で身の回りの世話ができ、自分の望む活動ができるよう、身体機能の維持向上を目指して「健康体操教室」を開設しています。

健康体操教室は、地域の人たちで介護予防をしようとする取り組みです。健康長寿を目指す高齢者の意欲を、地域の人たちが支

えています。

毎回楽しい雰囲気の中で体操が行われており、中には、皆勤賞を目指して休まず出席される方もいらっしゃいます。

社会福祉協議会では今後も、健康体操教室が多くの地区で実施されるよう支援していきます。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

市内 20 か所の公会堂、集会所、公民館で実施しています。

現在、86 名の健康体操リーダーが各地区の高齢者に指導しています。

平成 22 年度は、2,147 人（延べ人数）の方が参加されました。

【運営経費】

健康体操推進事業委託金 1,668 千円

【大切にしていること】

仲間と一緒にやることで、運動は苦しい・辛いというイメージを、「楽しい」というプラスのイメージに変えてくれます。

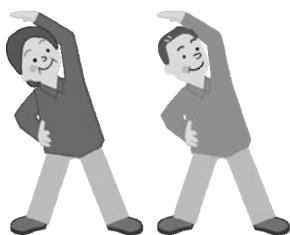
指導者自ら楽しんで指導することを心がけています。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

健康体操教室は毎月 1 回ですが、効果が上がるよう「毎日カレンダー」を配布し、毎日 10 種類の体操を自宅で実施するように指導しています。

体操は、手拭い 1 本あれば、器具を使わず誰でもできるものを紹介しています。

平成 18 年 9 月から開始していますが、毎年 5 月に実施する効果測定の結果からは、多くの方の身体機能が維持向上しているのがわかります。



参加者のこえ

- 毎月 1 回、ここへ来て皆さんと一緒に体操をし、おしゃべりすることが何より楽しみです。
- 自宅のカレンダーに印をして、忘れないように心がけています。

運営者からのメッセージ



「楽しみにしてるよ～」と言われ、とても嬉しく思いました。この健康体操は、自分のためにやり出したのに、本当に感謝。これからも勉強して頑張ります。

バランスのとれた食事で健康で長生き

賀茂女(かもめ)会

所在：西伊豆町安良里109

連絡先：0558-56-0751

代表者：高木 民子



活動内容

【活動地域・内容】

- 食育劇（幼稚園児に上演）
- 男の料理教室（60歳以上の一人暮らし男性対象）
- 高齢独居老人へおせち料理（65名程度）・・・社協とタイアップ
メニューに合わせた食材を買ったり、持ち寄って調理実習をしたり、講師を招いて郷土料理を作ったりしています。
- 社協の「ふれあい広場」への参加、協力

活動を始めた経緯

平成6年より、現在の健康食推進協議会と分かれて、かもめ会を設立しました。代表ばかりが参加するのではなく、全員全てが参加できるような活動内容を考えています。バランスのとれた食事で、健康で長生きできる地域づくりを目指しています。



運営方法

【活動場所・人員体制】

主として、西伊豆町中央公民館で活動しています。
食育劇は、町内の幼稚園をまわって上演しています。
会長や栄養士を含め、16名で活動しています。



【運営経費】

年会費 1人1,000円
なお、おせち料理の材料費は、社協の助成金を活用しています

【大切にしていること】

「人との和」

運営者からのメッセージ

- ・園児の保護者より、バランス食について園児の関心が高まってきたとたびたび聞くようになり、子どもたちにも理解されるようになってきたようで嬉しいです。会の励みにもなっています。
- ・暮れのおせち料理では、お年寄りから「おいしかった、また来年もよばれるよう体に気をつけていきたい」などと言われるとやりがいを感じます。

活動の実績・効果

社協のふれあいまつり（広場）へ参加するなどして、地域住民に少しずつ知られるようになりました。
食育劇を通して、園児にバランスの取れた食事への関心が増えてきたように思います。（4つのお皿の料理）

誰もが楽しく共存できる町づくりを～弱者を見守る目を持つ

「あいがとうのこだま」

所在地：牧之原市須々木140
(牧之原市社会福祉協議会 内)
連絡先：0548-52-3500
代表者：太田 広子



活 動 内 容

【活動地域・内容】

日頃地域の役員やサロン協力員として活動しているメンバーが多いため、それぞれの活動状況や問題点を出し合い、会として地域のために何ができるか、定期的に話し合いの場を持っています。また、社協の行事や講演会に参加し、自分の地域以外の人との交流を図ることで、地域の情報収集に努めています

【活動日・利用時間】

不定期（土曜の午後）

活 動 を 始 め た 経 緯

平成22年2月より市社協の小地域福祉活動リーダー養成講座を4回受講し、「ご近所福祉をすすめよう」のテーマをもとに学びさせていただきました。途中、東日本大震災が起こり自分たちも同じような条件下に住むことから、地域の助け合いの大切さを痛感し、継続して集まりを持つようになり、平成23年7月より「あいがとうのこだま」としての活動を開始しました。

運 営 方 法

【活動場所・人員体制】

会員は19名です。市の施設をお借りして話し合いを行ったり、社協の行事に参加しています。

【大切にしていること】

他者を支えることは自分を支えてもらうことにつながります。何かをしてあげるのではなく、させてもらう。自然に助け合いのできるよう、また、回に参加した時に楽しかったと思えるような集まりにしたいと考えています。

運営者からのメッセージ

あなたは日に何回「ありがとう」と言いますか。また何回言われますか。私は言われることより自分が言う回数のほうが断然多く、助けられてばかりです。

あいがとうのこだまのメンバーは年齢も住んでいるところも様々で魅力ある方ばかりです。ほんの少しお時間のある方はぜひご参加ください。

活 動 の 実 績 ・ 効 果

まだ日も浅く会の集まりも少ないため実績というほどのものはありませんが、広い範囲で交流ができたことで、地域の現状や様々な取組状況を認識し、今後の活動に創意工夫する手がかかりを得ることができました。これからも色々な場に出掛け、お手伝いをしながら、今後の方向性を決めていきたいと思っています。

要見守り世帯訪問事業

(伊豆の国市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

伊豆の国市は、平成17年に旧大仁町、旧菰山町、旧伊豆長岡町が合併し誕生しました。伊豆の国市においては、高齢化率は23.6%であり、今後、団塊世代の方たちが高齢者になる平成27年には29.2%に達すると見込まれています。また、健康で活動的な高齢者が増加する一方で、一人暮らしや介護を必要とする高齢者も増えています。現在、民生委員・児童委員やボランティアの協力により、「ひとり暮らし高齢者」の見守り活動を進めておりますが、高齢者世帯、障がい者世帯等支援が必要と思われる世帯は増加しています。個人情報保護法の施行後、行政及び区からの情報提供もなくなり、発見や援助が遅れることによる重篤な状況や孤独死などの危険性が高まっています。

【活動の目的・ねらい】

地域において、民生委員・児童委員、ボランティア、地域包括支援センター等の協力を得て、見守りが必要と思われる世帯の抽出と支援体制の早急な確立を進めていきます。

また、民生委員・児童委員とボランティア、地域包括支援センターとの情報連携を進めるとともに、民生委員・児童委員による要支援者の訪問活動を円滑に推進するための「仕組みづくり」を構築し、緊急時の連絡先などの情報提供を進めていきます。

【活動の内容】

○要支援者に関する情報の共有化

各地区の民生委員児童委員、ボランティア団体（老人クラブ含む）等との情報交換の場を提供し、情報の共有化を図っています。

○要支援者世帯への訪問活動の支援

各地域のボランティアの手づくり弁当を配食するとともに、相談連絡先等を記載したボックスティッシュを配布するなど、効果的な情報提供を兼ねた訪問活動を行っています。

【運営上及び活動上の課題等】

個人情報保護法の施行後、地域で生活している独居高齢者、高齢者世帯、障がい者世帯の情報がないことから、民生委員・児童委員自身が集めた情報で見守り活動を展開しなければなりません。

【成果及び課題】

見守り活動として配食事業を実施していますが、夏場など食事が届けられない時期には、ボックスティッシュを活用することにより、訪問活動を継続実施することができます。また、ボックスティッシュを情報提供の媒体とすることにより、周知がしやすいと好評です。

【今後の対応】

今後も配食とボックスティッシュを活用した訪問見守り活動を地域で展開させていくとともに、民生委員・児童委員、行政担当課との情報連携を円滑に進めることができる体制づくりを進めていきます。

高齢者閉じこもり防止事業

(東伊豆町社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

高齢者の一人暮らしや高齢者のみ世帯であると、日頃外出する機会が少ないため、どうしても閉じこもりがちになってしまいます。そういった状況にならないように、地域のボランティアや民生委員・児童委員、元保健委員の方々の協力を得て、高齢者の閉じこもりを防ぐための活動をするようになりました。

【活動の目的・ねらい】

身近な地域で楽しく交流し、孤独感の解消や生活のリフレッシュ、生きがいつくり等を図ることを目的としています。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

- 実施地区：奈良本地区、稲取地区、大川地区、湯ヶ岡地区
- 実施場所：各地区の公民館及びセンター
- 対象者：奈良本・稲取地区は 65 歳以上、大川地区は 70 歳以上、湯ヶ岡地区は年齢制限なし
- 実施回数：概ね月 1 回
- 参加者：概ね 20～50 人
- 実施内容：保健師による健康チェック、警察・地域包括支援センター・保健センター等の外部講師による災害や交通安全、薬等の講話、各種体操や体力テスト、幼稚園児等との交流、季節に合わせた行事等

【運営上及び活動上の課題等】

- 連絡方法（急な中止等変更内容の連絡や次回内容の伝達について）
 - 災害時の対応（情報伝達、避難、安否確認等）
- ※マニュアルは作成してありますが、いざ災害が起こった際に機能するかが課題です。

【成果及び課題】

地域の方々はサロンを楽しみにされており、どの地区も大変多くの方が参加されています。また、地域によってサロンの立ち上がり状況は様々ですが、地域のボランティアの方々の主体的な取組が見られるようになり、年々サロンのメニューが充実していきます。

【今後の対応】

今後ますます住民主体の取組が活発になるよう、住民に寄り添った後方支援・協力をしていきたいと思っております。

子育てボランティア活動拠点整備事業

(南伊豆町社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

南伊豆町では公的な子育て支援サービスの確立が十分とはいえず、子育て支援関係のボランティア団体が支えている状況が見受けられます。今後、地域の子育て環境を考える上で、継続した支援を行える体制づくりが必要です。

【活動の目的・ねらい】

子育て支援を行政だけに頼るのではなく、市民活動のなかで、相互に支え合いながら行える活動を確立し、ボランティアの育成及び町ぐるみで子育て活動に参加できる体制づくりを目指します。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

○「地域における子育て支援講演会」(南伊豆町中央公民館、町民対象)

子育てボランティア活動の先駆的な実践活動の紹介と地域全体で子育てを支える体制作りについての講演会を実施しました。(講師：NPO法人あそび子育て研究協会副代表の金沢敬子氏)

○「子育て支援講習会」(南伊豆町武道館、子育てボランティア活動の従事者対象)

先駆的な取り組みの実践を学び、スキルアップを図るために、講習会を実施しました。(講師：NPO法人あそび子育て研究協会副代表の金沢敬子氏)

○「ボランティア連絡会」(南伊豆町武道館、ボランティア対象)

子育てボランティア及び町内で活動する各ボランティア団体の相互協力体制を構築するために、連絡会を実施しました。

【運営上及び活動上の課題等】

子育て支援活動に携わるボランティアの人材不足・高齢化

【成果及び課題】

高齢化率36パーセントである当町では、子育て支援活動の環境を整えるために、高齢者の協力が重要であります。講演会を実施することにより、老人クラブの会員等をはじめ、多くの高齢者が子育て支援に関する取組に関心を抱いてくれました。

【今後の対応】

子育て支援に関わるボランティア団体及び行政との連携を強化し、継続的に子育て支援活動を推進していきます。

支えあい夢づくり人づくり交流会

(沼津市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

平成6年から一人暮らし高齢者の集い「ことぶきサロン交流会」を開催し、地区社協のサロン活動を支援してきました。参加者からの要望もあり、次第にひとりぐらし高齢者の集い・サロン活動を重視したことから、次世代リーダーの養成・地区社協内ボランティアの養成・サロンに参加できず孤立している方の支援という主目標に切り替え、平成18年から名称を「支えあい夢づくり人づくり交流会」に変更し、現在に至ります。

【活動の目的・ねらい】

小地域ネットワーク活動を実践するリーダーを養成することを目指し、交流会を毎年開催しています。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

会 場：ぬまづ健康福祉プラザ（サンウェルぬまづ） 多目的ホール 大中小会議室

対 象：市内19地区社会福祉協議会のリーダーやボランティア

(例年参加者160人～200人)

実施方法：午前 講演会

演題 「地域福祉とエコ活動」

講師 静岡大学人文学部経済学科准教授 水谷 洋一 氏

午後 グループワーク

【運営上及び活動上の課題等】

- リーダーの高齢化
- 地域福祉推進の目標の共有化や地域格差

【成果及び課題】

- 住民自身が課題や問題意識に気付き、それらを解決するために、関係機関と連携を図りながら活動をするようになりました。
- 多くの住民が関わり、互いに交流を図ることにより、共通認識を得ることができました。
- 地域資源を再確認できます。
- 次世代リーダーの育成において、リーダーに負担がかかりすぎるとの課題があります。

【今後の対応】

- 誰もが地区社協活動に参加できる体制づくりの支援
- サロンに参加できない方への見守りネットワークの推進
- 居場所づくりの必要性に関する共通認識

小地域のつながり強化事業

(御殿場市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

これまで、住民による地域福祉推進組織を旧町村単位に6つ、その支部として行政区ごと58の組織を設置し、高齢者サロン、子育てサロン、世代交流事業等を行ってきたことで、このような「集会型」の活動は一定の普及・定着をしました。次の段階として、これらの集会型の活動には参加しない、参加出来ない人の中で、福祉課題を抱える住民への支援の充実が求められていますが、地域の近隣関係のなかでも、個々の家庭の課題の中には入り込みづらいという状況が強くなってきています。

【活動の目的・ねらい】

従来から実施しているサロン・世代間交流等の活動を、これまで以上に、地域のつながりづくりを意識した活動として継続・発展し、日常からの見守り・声かけ・生活支援等の「個別支援活動」の普及・定着を進めます。また、大規模災害時にも強みを発揮する素地を醸成していきます。

【活動の内容】

- 市内6地域のコミュニティーセンターを会場とし、以下の事業を実施
 - ・地域福祉推進委員を対象とした研修会(防災・見守り活動等福祉課題の啓発)
 - ・一般住民を対象とした福祉公開講座(大震災の教訓から学ぶこと等)の開催
 - ・地域住民啓発のための広報紙の発行(住民自らが編集)
- 市内58行政区の公民館等を会場とし、以下の事業を実施
 - ・サロン参加者(高齢者・子育て)を含めた住民座談会及び懇談会の開催

【運営上及び活動上の課題等】

活動の展開にあたり、民生委員・児童委員、老人クラブ、地域包括支援センター等との日常的な連携や、自治会・自主防災会との災害時の連携が望まれていますが、住民側からは支援を行いたくても対象者の情報がない、関係機関・団体側からは、きめ細かい支援を行うには人手が足りず、個人情報保護や守秘義務のために情報を出すことはできないといったジレンマが発生しています。

【成果及び課題】

高齢者所在不明問題や東日本大震災などを受け、地域社会からの孤立を防止し、災害時の人的被害を軽減するには、家族や地域のつながりが大切であるということが改めて認識

されました。未だ課題はあるものの、それぞれの地区ごとに、声かけ訪問の展開、高齢者見守りネットワークとの連携、地域防災訓練との連動など、できる部分から一步一步取組を進めています。

【今後の対応】

東海地震や富士山噴火等の災害を改めて見直し、災害ボランティア本部の運営を含めた災害対策を強固なものとしていくとともに、関係機関・団体との調整を図り、住民・地域福祉推進委員会が活動しやすい環境を整えていきたいと考えています。

小・中学生福祉教育促進事業

(清水町社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

清水町内には、小学校3校・中学校2校があり、小・中学校とも県社協の福祉教育実践校事業を終了してから15年以上を経過しています。事業終了後、町社協がフォローアップを行ってきましたが、福祉教育における学校と社協、学校と地域及び関係機関との連携が低下しつつあります。

東日本大震災を契機に“助け合い”や“きずな”が求められている今、清水町内小・中学校の児童並びに生徒へ福祉についての理解がより一層求められます。

【活動の目的・ねらい】

福祉施設・福祉専門職・ボランティア・地域住民の協力のもと、体験学習を中心とした福祉教育を実践し、児童・高齢者・障がい者とのふれあいや交流を図る中で、子どもたちに“思いやり”や“いたわり”“たすけあい”といった気持ちを育んでいきます。

また、児童並びに生徒へ福祉についての理解が深めるとともに、学校と社協、学校と地域及び関係機関との連携を図ります。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

- ・地域の小中学生を対象とした講座の開催

内容：車椅子・高齢者疑似体験、点字講座、手話講座、ボランティア体験等

実施回数：1日×5回、7日間×1回、5日間×2回

参加者数：延べ170名

*講座等の指導には、町手話サークルや盲人会、施設の指導員等に協力をいただきました。また、夏休みだけでなく、日頃の学校教育の中に福祉についての学習や体験する場を作り、学校における福祉教育を推進します。

- ・中学校と連携した講座等の開催

内容：特別支援学級と一人暮らし高齢者等の交流、車椅子・高齢者疑似体験、点字講座等

実施回数：6回

参加者数：延べ275名

【運営上及び活動上の課題等】

- 学校行事とする等事業の定着化
- 担当教員との円滑な連絡調整

【成果及び課題】

一人ひとりの児童・生徒たちが、福祉についての理解を深める機会となり、また、学校と社協、学校と地域及び関係機関との連携を図ることができました。

【今後の対応】

単年度で終わることなく、事業の継続化を図ります。

“ふれあいネット” 推進強化事業

(焼津市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

少子高齢社会において、多様化する福祉ニーズに対し、これまでの家族や地域社会が持っていた助け合いや支え合いが薄れていく中で、日常生活の中で誰もがができる助け合い・支え合い活動を推進していく必要がありました。

【活動の目的・ねらい】

日常生活の中で、不安を抱えがちな一人暮らしや高齢世帯・障がい者世帯の方たちの不安を少しでも解消し、在宅生活を継続していくために、地域ぐるみで見守り・支援していくことを目的としました。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

民生委員・児童委員は、一人暮らし高齢者や障がい者など対象となる方々から、ご本人の承諾を得て、隣近所の方に「見守り員」としての協力をお願いします。主に、家庭の中に入らないで外からの見守りや声かけなど、ちょっとした気づかいや心くばりをする活動を行います。

【運営上及び活動上の課題等】

社会状況の変化から、見守りを必要とする人たちの多様化や地域における近所付き合いの希薄化の進展、見守り員の確保の難しさなど、今現在の状況に対応したネットワークの再編が求められています。また、協力者である自治会・民生委員児童委員・見守り員の連携強化も重要となっています。

【成果及び課題】

状況の把握や予防、問題の早期発見、問題発見後の対応を円滑にするため、関係者（民生委員児童委員・自治会等）の情報収集・提供、意見交換を通し次へつなげるための連絡調整が課題です。また、見守りを希望される方が増える中で、見守り員として協力いただく地域住民が少ないことも課題です。

【今後の対応】

- 見守り活動の重要性やシステムの共通理解を得ることにより、地域住民や関係者の意識強化を図ります。
- 状況の把握や予防、問題の早期発見、問題発見後の対応をより円滑に行うために、情報収集・提供のシステムづくり、関係者間のネットワーク構築を行います。

ふれあい・いきいきサロン協力員養成事業

(牧之原市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

サロンを継続していくにあたり、協力員が増えていかないとリーダーの後継者不足によってサロンを休止する地域がみられてきました。その課題は、今後、他の地域にも想定されることから、サロンの必要性や地域で行うことの意義などについて、意識啓発していく必要があります。

【活動の目的・ねらい】

サロン協力員の意識の向上や協力員同士の情報交換の場、情報共有の場を提供するとともに、活動に対する意欲を高めることを目的に行います。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

実施場所：相良総合センターい〜ら、サロン会場など

実施回数：4回

参加者数：延153人

対象者：サロン協力員やサロン事業に関心をお持ちの方

内容：サロンの可能性について考える、体操やゲームなどアイデアを出し合って楽しさを共有、リサイクル用品を使つてのレクリエーション技法の習得等

【運営上及び活動上の課題等】

○平日の昼間に勤めに出ている人が増えてきており、地域の方々にサロン協力員として協力していただくことが難しくなっています。そのため、新たな協力員を増やすだけでなく、サロンに参加している方々にも出来る範囲で協力していただくよう働きかける必要があります。

○協力員は継続して何年も関わってもらえるが、サロンの代表者は区の役員等が担っているため、区の役とともに1年～2年位で交代してしまうことが課題です。

○サロン協力員であっても自家用車等での移動が難しい方が多いため、養成講座開催時の送迎を確保することが課題です。

【成果及び課題】

成果：サロン活動に対しての意欲の高まりや地域を越えたネットワークの構築につながっています。また、地域に合った自主運営へのステップアップにもつながっています。

課題：協力員や代表者等の担い手不足や男性の協力員の不足など、人材確保に向けて取り組んでいく必要があります。

【今後の対応】

地域住民に対するサロンの必要性等の周知、協力員に対する情報発信や支援を継続して実施していきたいと考えています。

災害時地域福祉関係者組織化事業

(御前崎市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

これまで、災害時への取組として、市民、企業、ボランティア団体とのネットワークづくりを進めてきたことから、社会福祉協議会への登録数も増え、事業参加への割合も高くなってきています。

しかし、災害時のボランティア活動を円滑に進めていくには、小地域・自主防災レベルにおけるボランティアの理解が必要不可欠であり、また、それぞれの地域において、災害V本部と地域とをつなぎ、ボランティアの窓口を担う役割が必要ではないかと考えました。

【活動の目的・ねらい】

ボランティア活動そのものを幅広い年代層に周知し、小地域における組織化の必要性について、理解を図ります。それにより、ボランティア本部の存在が明確になるとともに、災害時の混乱が少しでも減少し、要援護者支援組織の形成につながるが見込まれます。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

災害ボランティアコーディネーターや地元災害ボランティア団体の協力を得て、地域住民の理解を図るために、説明会(出前講座)の実施及び地域リーダーの育成に努めます。

会場	事業内容	参加者
地区公民館 各自主防災 会場	災害ボランティア活動及び市内活動展開の説明、ボランティアコーディネーター養成講座への参加促進	町内会長、民生委員、防災関係者、保健委員、地域のボランティア

【運営上及び活動上の課題等】

1年で地域防災のトップを担う町内会長が交代する組織であること、地域防災訓練の参加者が固定傾向にあること、災害時ボランティア活動への関心が低いことが課題です。

【成果及び課題】

地区の中にボランティア担当を置き、災害ボランティア本部との連携を図る訓練を、具体化してきた地区が出てきました。これは、大きな前進であると捉えています。

【今後の対応】

全地区において、当初の目標が達成できるよう、引き続き訓練や日頃からの福祉活動を通じた投げ掛けをしていきたいと思えます。

見守りネットワーク推進事業

(湖西市社会福祉協議会)

【活動のきっかけ・背景】

新興住宅地と昔から住んでいる人の地区が混在していることに加え、地域全体で行う行事が少なくなっているため、異世代の人や様々な価値観をもった人が交流する場が減り、地域のつながりが希薄になっています。また、地域との関わりが少なく閉じこもりがちな人や、高齢者世帯・独居高齢者が増え、地域から孤立して援助が必要になっても十分な援助を受けることができない人が増えてきました。そこで、地域の人たちによる見守り活動が必要と考え、見守りネットワークの推進をはじめました。

【活動の目的・ねらい】

援助が必要な人が孤立して、更に深刻な状況にならないよう、地域の人や専門機関等が連携を取り合い、見守り活動ができる体制づくりを行い、支え合う地域づくりを推進することを目的としています。

【活動の内容】(実施場所、対象者、実施方法等)

○活動内容：日常生活の中で、近隣の人たちと専門機関等が連携をとりあい、見守りができる体制づくりを推進すること

○対象者：一人暮らし高齢者、昼間一人になる高齢者で、見守りを希望した人

○活動の流れ

- ・モデル3地区(表鷺津・古見・岡崎)を決め、見守りの意義を説明、活動推進を提案。
- ・平成19年1月、実態把握のため、モデル地区で見守りに関する調査を実施。見守り希望のあった人の中からモデルケース17人を選び、見守りを開始。
- ・民生委員・児童委員、地区役員で調査を実施、見守りネットワーク表を作成
- ・平成21年度、見守り啓発のための講演会を実施
 - ※7/5 支え合いマップづくり研修会 講師 木原 孝久 氏
 - ※7/25 ご近所パワー活用術 講師 鈴木 恵子 氏
- ・見守り啓発のためのチラシを作成
- ・市長寿介護課と連携のとり方について検討

【運営上及び活動上の課題等】

○地域のつながりが薄くなっている中で、隣近所の見守りや声かけの推進について理解を得ることは難しく、活動が停滞するケースもみられました。見守り推進のためには、地域の人との交流の場を多くし、つながりづくりをする必要があると感じました。

○見守り対象者とその協力員のみで見守り推進では、十分な活動が難しく、地域全体の人に見守りの意義を知らせる必要があると考えます。

○見守り活動の推進のためには、名簿等個人情報扱うことが多くなるので、個人情報の管理方法について検討し、共通理解を得る必要があります。

【成果及び課題】

- 見守りネットワークの活動推進のため、見守りネットワーク表をつくったことにより、その人に関わっている見守り協力員がよくわかり、安心感が得られました。
- 見守りネットワーク推進のためには、地域包括支援センターや行政、専門機関等との連携が必要です。連携のとり方や役割分担について、以前より話し合いができるようになっていますが、担当者だけの検討になりやすく、円滑な連携は難しい状況です。

【今後の対応】

- 見守り推進計画は、これまでの実践と反省をもとに見直しを行い、モデル地区以外の推進を検討していきます。
- 地域と行政や地域包括支援センターとの役割分担を明確にし、連携を取り合うことができるよう検討を重ね、見守りネットワークを推進していきたいと考えています。
- 見守りネットワーク推進のため、地域で声をかけあったり、交流できるような活動を充実させ、地域のつながりづくりを推進していきます。

地域福祉活動を始めるときに当たって

私も地域福祉活動に取り組んでみたい！

でもどうやって始めたらいいの？

そのような思いを持っている方も多いと思います。地域福祉活動に限らず、一定の行動を起こし、継続的に実行していくためには、あらかじめ現状を把握し、どこで、誰が、何を、どのようにして行うのかなど、実施計画や方向性を見定めて取り組むことが大切です。

計画の立案から実施までには、様々な手法がありますが、ここでは、地域福祉活動の企画を立てる際に、富士宮市が使用しているシート（参考 日本社会福祉士会 地域包括支援センター ネットワークづくりの「企画シート」）とその活用方法を紹介します。これから地域福祉活動に取り組もうとする方、これまでの活動を振り返ってみようとする方にも参考にしていただければ幸いです。

I 地域福祉活動の立ち上げまでの流れ

活動に取り組むためには、ニーズの確認が必要です。まず、現状分析、次にニーズの特定、そして、ねらい（目的）→期待する効果→具体的な取り組み内容→メンバー→スケジュール→財源確保と、概ねこのような流れが確認できれば、どのような地域福祉活動であっても、円滑に立ち上げることができると思います。

また、活動を立ち上げた後は、取組結果を振り返り、成果や課題を検証することによって、今後の事業も円滑に展開できるものと考えます。

このような流れを押さえていく手法や留意点について説明します。

* 記入上の留意点 *

- ・全ての項目を埋める必要はありません。
- ・予算が係らなければ記入の必要はありません。
- ・地域自らが地域の課題として理解していける取り組みが対象となります。

II 計画内容を設定するための手法、留意点等（シートの各項目を参照してください）

1 現状分析～対象地域の現状～

- 自分たちの生活している地域の数値的データを示して分析します。
＝地域の見立て（現状の課題等から将来予測）を行いません。

2 個別課題～地域における個別課題～

- 地域における個別課題を記入します。このまま、解決しなければ、事故や事件につながる危険性があるかなどの視点で考えてみます。
- 個別課題（孤独死・認知症高齢者の徘徊・悪徳商法被害等）の中で優先的に取り組むべき課題を記入します。

3 ねらい～事業のコンセプト～

- 何故、上記の個別課題を取り上げたのかを明確にする。活動を行なう上での「コンセプト」を記入します。

4 効果～期待する効果～

- 取り組みを行うことによって。どのような効果が予想されるか、または期待するかを記入してください。活動を共にする仲間が、効果を共有することにより取り組みへのインセンティブが働きます。
- こんな地域になったらいいなという思いを込めて考えます。

5 取組み（事業）内容〔予定〕～事業の計画の内容～

- 「取組み（事業）内容」、「ネットワークの内容」、「メンバー／スケジュール・手順／活用ツール（モノ、カネ）」について、具体的に計画し記載します

6 事業主体〔予定〕～メンバー、スケジュール・手順、活用ツール（モノ、カネ）～

- (1) 予定しているメンバー
 - メンバーを選ぶときは、その人に何の役割を担ってもらうかを明確にしておく必要があります。
- (2) 予想スケジュール・手順
 - 5W2H誰が、いつ、どこで、何を、どうする、なぜ？いくら？を意識して記入してください
- (3) 計画時に予定している活用ツール（モノ、カネ）

Ⅲ 取組内容を振り返る（シートの各項目を参照してください）

1 取組み（事業）内容〔実際〕～実施した内容～

- 実施に取り組んだ内容を記入してください。
 - ・事業説明会
 - ・懇談会
 - ・具体的活動等

2 事業主体〔実際〕～メンバー、スケジュール・手順、活用ツール（モノ、カネ）～

- (1) 実際に関わったメンバー
 - 地域住民、自治会役員、社会福祉協議会職員、行政職員等を記入してください。
- (2) 実際のスケジュール・手順
 - 実際に行った内容を時系列で記入してください
- (3) 実際に活用したツール（モノ、カネ）
 - 広報の方法、会場、資料及びそれらにかかった費用等

3 成果と課題～実施後の成果と課題～

- 成果を振り返りながら、新たな課題への取り組みを記入してください。

4 今後の展望・目標～今後の事業展開～

- 新たな課題への取り組みに向けての目標設定や、事業展開を記入してください。

※作成協力 富士宮市地域包括支援センター長 土屋幸己様

企画タイトル 地域に存在するつながりをネットワークに変える

①計画時 (11月 7日記入)
 ②実施後の中間報告 (1月 19日記入)

氏名 江戸 ハルオ (東京支部)

中間課題

① 計画内容を設定する

現状分析

対象地域の現状、数値的データ等

- ・対象地域は担当エリア内の築44年、5階建6棟、全180世帯の市営住宅。住民の平均年齢は70歳を超えている。
- ・約3分の1の世帯にあたる58世帯が独居世帯。その他はすべて高齢者のみ世帯となっている。
- ・古くからの入居者のつきあいはあるが、最近の入居者間には近所つきあいが無い。

個別課題

地域における個別課題

- ・最近立て続けに2件の孤独死が発生し不安が広がっている。
- ・担当民生委員、ケアマネジャー、社会福祉協議会、それぞれから、孤独死が続いたこの市営住宅の今後について心配している声が寄せられている。それぞれがこれまでも取り組んできているが、有機的な連携はとれていない状況。包括支援センターとしてもこのまままで放置しておけないという認識を持っている。

ねらい

ネットワーク構築の取り組み(事業)のコンセプト

- ・地域住民、関係機関がともにそれぞれの認識やこれまでの取り組みを照らし合わせる機会を持つ。
- ・特に役所の関係課も含めた関係機関・団体が地域住民の声を直接聞き、今後について考える機会を持つ。
- ・地域住民の取り組みと関係機関の取り組みが互いに結びつき、連携し、役割分担できるようになる。

効果

期待する効果

- ・独居高齢者や高齢者世帯が多い集合住宅地域にあって、新旧の住民が互いの生活を尊重しながらもつながりを持ち、互いに支えあえる地域になる。
- ・住民自身の取り組みと関係機関の取り組みが互いに連携し、連絡調整することにより、早期に地域包括支援センターをはじめとした関係機関に情報がつながる。

取り組み(事業)内容[予定]

計画内容

- ・既存の取り組みの状況把握
- ・地域の住民と関係機関が顔を合わせ、居住地域への現状認識を照らし合わせ、課題共有、情報交換できる場づくり(小地域ケア会議)
- ・関係機関共通のチラシづくりと住民への配布

ネットワークの内容[予定]

メンバー 予定しているメンバー

- ・自治会(会長、副会長、役員、参加希望者)、民生委員
- ・介護支援専門員協議会・介護サービス事業所
- ・社協
- ・行政機関(高齢者福祉課・住宅課)

スケジュール・手順 予想スケジュール・手順

- ①関係者によるネットワーク会議(小地域ケア会議)の開催
- ②現状の情報交換と今後の互いの連携についての取り決め
- ③関係機関共通のチラシ作成と住民への配布
- ④定期的な情報交換の場の設置

活用ツール(モノ、カネ) 計画時に予定しているツール

- ①ネットワーク会議等の会議費 10000円
- ②チラシ作成費用 5000円
- 計 15000円

② 取り組み結果を振り返る

取り組み(事業)内容[実際]

実施した内容

- ・自治会役員、民生委員、介護支援専門員協議会、社協職員へのヒアリングの実施。
- ・住民と関係者による小地域ケア会議の開催 2回
- ・関係機関共通のチラシ作成と住民への配布 1回

ネットワークの内容[実際]

メンバー 実際に関わったメンバー

- ・自治会(会長、副会長、役員、参加希望者) 11名
- ・介護支援専門員協議会・介護サービス事業所 6名
- ・社協地域担当 2名
- ・行政機関(高齢者福祉課・住宅課) 3名

スケジュール・手順 実際のスケジュール・手順

- ①小地域ケア会議の開催 : 11月20日以降2回
- ②関係機関共通のチラシ作成・配布 : 1月10日以降配布
- ④定期的な情報交換の場の設置 : 今後の小地域ケア会議の開催スケジュールを関係機関で検討

活用ツール(モノ、カネ) 実際に活用したツール

- ①ネットワーク会議等の会議費 1000円
- (自治会集会所を使用し会議費はなし。お茶代1,000円)
- ②チラシ作成費用 2000円
- 計 3000円

成果と課題

実施後の成果と課題

- ・地域住民と関係機関のこれまでの取り組み・活動が、互いの顔がなくなり、情報交換と連携が進んだことで再度活性化してきた。
- ・各関係機関の共通の相談窓口チラシを作成し、配布したことで、相談が入りやすくなった。
- ・住民同士の声かけが多くなり、顔見知りになったことで、個別訪問や実態把握できる世帯が多くなってきた。
- ・行政も含めた機関間の情報交換がスムーズになってきた。 ※今後の小地域ケア会議の定期開催、ネットワークの維持が課題。

今後の展望・目標

今後の事業展開

- ・地域住民と関係機関、そして包括支援センターの職員自身にも無理がない範囲で小地域ケア会議を定期開催し、この地域の課題を情報交換し、検討しあう場づくりを継続していく。団地内の集会所で住民と社協が協働して始める予定の「ふれあいカフェ」が軌道にのるまで関係機関でサポートしていく。

① 計画内容を設定する

現状分析 対象地域の現状、数値的データ等

個別課題 地域における個別課題

ねらい ネットワーク構築の取り組み（事業）のコンセプト

効果 期待する効果

取り組み(事業)内容〔予定〕

計画内容

ネットワークの内容〔予定〕

メンバー 予定しているメンバー

スケジュール・手順 予想スケジュール・手順

活用ツール(モノ、カネ) 計画時に予定しているツール

② 取り組み結果を振り返る

取り組み(事業)内容〔実際〕

実施した内容

ネットワークの内容〔実際〕

メンバー 実際に関わったメンバー

スケジュール・手順 実際のスケジュール・手順

活用ツール(モノ、カネ) 実際に活用したツール

成果と課題

実施後の成果と課題

今後の展望・目標

今後の事業展開

助成金情報

各種団体・基金等による活動資金援助や活動資機材購入費助成・寄贈事業をご紹介します。詳しくは、お近くの社会福祉協議会や県社会福祉協議会にお問い合わせください。

なお、県社会福祉協議会のホームページでも随時情報を提供しています。

基金・団体等の名称	対象	内容	申請時期
「ABCしあわせ基金」 (静岡県社会福祉協議会)	法人格を有する団体	福祉車両の寄贈	1月
「ふれあい基金」 (静岡県社会福祉協議会)	地域福祉・ボランティア活動に取り組んでいる5名以上のグループ、ボランティア団体 (法人は、NPO法人のみ対象)	地域福祉活動・ボランティア活動の活動費・資機材購入費の助成 ①活動推進助成(上限30万円) ②先駆的活動助成(上限100万円)	4月
	地域福祉・在宅福祉の向上に取り組んでいるセルフヘルプグループ (法人は、NPO法人のみ対象)	地域福祉・在宅福祉活動の活動費・資機材購入費の助成	4月
「“赤い羽根”地域福祉活動支援事業」 (静岡県共同募金会)	社会福祉活動を行う非営利の団体・グループ	事業費・資機材購入費の助成	4～5月
「24時間テレビ愛は地球を救う」 (株)静岡第一テレビ他	各種法人(社会福祉・医療・NPO・学校等)、ボランティア団体等	福祉車両(リフト付バス、スロープ付自動車、入浴車、電動車いす等)の寄贈	4～5月
「中日ボランティア賞」 (中日新聞福祉事業団東海支部・中日新聞東海本社)	ボランティア団体等 (NPO法人、学校、個人は対象外)	1団体20万円上限 ※社協の推薦必要	4～5月
みずほ教育福祉財団	高齢者のための活動を行うボランティア団体 (※非法人に限る)	ボランティア活動に直接使用する用具・器具類の購入費として上限10万円を助成	5月
損保ジャパン記念財団	社会福祉の分野で活動し、当年度内にNPO法人の設立を計画している団体	NPO法人設立に関する費用として上限30万円を助成	10～11月
	主として障害者の在宅福祉活動を行う団体	福祉車両購入費の助成 (上限100万円)	9～10月
「愛の都市訪問」 (静岡新聞社・静岡放送)	社会福祉活動を行う福祉団体・グループ等 ※事前説明会に参加のうえ	車両・資機材の贈呈 ※購入費の補助ではない	9月
「年賀寄附金」 (日本郵便)	公益活動を行う団体	施設改修、機器購入、車両購入に関する費用の助成	10～11月
「公益信託スクロール女性ボランティア基金」 (静岡銀行)	障害者および高齢者に対するボランティア活動を行う女性を中心とする団体	事業費・資機材購入費の助成	12月

※内容・時期等は変更される場合がありますので、御注意ください。

市町行政及び社会福祉協議会 連絡先一覧

No.	市町名	行 政		社会福祉協議会
		担当課	電話番号	電話番号
1	下田市	福祉事務所	0558-22-2216	0558-22-3294
2	伊豆市	社会福祉課	0558-72-9862	0558-83-3013
3	伊豆の国市	社会福祉課	0558-76-8006	055-949-5818
4	伊東市	社会福祉課	0557-32-1531	0557-36-5512
5	熱海市	社会福祉課	0557-86-6322	0557-86-6339
6	三島市	福祉総務課	055-983-2610	055-972-3221
7	沼津市	社会福祉課	055-934-4824	055-922-1500
8	御殿場市	社会福祉課	0550-82-4136	0550-70-6801
9	裾野市	社会福祉課	055-995-1819	055-992-5750
10	富士宮市	福祉企画課	0544-22-1457	0544-22-0054
11	富士市	福祉総務課	0545-55-2757	0545-64-6600
12	静岡市	福祉総務課	054-221-1370	054-254-5213
13	焼津市	地域福祉課	054-626-1127	054-621-2941
14	藤枝市	社会福祉課	054-643-3111	054-667-2940
15	島田市	福祉課	0547-36-7158	0547-35-6244
16	牧之原市	社会福祉課	0548-23-0070	0548-52-3500
17	御前崎市	福祉課	0537-85-1121	0548-63-5294
18	菊川市	福祉課	0537-37-1251	0537-35-3724
19	掛川市	福祉課	0537-21-1140	0537-22-1294
20	袋井市	しあわせ推進課	0538-44-3119	0538-42-7914
21	磐田市	社会福祉課	0538-37-4814	0538-37-4824
22	浜松市	福祉総務課	053-457-2326	053-453-0580
23	湖西市	地域福祉課	053-576-4532	053-575-0294
24	東伊豆町	住民福祉課	0557-95-6204	0557-22-1294
25	河津町	保健福祉課	0558-34-1938	0558-34-1286
26	南伊豆町	健康福祉課	0558-62-6273	0558-62-3156
27	松崎町	健康福祉課	0558-42-3966	0558-42-2719
28	西伊豆町	健康福祉課	0558-52-1961	0558-52-1350
29	函南町	福祉課	055-979-8127	055-978-9288
30	清水町	福祉課	055-981-8214	055-981-1665
31	長泉町	福祉保険課	055-989-5512	055-988-3920
32	小山町	福祉課	0550-76-6666	0550-76-9906
33	吉田町	社会福祉課	0548-33-2153	0548-34-1800
34	川根本町	福祉課	0547-58-7071	0547-59-2315
35	森町	保健福祉課	0538-85-1800	0538-85-5769

地域別活動一覧

< 東部地区 >

市町	活動区分	団体名・活動名	ページ
下田市	居場所	大賀茂ほたる便健康教室	2
	見守り	下田小学校区安全会議	44
伊豆市	居場所	NPO法人天城こどもネットワーク	6
	見守り	見守り隊	43
伊豆の国市	見守り	伊豆の国市民生委員児童委員協議会	46
伊東市	居場所	NPO法人 クープ	4
熱海市	つながり	特定非営利活動法人 めぐみ会	94
三島市	つながり	NPO法人 グラウンドワーク三島	96
沼津市	居場所	NPO法人まごころサービス静岡東部センター	10
	見守り	大平地区社会福祉協議会	48
	居場所	精神保健福祉ボランティア沼津ほのぼの会	8
	つながり	NPO法人日本沼津災害救援ボランティアの会	100
裾野市	つながり	裾野市民生委員児童委員協議会	98
御殿場市	福祉教育	富士岡地域福祉推進委員会 富士見原支部	72
富士市	支え合い	家具固定ボランティアグループ 家具やしめ隊	54
南伊豆町	居場所	笑顔会 (ほほえみかい)	12
西伊豆町	つながり	西伊豆いろは組 (西伊豆失語症友の会)	102
	福祉教育	宅老所みんなの家	74
	つながり	賀茂女(かもめ)会	116
	居場所	寄り場まつもと	16
	居場所	ぬくもりの会	14
松崎町	居場所	伊豆・松崎・であい村 蔵ら	42
長泉町	居場所	プレイグループなめり	18
小山町	つながり	ドラムサークル悠遊会	104

< 中部地区 >

静岡市	居場所	官方こども園	30
	居場所	NPO法人 泉の会	20
	居場所	NPO法人 清水ネット	22
	居場所	まちカフェSHIMIZU	28
	支え合い	NPO法人生き生きネットワーク	56
	居場所	地球のこえ	26
	支え合い	駒越地区社会福祉協議会	60
	子育て	生活協同組合コープしずおか	78
	居場所	中山間地子育て支援サークル「みんなのこ」	32
	居場所	NPO法人まちなびや	86
	子育て	ポコアポコ	82
	居場所	駄菓子屋カフェ	24
	子育て	NPO法人だっことおんぶの研究所	80
	支え合い	庵原地区社会福祉協議会 (福祉なんでも相談窓口)	58
	子育て	庵原地区社会福祉協議会 (庵原子どもボランティア隊)	76

焼津市	支え合い	浪蔵劇団	62
藤枝市	支え合い	大洲地区社会福祉協議会	64
	つながり	社会福祉法人ハルモニア	106
島田市	子育て	島田市第三小学校区地区社会福祉協議会	88
	子育て	しまだ次世代育成支援ネットワーク	90
	子育て	まいせるふ	84
牧之原市	つながり	ありがとうのこだま	117
御前崎市	つながり	NPO法人ベアーズ	108
川根本町	見守り	川根本町赤十字奉仕団	50

<西部地区>

菊川市	つながり	そんだもんで東（小笠東地区地域サポーターグループ）	110
掛川市	見守り	西山口地区福祉協議会	52
	居場所	ママサロンはな	34
袋井市	居場所	NPO法人 たすけあい遠州	36
	支え合い	浅羽東地区地域福祉推進委員会	66
磐田市	つながり	南部地区民生委員児童委員協議会	112
浜松市	居場所	NPO法人ねっとわあくアミダス（オープンカフェきじの杜）	38
	支え合い	NPO法人ねっとわあくアミダス	70
	居場所	上阿多古地区社会福祉協議会	40
	支え合い	蒲地区社会福祉協議会	68
湖西市	子育て	NPO法人ポレポレ	92
	つながり	湖西市社会福祉協議会	114